

no. 27

令和5年度 2023.4-2024.3

令和5年度コレクション展



第1回

■
[前期] 令和5年4月15日(土)～6月11日(日) 50日間
[後期] 令和5年6月13日(火)～8月20日(日) 60日間
展示室1

新収蔵作品や描かれたモチーフなど、3章それぞれにテーマを設け、鑑賞の切り口としました。

序章. 土谷 武

展示室1の約4分の1程度のスペースを用いて大型の彫刻作品である土谷武《開放 IV》を展示しました。新しく導入したLED照明を用いたことで、重い鉄板であるにも関わらず浮かび上がるように軽やかな本作の造形が際立つ展示となりました。テープによる結界を採用し、来館者が作品に近づいたり、周囲を自由に歩いたりすることができるようにしました。

I. 新収蔵《オリンピック・ミュンヘン大会》を中心に
近代オリンピック史上最高峰と名高いミュンヘン大会のデザインチームを率いたドイツのデザイナー、オト

ル・アイヒャー [1922～91]による《オリンピック・ミュンヘン大会》ポスター群(令和4年度新収蔵作品)を初公開しました。併せてアイヒャーらと共にウルム造形大学を設立したマックス・ビルによるポスターや、オリンピック・ミュンヘン大会と同じくデザイン史上重要な意味をもつ1964年オリンピック東京大会の関連作品として、亀倉雄策《オリンピック東京大会 公式ポスター》1～4号、勝見 勝《オリンピック東京大会デザイン・ガイド・シート》を紹介しました。

II. 世界・日本の美術

当館のコレクションから、世界・日本の美術を時代の流れに沿って展示しました。美術のあり方に疑問を抱いた世界中の芸術家がそれぞれ新しい表現に挑

戦した20世紀の西洋美術から、野獣派(フォーヴ)の一人であるラウル・デュフィ、自身の恋人をモチーフに鮮やかな色彩で愛の神話を描いたマルク・シャガール、ダダイズムの懐疑的な精神を受け継いで台頭したシュルレアリスムからはルネ・マグリットの作品を紹介しました。日本美術では、日本近代洋画の父と称される高橋由一に加え、「日本人が描くべき油彩画とは何か」という時代的な課題について模索した浅井忠、黒田清輝らの作品を取り上げ、美術ファンではない来館者にもわかりやすく、かつ見応えのある展示を目指しました。

III. 耳を澄まして

「貝」というモチーフに着目し、その伝統的な意味を

引き継ぐラウル・デュフィ 《ヴィーナスの誕生》や、造形的な魅力を紹介する《雑誌『ウェンディンヘン』5巻8・9号(貝の造形的世界)》、そして貝殻と蝶のいる幻想的な風景を好んで描いた日本におけるシュルレアリスムの画家・三岸好太郎など、様々な切り口から「貝」にまつわる作品を紹介しました。

[担当] 黒木彩香

No.	作家名／デザイナー名	作品名	制作年	技法、素材	寸法(cm)	展示期間
序章.						
1	土谷 武	開放 IV	1998年[平成10年]	軟鋼、鋳造、溶接	269.5×420.0×410.0	
I. 新収蔵《オリンピック・ミュンヘン大会》を中心に						
1		【資料】ヴィジュアルデザインに関するガイドラインと基準	2019年		31.8×25.8	
2	オトル・アイヒャー	オリンピック・ミュンヘン大会 開催ポスター	1970年	オフセット、紙	84.1×59.4	前期
3	オトル・アイヒャー	オリンピック・ミュンヘン大会 競技日程	1971年	オフセット、紙	84.1×59.4	前期
4	オトル・アイヒャー	オリンピック・ミュンヘン大会 競技ポスター(バスケットボール)	1971年	オフセット、紙	84.1×59.4	前期
5	オトル・アイヒャー	オリンピック・ミュンヘン大会 競技ポスター(カヌー・スラローム)	1971年	オフセット、紙	84.1×59.4	前期



No.	作家名／デザイナー名	作品名	制作年	技法、素材	寸法(cm)	展示期間
6	オトル・アイヒャー	オリンピック・ミュンヘン大会 競技日程競技ポスター(ボクシング)	1971年	オフセット、紙	84×59.4	前期
7	オトル・アイヒャー	オリンピック・ミュンヘン大会 競技ポスター(ヨット)	1970年	オフセット、紙	84.4×61.2	後期
8	オトル・アイヒャー	オリンピック・ミュンヘン大会 競技ポスター(レスリング)	1971年	オフセット、紙	84.1×59.2	後期
9	オトル・アイヒャー	オリンピック・ミュンヘン大会 競技ポスター(体操)	1970年	オフセット、紙	84.2×59.4	後期
10	オトル・アイヒャー	オリンピック・ミュンヘン大会 競技ポスター(馬術)	1970年	オフセット、紙	84.1×59.4	後期
11	オトル・アイヒャー	オリンピック・ミュンヘン大会 競技ポスター(陸上競技)	1970年	オフセット、紙	84.4×59.6	後期
12	勝見 勝	オリンピック東京大会 デザイン・ガイド・シート	1964年[昭和39年]	活版、オフセット、紙	26.3×24.9	
13	亀倉雄策	オリンピック東京大会 公式ポスター第1号	1961年[昭和36年]	グラビア、紙	102.0×55.0	
14	亀倉雄策	オリンピック東京大会 公式ポスター第2号	1962年[昭和37年]	グラビア、紙	103.5×72.5	
15	亀倉雄策	オリンピック東京大会 公式ポスター第3号	1963年[昭和38年]	グラビア、紙	103.5×72.5	
16	亀倉雄策	オリンピック東京大会 公式ポスター第4号	1964年[昭和39年]	グラビア、紙	104.0×72.7	
17	ハンス・フォン・クリアー	ハンス・フォン・クリアーによる木製玩具展 ポスター	1962年	リトグラフ、紙	35.0×41.0	
18	ハンス・フォン・クリアー	木製玩具	1958年	木	サイズ可変	
19	ハンス・フォン・クリアー	木製玩具	1958年	木	サイズ可変	
20	ハンス・フォン・クリアー	木製玩具	1958年	木	サイズ可変	
21	ハンス・フォン・クリアー	木製玩具	1958年	木	サイズ可変	
22	ハンス・フォン・クリアー	木製玩具	1958年	木	サイズ可変	
23	ハンス・フォン・クリアー	木製玩具	1958年	木	サイズ可変	
24	ハンス・フォン・クリアー	木製玩具	1958年	木	サイズ可変	
25	マックス・ビル	マックス・ビル展 ポスター	1961年	リノカット、紙	99.8×70.0	前期
26	マックス・ビル	第25回モントルー国際ジャズ・フェスティヴァル ポスター	1991年	シルクスクリーン、紙	100.0×70.0	前期
27	マックス・ビル	展覧会「マルセル・デュシャンを巡るドキュメンテーション」ポスター	1960年	リノカット、紙	127.9×90.4	後期
28	マックス・ビル	展覧会「具体芸術50年の歩み」ポスター	1960年	リノカット、紙	127.8×90.5	後期
29	ラースロー・モホイ＝ナジ	『ケストナーマップ6 構成』(6点組)より(タイトルなし)	1923年	リトグラフ、紙	60.5×44.5	前期
30	ラースロー・モホイ＝ナジ	『ケストナーマップ6 構成』(6点組)より(タイトルなし)	1923年	リトグラフ、紙	60.5×44.5	前期
31	ラースロー・モホイ＝ナジ	『ケストナーマップ6 構成』(6点組)より(タイトルなし)	1923年	リトグラフ、紙	60.5×44.5	前期
32	ラースロー・モホイ＝ナジ	『ケストナーマップ6 構成』(6点組)より(タイトルなし)	1923年	リトグラフ、紙	60.5×44.5	後期
33	ラースロー・モホイ＝ナジ	『ケストナーマップ6 構成』(6点組)より(タイトルなし)	1923年	リトグラフ、紙	60.5×44.5	後期
34	ラースロー・モホイ＝ナジ	『ケストナーマップ6 構成』(6点組)より(タイトルなし)	1923年	リトグラフ、紙	60.5×44.5	後期
35	パウル・クレー	新バウハウス叢書 教育スケッチブック	1965年	印刷、紙	25.8×18.5	
36	パウル・クレー	上昇	1925年	水彩(吹き付け)	44.0×29.5	
37	ワシリー・カンディンスキー	浮遊	1927年	油彩、カードボード	45.9×54.0	

No.	作家名／デザイナー名	作品名	制作年	技法、素材	寸法（cm）	展示期間
38	ワシリー・カンディンスキー	バウハウス叢書 第9巻 点と線から面へ	1926年	印刷、紙	23.6×18.8	
II. 世界・日本の美術						
39	高橋由一	中洲月夜の図	1878年[明治11年]	油彩、キャンヴァス	51.0×114.8	
40	ジョルジュ・ビゴー	《熱海の海岸》あるいは《熱海にて、日本の漁師たち》	1888年頃	油彩、キャンヴァス	72.9×162.1	
41	浅井 忠	曼珠沙華	1904年[明治37年]	油彩、キャンヴァス	46.0×33.5	
42	黒田清輝	夏図習作(横たわる女)	1892年頃[明治25年頃]	油彩、キャンヴァス	31.7×78.7	
43	安井曾太郎	京城府	1936～1938年[昭和11～13年]	油彩、キャンヴァス	51.5×62.0	
44	長谷川利行	上野廣小路附近	1936年[昭和11年]	油彩、キャンヴァス	31.5×41.2	
45	村山知義	赤い着物の女の子	1922年[大正11年]	油彩、キャンヴァス	91.3×65.3	
46	山口 薫	画室の首	1950年[昭和25年]	油彩、キャンヴァス	99.6×80.4	
47	ラウル・デュフィ	ラングル風景	1933年	油彩、キャンヴァス	38.0×46.2	
48	ラウル・デュフィ	ティンパニー奏者とオーケストラ	1946年	油彩、キャンヴァス	33.2×41.2	
49	マルク・シャガール	青い恋人たち	1948～1953年	油彩、キャンヴァス	76.0×60.0	
50	ワシリー・カンディンスキー	版画集『言葉なき詩』	1903年	木版、紙	33.5×25.7	
51	ワシリー・カンディンスキー	年鑑『青騎士』	1912年	印刷、紙	29.6×22.6	
52	ルネ・マグリット	大家族	1963年	油彩、キャンヴァス	100.5×81.2	
53	ルネ・マグリット	夢	1945年	油彩、キャンヴァス	83.0×69.2	
III. 耳を澄まして						
54	三岸好太郎	三岸好太郎筆彩素描集『蝶と貝殻』表紙・中表紙・裏表紙	1934年[昭和9年]	印刷、紙	各30.2×22.5	
55	三岸好太郎	三岸好太郎筆彩素描集『蝶と貝殻』より『蝶と貝殻』に就いて	1934年[昭和9年]	印刷、紙	30.2×22.5	
56	三岸好太郎	三岸好太郎筆彩素描集『蝶と貝殻』より旅愁	1934年[昭和9年]	印刷、手彩色(水彩)、紙	30.2×22.5	前期
57	三岸好太郎	三岸好太郎筆彩素描集『蝶と貝殻』よりヒマラヤ杉と蝶	1934年[昭和9年]	印刷、手彩色(水彩)、紙	30.2×22.5	前期
58	三岸好太郎	三岸好太郎筆彩素描集『蝶と貝殻』より蛾	1934年[昭和9年]	印刷、手彩色(水彩)、紙	30.2×22.5	前期
59	三岸好太郎	三岸好太郎筆彩素描集『蝶と貝殻』より海洋を渡る蝶	1934年[昭和9年]	印刷、手彩色(水彩)、紙	30.2×22.5	前期
60	三岸好太郎	三岸好太郎筆彩素描集『蝶と貝殻』より海と射光	1934年[昭和9年]	印刷、手彩色(水彩)、紙	30.2×22.5	前期
61	三岸好太郎	三岸好太郎筆彩素描集『蝶と貝殻』よりヴィーナスと蝶	1934年[昭和9年]	印刷、手彩色(水彩)、紙	30.2×22.5	後期
62	三岸好太郎	三岸好太郎筆彩素描集『蝶と貝殻』より雲の上の蛾	1934年[昭和9年]	印刷、手彩色(水彩)、紙	30.2×22.5	後期
63	三岸好太郎	三岸好太郎筆彩素描集『蝶と貝殻』より貝殻	1934年[昭和9年]	印刷、手彩色(水彩)、紙	30.2×22.5	後期
64	三岸好太郎	三岸好太郎筆彩素描集『蝶と貝殻』より花と蝶	1934年[昭和9年]	印刷、手彩色(水彩)、紙	30.2×22.5	後期
65	三岸好太郎	三岸好太郎筆彩素描集『蝶と貝殻』より蝶と蝶	1934年[昭和9年]	印刷、手彩色(水彩)、紙	30.2×22.5	後期
66	殿敷 侃	ホシダカラ貝	1978年[昭和53年]	エッチング、紙	9.5×9.7*	
67	リシャルト・ロラント・ホルスト	雑誌『ウェンディンヘン』 5巻 8・9号(特集:貝の造形的世界)	1923年	リトグラフ、印刷、紙、ラフィア	33.1×33.4	
68	ラウル・デュフィ	ヴィーナスの誕生	1937年	油彩、板	16.0×41.0	
69	亀倉雄策	三菱製紙株式会社1965年カレンダー	1965年[昭和40年]	オフセット、紙	60.0×36.0	
70	鈴木保徳	島にて	1937年[昭和12年]	油彩、キャンヴァス	128.0×194.0	

*寸法は、イメージサイズを表記

第2回

■

〔前期〕令和5年8月31日(木)～10月22日(日) 46日間

〔後期〕令和5年10月24日(火)～12月22日(金) 52日間

展示室1

3章それぞれにテーマを設け鑑賞の切り口としながら、全体を通して当館の収集方針に従い「地域と美術」(世界の美術、日本の美術、宇都宮ゆかりの美術)「生活と美術」(デザイン作品)を概観しました。

I. さえずり はばたき

絵画のモチーフとして頻出する「鳥」に着目し、鳥にまつわる作品を紹介しました。たびたび作品に鳥を登場させるルネ・マグリット、幾何学的な線で幾度も鳥を描いた下村良之介、カラスや鳩を自身の人生と重ねた柳原義達など、それぞれの視点で鳥を重要なモチーフとして見つめていた作家らを取り上げました。また、旧約聖書の「創世記」を典拠に平和の象徴として知られる鳩に注目し、田中一光や早川良雄らによるポスター《ヒロシマ・アビールズ》に鳩が描かれている理由を紹介しました。

II. 横山潤之助とその周辺

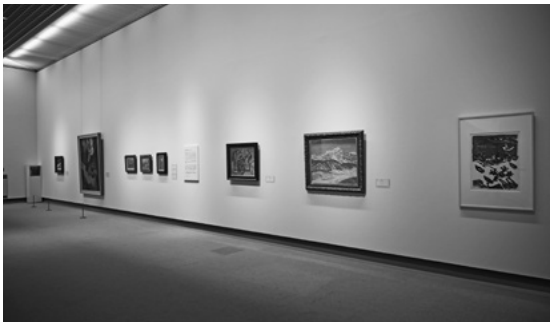
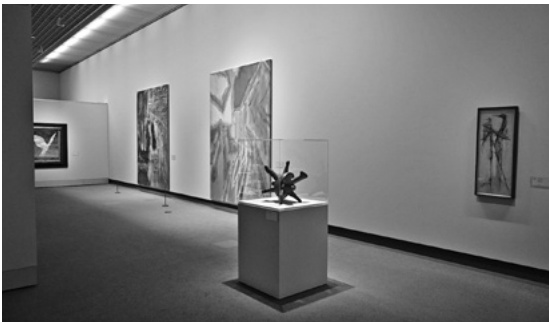
令和5年に生誕120周年を迎えた横山潤之助の作品と、横山の在籍した画塾や団体に注目しながら、そ

の周辺作家による作品をあわせて紹介しました。横山は若くして画家としての確固たる地位を築く一方で、これまでの順風満帆な画家としての人生を顧みるようになり徐々に公募展から距離を置くようになります。当館が所蔵する3点の横山作品は内省的になっていく当時のものであり、そのことに触れながらパネルで作家の略歴を紹介するなど、その人生に着目した展示を行いました。

III. マシン・エイジ

デザイン史上において「マシン・エイジ(機械時代)」と呼ばれる1918年から1941年頃のアメリカで流行した流線型と、ペークライト等の新素材を用いたプロダクト・デザインの作品を紹介しました。当時流行した壁紙の色を展示室壁面の塗装に反映し、これらの作品が実際に生活空間で使用されていた様子が想像できるようにしました。

〔担当〕 黒木彩香



No.	作家名／デザイナー名	作品名	制作年	技法、素材	寸法(cm)	展示期間
I. さえずり はばたき						
1	米陀 寛	鳥とかき	1950年代	顔料、絹本	44.0×48.0	
2	ジョルジュ・ビゴー	鳥	制作年不詳	ペン、色鉛筆、鉛筆、紙	10.6×13.7	前期
3	川村清雄	花鳥図	1927年頃〔昭和2年頃〕	油彩、キャンヴァス	68.2×136.5	前期
4	塚原哲夫	鳥と山葡萄	1996年〔平成8年〕	リトグラフ、アルシュ紙	43.5×60.6*	前期
5	ラウル・デュフィ	船、鳥、泳ぐ人々	1925年	油彩、キャンヴァス	28.0×40.0	前期
6	セルジオ・テレス	パリ(Ⅰ)	1980年	リトグラフ、アルシュ紙	21.3×11.6*	前期
7	セルジオ・テレス	パリ(Ⅰ)	1980年	リトグラフ、アルシュ紙	20.0×24.5*	後期
8	セルジオ・テレス	パリ(Ⅰ)	1980年	リトグラフ、アルシュ紙	21.2×8.2*	後期
9	斉藤和三郎	小鳥(『刀』第1期第2輯)	1928年〔昭和3年〕	木版	27.4×20.1	後期
10	黒田征太郎	鳥(Q)	1982年〔昭和57年〕	リトグラフ、アルシュ紙	10.5×16.7*	前期
11	黒田征太郎	鳥(I)	1982年〔昭和57年〕	リトグラフ、アルシュ紙	10.7×18.2*	前期
12	黒田征太郎	鳥(K)	1982年〔昭和57年〕	リトグラフ、アルシュ紙	9.5×14.3*	前期



No.	作家名／デザイナー名	作品名	制作年	技法、素材	寸法（cm）	展示期間
13	黒田征太郎	鳥（G）	1982年〔昭和57年〕	リトグラフ、アルシュ紙	9.9×17.3*	後期
14	黒田征太郎	鳥（R）	1982年〔昭和57年〕	リトグラフ、アルシュ紙	10.8×18.0*	後期
15	黒田征太郎	鳥（H）	1982年〔昭和57年〕	リトグラフ、アルシュ紙	8.0×13.3*	後期
16	黒田征太郎	鳥（O）	1982年〔昭和57年〕	リトグラフ、アルシュ紙	8.5×22.3*	後期
17	木村直道	だちょう	1967～1971年頃 〔昭和42～46年頃〕	鉄、木	44.8×18.5×21.0	
18	木村直道	だちょう	1967～1971年頃 〔昭和42～46年頃〕	鉄	38.3×10.3×25.5	
19	木村直道	みみづく	1967～1971年頃 〔昭和42～46年頃〕	鉄	43.5×24.0×26.0	
20	マルク・シャガール	小鳥狩り （リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』より）	1957～1960年	リトグラフ、アルシュ紙	42.0×64.0	
21	フリッツ・ヘルムート・エームケ	皇帝も国民も陸海軍に感謝せり	1918年頃	リトグラフ、紙	60.0×44.0	前期
22	ヴォイチェク・ファンゴール ヘンリク・トマシェヴスキ	5月1日：世界に平和を、人々に自由を	1953年	オフセット、紙	96.3×68.2	後期
23	田中一光	ヒロシマ・アビールズ 1988	1988年〔昭和63年〕	オフセット、紙	103.0×72.8	前期
24	栗津 潔	ヒロシマ・アビールズ 1984	1984年〔昭和59年〕	オフセット、紙	103.0×72.8	前期
25	早川良雄	ヒロシマ・アビールズ 1986	1986年〔昭和61年〕	オフセット、紙	103.0×72.8	後期
26	大貫卓也	ヒロシマ・アビールズ 2021 特別出品：公益社団法人日本グラフィックデザイン協会蔵	2021年〔令和3年〕	オフセット、紙	103.0×72.8	後期
27	田中恭吉（画） 恩地孝四郎（刻）	病鳥（『月映』第6号より）	1915年〔大正4年〕	木版、紙	26.0×19.5×2.5	
28	下村良之介	脚の長いとり	1959年〔昭和34年〕	顔料、墨、紙、額	100.0×37.8	
29	建畠覚造	鳥	1952年〔昭和27年〕	ブロンズ	45.0×43.0×52.0	
30	柳原義達	風の中の鴉	1981年〔昭和56年〕	ブロンズ	55.6×32.5×95.0	
31	中村一美	存在の鳥 240（Acanthis flammea）	2008～2009年 〔平成20～21年〕	油彩、白亜地、綿布	292.2×218.0	
32	中村一美	存在の鳥 239（Erithacus cyanurus）	2008～2009年 〔平成20～21年〕	アクリル、綿布	292.2×218.0	
33	ルネ・マグリット	大家族	1963年	油彩、キャンヴァス	100.5×81.2	
34	河北秀也	鳥の自由を思っています。 iichiko	1997年〔平成9年〕	オフセット、紙	145.2×103.0	前期
35	河北秀也	名残の海へ。 iichiko	1997年〔平成9年〕	オフセット、紙	145.2×103.0	前期
36	河北秀也	雲雀 iichiko	1988年〔昭和63年〕	オフセット、紙	145.2×103.0	後期
37	河北秀也	昏暮、散策。 iichiko	1998年〔平成10年〕	オフセット、紙	145.2×103.0	後期
II. 横山潤之助とその周辺						
38	藤島武二	エチュード（『方寸』第5巻第1号）	1911年〔明治44年〕	ジंक版、紙	30.2×22.5	
39	新海覚雄	中国服の婦人像	1920年代後半〔昭和初期〕	油彩、キャンヴァス	80.6×65.4	
40	新海覚雄	横たわる裸婦	1926年〔大正15年〕	油彩、キャンヴァス	61.0×91.2	
41	平福百穂	窮民（『方寸』第3巻第5号）	1909年〔明治42年〕	石版、紙	30.7×22.9	前期



No.	作家名／デザイナー名	作品名	制作年	技法、素材	寸法（cm）	展示期間
42	平福百穂	観音堂横（『方寸』第3巻第8号）	1909年〔明治42年〕	ジंक版、紙	30.8×22.6	前期
43	平福百穂	碇泊（『方寸』第2巻第6号）	1908年〔明治41年〕	石版、紙	31.5×22.9	後期
44	平福百穂	1月（方寸画暦 四十弐年）	1908年〔明治41年〕	石版、紙	19.2×12.0	後期
45	野口弥太郎	御宿の海	1974年〔昭和49年〕	リトグラフ、アルシュ紙	62.0×47.0*	
46	横山潤之助	妹 淑子の像	1924年頃〔大正13年頃〕	油彩、板	32.0×23.2	
47	横山潤之助	風景	1924頃〔大正13年〕	油彩、板	23.1×32.5	
48	横山潤之助	湯河原風景	1926年 〔大正15年頃/昭和元年〕	油彩、キャンヴァスボード	23.5×32.5	
49	神原 泰	この苦しみに われは いのちをかけたり	1922年〔大正11年〕	油彩、キャンヴァス	162.3×130.5	
50	神原 泰	海浜にて	1936年〔昭和11年〕	油彩、キャンヴァスボード	37.1×44.5	
51	海老原喜之助	十字架から降ろされるキリスト	1950年頃〔昭和25年頃〕	油彩、キャンヴァス	50.0×60.7	
52	海老原喜之助	雪	1930年頃〔昭和5年頃〕	油彩、キャンヴァス	65.0×80.2	
53	浅野孟府	裸婦	1925年〔大正14年〕	テラコッタ	19.5×18.0×12.5	
54	岡本唐貴	石切場	1960年〔昭和35年〕	油彩、キャンヴァス	45.5×53.0	
III. マシン・エイジ						
55	リーノ・サバティエーニ	コーヒー&ティー・セット「コモ」	1956年	銀、藤	ティーポット 13.5×29.0×7.0 コーヒーポット 21.5×15.0×6.5 ミルクポット 11.5×8×3.0 シュガーボウル 7.0×10.5×9.0	
56	ラッセル・ライト	ビッチャー	1937年	陶器、施釉	26.7×21.6×17.8	
57	ソーレン・ハンセン	コーヒーポット	1955年	銀、黒檀	24.0×24.0×8.0	前期
58	ピーター・シュラムボーム	湯沸し器	1949年	ガラス、コルク	25.2×20.8×Φ20.8	前期
59	ピーター・シュラムボーム	コーヒー・メーカー	1941年	ガラス、木、皮紐	24.4×16.8×15.8	前期
60	レイモンド・バートン	ジャガイモ焼き器「トップ・オ・ストーヴ」	1937年頃	アルミニウム	10.2×17.8×10.2	前期
61	デザイナー名不詳	クリーム泡立て器	1935年	アルミニウム、ベークライト	17.8×8.9	前期
62	ザ・カロ・ショップ	卵ゆで器	1918年頃	銀、黒檀	15.5×18.0×12.5	後期
63	ノーマン・ベル・グッデス	カクテル・シェーカー	1930年頃	青銅、クローム・メッキ塗装	27.9×7.6	後期
64	バー・ベル社	バーベル形カクテル・シェーカー（スタンド付き）	1933年	ステンレス・スチール、クローム・メッキ塗装	17.8×27.9×7.6	後期
65	クロメックス	カクテル・シェーカー 「コンガ」	1935年頃	アルミニウム、ベークライト	27.9×15.2×8.9	後期
66	ノーマン・ベル・グッデス	サイフォン・ボトル「ソーダ・キング」(黒)	1935年頃	金属、エナメル塗装、スチール、クローム・メッキ塗装、ゴム	25.4×10.8	後期
67	ノーマン・ベル・グッデス	サイフォン・ボトル「ソーダ・キング」(オレンジ)	1935年頃	金属、エナメル塗装、スチール、クローム・メッキ塗装、ゴム	25.4×10.8	
68	ノーマン・ベル・グッデス	サイフォン・ボトル「ソーダ・キング」(青)	1935年頃	金属、エナメル塗装、スチール、クローム・メッキ塗装、ゴム	25.4×10.8	
69	ラルマック社	アイスクリーム・メーカー モデルA-45「スムージィ」	1935年頃	アルミニウム	25.4×7.6	
70	シルヴァーアイス社	アイス・ボール	1934年	銀、ニッケル・メッキ塗装	各φ3.8	
71	ルーレル・ギルド	「ウェアー・エヴァー」ケトル	1934年	アルミニウム、ベークライト	17.8×24.1×17.8	



No.	作家名／デザイナー名	作品名	制作年	技法、素材	寸法（cm）	展示期間
72	ルーレル・ギルド	塩・胡椒入れ	1933年	アルミニウム	各7.0×φ2.5	
73	メラミン社	トレイ	1932年	ベークライト、アルミニウム	1.2×38.1	
74	ウィリアム・レスケイズ	塩・胡椒入れ	1934～1935年	アルミニウム、金属	各4.5×5.0×1.5	
75	クロッカー・ホーラー・エレクトリック・マニュファクチャリング社	電気トースター「トーストレーター」モデル」	1939年	スチール、クローム・メッキ塗装、ベークライト	25.4×30.5×10.2	
76	ラッセル・ライト	フロア・ランプ	1935年頃	アルミニウム、木	161.3×30.5	
77	ドナルド・デスキー	カクテル・テーブル(青)	1930年	スチール、クローム・メッキ塗装、ベークライト、アルミニウム	73.7×61.0×61.0	
78	ドマート社	裁縫箱(茶)	1932年頃	ベークライト	10.2×24.5	
79	クリストファー・カー	携帯用電気アイロン「スムージィ」	1946年	ベークライト、スチール、クローム・メッキ塗装	6.4×6.4×16.5	
80	WASP(ワルター・A. シーファー・ベン)社	インク壺(ペン付き)「ライト・オ・ウェイ」	1938年	ベークライト、ガラス	15.2×20.3×10.2	
81	エドワード・ホフマン	電動鉛筆削り	1940年	ベークライト、スチール	14.5×9.0×20.0	
82	チェイス真鍮・銅器製造社	花器「カリックス」	1935年頃	真鍮	19.1×14.0	
83	ピーター・オースティン・マニュファクチャリング社	マグナジェクター(拡大プロジェクター) MJ 100	1950年代	ベークライト、金属	20.3×10.2×25.4	
84	サイモン・デ・ヴォルチア	ケース入り懐中時計	1934年頃	ベークライト、金属	1.9×7.6	
85	ヴァルター・フライン	電話機 W28	1928年	ベークライト、金属	24.0×16.3×16.3	
86	コーニング・ガラス製造社、 ソーンダース機器製造社	電気アイロン モデル1038 「シルヴァー・ストリーク(銀の稲妻)」	1942～1943年	スチール、クローム・メッキ塗装、ガラス	15.2×10.2×22.9	
87	エスターブルック・ベン社	インク壺 407	1933年頃	ベークライト、ガラス、スチール	5.1×10.2×14.0	
88	クラレンス・ケネディ	デスク・ランプ No.112(茶)	1937年	ベークライト、スチール	19.1×21.6×21.6	
89	ドナルド・デスキー	フロア・ランプ	1935年頃	アルミニウム、木	167.6×30.5	
90	イサム・ノグチ ユージン・F・マクドナルド	ベビー・モニター受信・拡声機「ラジオ・ナース」 (集音・送信機「ガーディアン・イア」付き)	1937年	ベークライト、金属	「ラジオ・ナース」 21.0×16.0×14.5 「ガーディアン・イア」 15.6×10.6×20.7	
91	ウォルター・ドーウィン・ティーズ	カメラ「ブロウニー・ホークアイ」	1949年	ベークライト、スチール、ガラス	11.4×11.4×10.2	
92	D.A.サットン社	電動マッサージ器「ローラレイ」	1935年	ベークライト、ゴム	17.8×11.4×20.3	
93	カレル・メース	1939年ニューヨーク万国博覧会ベルギー館	1938年	リトグラフ、紙	99.0×62.0	
94	ボール・コラン	アメリカ都市・住宅建設技術博覧会1939-194X	1946年	リトグラフ、紙	39.0×28.0	

* 寸法は、イメージサイズを表記

第3回

■
令和6年3月1日(金)～令和6年4月7日(日) 33日間
展示室1

「見る」ということを全体のテーマとして掲げ、視覚による認識・経験と美術作品の関係を考える機会となるような展示を構成しました。

I. 見た目にだまされるな？

「見た目にだまされるな」などと戒めのようなことを口にすることもあります。見た目にだまされるのは時には大変心地よい体験となります。あたかもそこに存在するかのように本物そっくりに描かれた絵画を展示し、驚きと興奮を味わっていただきました。

II. 健全な精神は健全な肉体に宿る？

「健全な精神は健全な肉体に宿る」という格言めい

たことばは典拠となる詩の誤訳であったことが知られていますが、この誤訳に見られるような内面と外見の一致という考え方は美術の世界では長らくひとつの「お約束」ようになっていました。「お約束」が徐々に乗り越えられていった近代以降にはさまざまな肉体表現が生まれていきます。「健全／不健全」という単純な対立軸を超えて楽しむことのできる味わい深い表現を楽しんでいただきました。

III. 人は見た目が何割？

外見はその人の社会的な立場やスタンスの表現となる場合がありますが、外見のみから判断して内面的



な事柄を決めつけられたり、社会的な立場を理由に非合理的な根拠に基づいて装いを強制されたりすることに不快感を抱いた経験のある人も少なくないことでしょう。一方で、いざその外見を取り除いた自分に確固たる何かがあるのかと問われれば、非常に心許ない気持ちになるようにも思われます。美術作品を通じて、表面的な装いとアイデンティティとの関係を考える場を作りました。

IV. 美術は見た目が何割？

一般に、近代的な博物館・美術館は資料や作品を「見る」場所ですが、そこに展示されている資料や作

品は必ずしも「見られる」ために生まれてきたものばかりではありません。また、見るために作られた美術作品であっても、その鑑賞に際しては視覚以外の感覚にまで響いてくることがあります。「見る」ということのみには止まりえないような作品鑑賞体験を通じて、視覚とその他の感覚や経験との関係を考えるような展示を構成しました。

[担当] 藤原 啓

No.	作家名／デザイナー名	作品名	制作年	技法、素材	寸法（cm）
I. 見た目にだまされるな？					
1	川村清雄	花鳥図	1927年頃	油彩、キャンヴァス	68.2×136.5
2	益子 洋	灯台風景	1970年代	水彩、紙	116×80
3	益子 洋	モンマルトルの一隅	1988年	水彩、紙	96×130
4	ラウル・デュフィ	ピエール・ジェスマール氏の肖像	1932～1938年頃	油彩、キャンヴァス	115.8×89
5	寺島龍一	アンダルシアの宴	1992年	油彩、キャンヴァス	130×194.5
6	ルネ・マグリット	夢	1945年	油彩、キャンヴァス	83×69.2
7	ヘルベルト・ロイビン	たっぷり洗えるシュタインフェルスの洗濯石鹸	1943年	リトグラフ、紙	127.9×91.3
8	五月女幸雄	クリスタル・サイレンス	1979～1980年	油彩、キャンヴァス	162×162
9	上田 薫	壊れた玉子 A	1989年	リトグラフ、アルシュ紙	54×74
10	上田 薫	スプーンのジェリー	1985年	リトグラフ、アルシュ紙	41.2×67
11	上田 薫	ピーマンにナイフ	1987年	リトグラフ、アルシュ紙	74×54
II. 健全な精神は健全な肉体に宿る？					
12	上野山清貢	ヴァン・マリアとその息子	1925年	油彩、キャンヴァス	116.5×91
13	清水登之	丘に憩う	1933年	油彩、キャンヴァス	180×300
14	里見勝蔵	裸女	1927年頃	油彩、キャンヴァス	60.6×79.9
15	真道黎明	踊る女	1922年	顔料、絹	42.8×41
16	秦 テルヲ	無題	1917年	顔料、キャンヴァス、額	45.7×53.6



No.	作家名／デザイナー名	作品名	制作年	技法、素材	寸法（cm）
17	村山知義	赤い着物の女の子	1922年	油彩、キャンヴァス	91.3×65.3
18	齋藤誠治	Belle of Romance	2004年	大理石	89.5×48.5×64
19	ヤツェック・スロカ	黙示録的風景	1991年	インク、紙	32×34
20	ヤツェック・スロカ	頭	1998年	銅版、紙	65×49.7
21	コフィ・コマール	あらそい	制作年不詳	アクリル、ミクストメディア、紙	42×41
22	コフィ・コマール	NO ARMY!	制作年不詳	アクリル、ミクストメディア、紙	42.5×41.7
23	コフィ・コマール	生き残る	制作年不詳	アクリル、ミクストメディア、紙	40.4×29.5
24	コフィ・コマール	少年	制作年不詳	アクリル、ミクストメディア、綿布	80.5×70.5
25	フレデリック・ブーシェ	サーカスの学校(第1ステート)	1985年	銅版、紙	19.5×24.5
26	フレデリック・ブーシェ	旅路の果て(第2ステート)	1985年	銅版、紙	26.4×20.5
27	篠崎明雄	木音 その二	1962～1971年	木	127.5×21×36
28	大野淑高	霊性の立像	1953年	顔料、紙	136.5×122.2
29	池田龍雄	神話	1952年	油彩、キャンヴァス	65×52.8
30	池田龍雄	無風地帯－壊された風景	1951年	油彩、キャンヴァス	93×118
31	毛利武士郎	不死鳥	1951年	ブロンズ	50.7×10.5×15.5
32	岡本太郎	母	1981年	リトグラフ、アルシュ紙	35×30.8
33	岡本太郎	女	1981年	リトグラフ、アルシュ紙	40.7×36
34	岡本太郎	愛	1981年	リトグラフ、アルシュ紙	42×28.1
35	コンチャ・ブラヴォ	夜明け前	制作年不詳	アクリル、キャンヴァス	19×19
36	コンチャ・ブラヴォ	夜の獣	制作年不詳	アクリル、キャンヴァス	20×20
37	コンチャ・ブラヴォ	黒い天使	制作年不詳	アクリル、キャンヴァス	30.5×30.5
38	泉 茂	ラ・ビ・アン・ローゼ	1958年	リトグラフ、紙	34.8×22.1
39	泉 茂	薔薇と笛	1958年	リトグラフ、紙	39.5×27
40	木村直道	〔マリンバを弾く人〕	1967～1971年頃	鉄、アルミニウム	42×20.7×15
41	マルク・シャガール	詩画集『もの言わずして語る人』より pl. 2	1975～1976年	エッチング、アクアチント、紙	39.5×29.5
42	マルク・シャガール	詩画集『もの言わずして語る人』より pl. 7	1975～1976年	エッチング、アクアチント、紙	39.5×29.5
43	マルク・シャガール	詩画集『もの言わずして語る人』より pl. 15	1975～1976年	エッチング、アクアチント、紙	39.5×29.5
44	マルク・シャガール	詩画集『もの言わずして語る人』より pl. 23	1975～1976年	エッチング、アクアチント、紙	39.5×29.5
III. 人は見た目が何割？					
45	やなぎみわ	夜半の寝覚め	1999年	タイプCプリント、アクリル密着加工	115×1215
46	関 雅之	青い風とともに	1981年	油彩、キャンヴァス	148.5×148.5
47	マルク・シャガール	緑、赤、青の恋人たち(街の上で)	1983年	油彩、キャンヴァス	92×73



No.	作家名／デザイナー名	作品名	制作年	技法、素材	寸法(cm)
48	池田龍雄	シリーズ百仮面	1960年頃	インク、コンテ、紙	40.6×31.9
49	池田龍雄	シリーズ百仮面	1961年頃	インク、コンテ、油彩、紙	41.2×30.4
IV. 美術は見た目が何割？					
50	丑久保健一	へこみのあるボール	1980年頃	木	14.5×17.5×17.5
51	丑久保健一	大谷考一指をみつめる	2000年	木(檜)、ウレタン樹脂、墨汁、木工ボンド	74×55×42
52	松本哲男	三春滝桜-空即是色-	1998、2000年	顔料・プラチナ箔、紙	218.5×600
53	松本哲男	三春滝桜-色即是空-	1998、2000年	顔料・プラチナ箔、紙	218.5×600
54	ルネ・マグリット	大家族	1963年	油彩、キャンヴァス	100.5×81.2
55	武藤玲子	作品D	1959年	油彩、キャンヴァス	147.4×114.1
56	武藤玲子	[作品]	1980～1990年代	油彩、メディウム、板	123.6×60.8、123.6×60.5(2点1組)

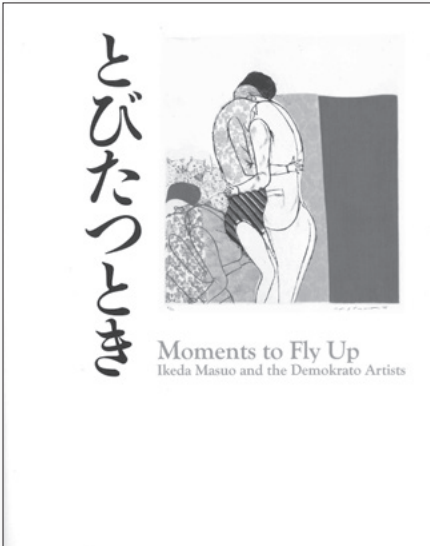
企画展

とびたつとき
池田満寿夫とデモクラートの作家

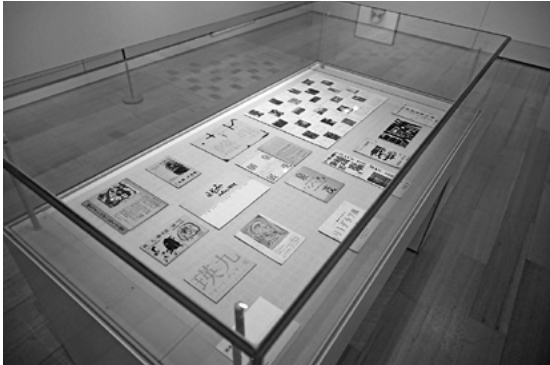
令和5年4月30日(日)～6月18日(日) 43日間

展示室3

池田満寿夫(1934～1997)は1960年代以降国際的な注目を浴びて活躍した多才な芸術家です。本展では飛躍の直前にあたる1950年代から60年代までの池田の作品とともに、池田が影響を受け、また交遊のあった瑛九や幾嘯らデモクラート美術家協会の作家たちの作品を紹介しました。図録では、彼らの活動を支えた美術評論家、久保貞次郎(栃木県出身)との交流についても紹介しました。



【観覧者数】	4,866人
【観覧料】	一般 1,000円(800円)
	大学生・高校生 800円(640円)
	中学生・小学生 600円(480円)
【主催】	宇都宮美術館
【協力】	広島市現代美術館、和歌山県立近代美術館
【出品点数】	268点
【関連事業】	
詳細は「教育普及 展覧会関連事業」(p.67)をご覧ください。	
●講演会「版画を始めたころの思い出」	
令和5年5月28日(日) 午後2時～午後3時30分	
●見どころ解説(スライド上映トーク)	
担当学芸員による展覧会の作品解説を実施しました。	
【印刷物】	ポスター B2判
	チラシ A4判
	図録 24.2×19.4cm
【担当】	伊藤伸子



No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵先	展示期間
I-8	泉 茂	ブラッククリスマス	1953年	エッチング、紙	11.6×19.6	和歌山県立近代美術館	前期
I-9	泉 茂	浮遊	1954年	エッチング、アクアチント、紙	11.3×17.0	和歌山県立近代美術館	後期
I-10	泉 茂	走れメロス	1954～1958年	エッチング、紙	11.2×20.4	和歌山県立近代美術館	後期
I-11	泉 茂	深夜のセロ弾き	1954年	エッチング、アクアチント、紙	18.3×10.6	和歌山県立近代美術館	前期
I-12	泉 茂	回想の幼年期	1954年	エッチング、アクアチント、紙	16.9×12.5	和歌山県立近代美術館	前期
I-13	泉 茂	かざぐるま夜話	1954年	エッチング、アクアチント、紙	20.0×12.0	和歌山県立近代美術館	後期
I-14	泉 茂	廃人	1954年	エッチング、アクアチント、紙	17.5×14.1	和歌山県立近代美術館	後期
I-15	泉 茂	さまよえるオランダ人	1954年	エッチング、紙	36.3×29.9	和歌山県立近代美術館	
I-16	泉 茂	リンゴ物語	1954年	エッチング、アクアチント、紙	32.5×27.5	和歌山県立近代美術館	
I-17	泉 茂	待機	1954年	エッチング、アクアチント、紙	29.9×35.7	和歌山県立近代美術館	
I-18	泉 茂	ノースモーキング	1954年	エッチング、アクアチント、紙	30.0×35.9	和歌山県立近代美術館	
I-19	利根山光人	うたごえ	1954年	リトグラフ、紙	36.7×53.3	和歌山県立近代美術館	
I-20	利根山光人	舞台の人	1954年	リトグラフ、紙	38.0×19.0	和歌山県立近代美術館	
I-21	巖嘔	現代の恋人	1954年	油彩、板	69.2×92.0	広島市現代美術館	
I-22	巖嘔	現代人	1954年	油彩、板	92.0×113.5	広島市現代美術館	
I-23	巖嘔	鉄骨とクレーンと人と	1954年	油彩、板	116.5×91.6	和歌山県立近代美術館	
I-24	巖嘔	雲と鉄骨の男	1954～1955年	エッチング、紙	33.8×18.0	個人蔵	
I-25	巖嘔	雲のかげ	1955年	エッチング、紙	18.0×20.2	和歌山県立近代美術館	
I-26	巖嘔	倦怠	1955年	油彩、板	92.0×116.5	個人蔵	
I-27	巖嘔	雲と太陽	1955年	リトグラフ、紙	38.7×26.4	和歌山県立近代美術館	
I-28	巖嘔	田園に横たわる人々	1956年	リトグラフ、紙	57.2×80.0	和歌山県立近代美術館	
I-29	巖嘔	田園	1956年	リトグラフ、紙	53.4×72.8	和歌山県立近代美術館	
I-30	巖嘔	ネクタイの男	1956年	リトグラフ、紙	35.5×25.5	個人蔵	
I-31	巖嘔	女(1)	1956年	リトグラフ、紙	42.8×31.0	和歌山県立近代美術館	
I-32	池田満寿夫	作品	1954年	油彩、キャンヴァス	45.2×73.1	広島市現代美術館	
I-33	池田満寿夫	骨を持つ人(C)	1955年	油彩、キャンヴァス	72.8×57.2	和歌山県立近代美術館	
I-34	池田満寿夫	退屈な時間	1955年	油彩、キャンヴァス	87.0×141.7	広島市現代美術館	
I-35	池田満寿夫	真昼の人々	1955年	油彩、キャンヴァス	88.4×117.0	長野県立美術館	宇都宮美術館不出品
I-36	泉 茂	目	1955年	油彩、キャンヴァス	60.5×72.5	和歌山県立近代美術館	
I-37	泉 茂	太陽の家族	1955年	エッチング、紙	35.4×48.9	和歌山県立近代美術館	
I-38	泉 茂	上海帰りのリル	1955年	リトグラフ、紙	33.5×24.5	和歌山県立近代美術館	前期
I-39	泉 茂	タイマー	1955年	リトグラフ、紙	33.6×22.0	和歌山県立近代美術館	後期



No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵先	展示期間
I-40	泉 茂	ささやかな不安	1956年	リトグラフ、紙	31.2×21.0	和歌山県立近代美術館	
I-41	泉 茂	少年	1956年	リトグラフ、紙	20.5×15.3	和歌山県立近代美術館	
I-42	泉 茂	インディアン	1956年	リトグラフ、紙	48.8×39.0	和歌山県立近代美術館	
I-43	利根山光人	17	1955年	リトグラフ、紙	27.8×38.0	個人蔵	前期
I-44	利根山光人	黒の人物	1955年	リトグラフ、紙	27.6×38.4	個人蔵	
I-45	利根山光人	ドラマ	1955年	リトグラフ、紙	32.0×22.0	個人蔵	前期
I-46	利根山光人	蛾	1955年	リトグラフ、紙	42.4×53.0	和歌山県立近代美術館	後期
I-47	利根山光人	いれすみ	1956年	油彩、キャンヴァス	91.2×116.8	広島市現代美術館	
I-48	利根山光人	射場風景A	1956年	リトグラフ、紙	40.5×51.8	和歌山県立近代美術館	
I-49	利根山光人	弾道	1956年	リトグラフ、紙	36.8×53.0	和歌山県立近代美術館	
I-50	船井 裕	顔	1955年	木版、紙	20.8×14.8	和歌山県立近代美術館	
I-51	船井 裕	エスキス	1955年	エッチング、紙	9.8×7.8	和歌山県立近代美術館	
I-52	船井 裕	夜	1956年	エッチング、紙	20.8×14.8	和歌山県立近代美術館	
I-53	船井 裕	小さなデモン	1956年	エッチング、紙	29.7×20.0	和歌山県立近代美術館	前期
I-54	船井 裕	花を守る人々	1956年	エッチング、紙	24.7×20.4	和歌山県立近代美術館	後期
I-55	池田満寿夫	アフリカの女	1956年	エッチング、アクアチント、紙	18.1×12.0	広島市現代美術館	
I-56	池田満寿夫	原始の太陽	1956年	エッチング、アクアチント、紙	12.1×18.2	広島市現代美術館	
I-57	池田満寿夫	影	1956年	エッチング、アクアチント、紙	18.0×12.0	広島市現代美術館	
I-58	磯辺行久	古代の顔(B)	1955年	リトグラフ、紙	29.5×42.8	個人蔵	
I-59	磯辺行久	パイロットの夢	1956年	リトグラフ、紙	70.5×45.5	和歌山県立近代美術館	前期
I-60	磯辺行久	危険な探索	1956年	リトグラフ、紙	60.7×44.6	個人蔵	後期
I-61	磯辺行久	コンポジション	1956年	リトグラフ、紙	43.0×59.8	個人蔵	
I-62	吉原英雄	はじらい	1956年	リトグラフ、紙	40.4×25.0	個人蔵	前期
I-63	吉原英雄	夜明け	1956年	リトグラフ、紙	34.0×25.2	個人蔵	後期
I-64	吉原英雄	ひまわり	1956年	リトグラフ、紙	40.5×29.0	和歌山県立近代美術館	
I-65	吉原英雄	華	1956年	リトグラフ、紙	39.6×29.6	個人蔵	
I-66	吉原英雄	フェニックス	1956年	リトグラフ、紙	44.5×28.0	個人蔵	
I-67	吉原英雄	ヴィーナス誕生	1956年	リトグラフ、紙	44.6×56.1	個人蔵	
I-68	吉原英雄	たわむれ	1956年	油彩、板	129.9×91.0	和歌山県立近代美術館	
I-69	吉原英雄	トランベット	1956年	リトグラフ、紙	27.7×39.7	和歌山県立近代美術館	前期
I-70	吉原英雄	鳥人	1956年	リトグラフ、紙	49.5×38.8	和歌山県立近代美術館	
I-71	吉原英雄	水族館	1956年	リトグラフ、紙	51.0×38.0	和歌山県立近代美術館	

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(㎝)	所蔵先	展示期間
I-72	吉原英雄	キリキリ舞 ㇑	1956年	リトグラフ、紙	39.0×27.5	個人蔵	
I-73	吉原英雄	赤い風景	1956年	リトグラフ、紙	49.0×42.0	個人蔵	後期
I-74	吉原英雄	木の中の鳥	1956～1957年	リトグラフ、紙	37.5×27.5	和歌山県立近代美術館	後期
I-75	吉原英雄	火の鳥	1956年	リトグラフ、紙	42.5×56.2	個人蔵	前期
II. 起点としての瑛九 1950-1957							
II-1	瑛九	犬と女	1950年	ゼラチンシルバープリント、紙	21.9×28.1	和歌山県立近代美術館	
II-2	瑛九	愛撫	1951年	ゼラチンシルバープリント、紙	26.3×21.9	和歌山県立近代美術館	
II-3	瑛九	眼	1951年	エッチング、紙	21.0×15.4	個人蔵	
II-4	瑛九	ヴァイオリン	1952年	エッチング、紙	17.8×12.0	個人蔵	前期
II-5	瑛九	散歩	1952年	エッチング、紙	17.8×12.0	個人蔵	
II-6	瑛九	背中合わせ	1952年	エッチング、紙	14.4×12.9	個人蔵	後期
II-7	瑛九	ゴーストupp	1953年	エッチング、紙	36.2×26.5	和歌山県立近代美術館	
II-8	瑛九	母	1953年	エッチング、紙	29.0×23.5	個人蔵	前期
II-9	瑛九	人魚の恋	1953年	エッチング、紙	23.6×31.0	和歌山県立近代美術館	
II-10	瑛九	小さな人魚	1954年	エッチング、紙	36.2×26.5	個人蔵	
II-11	瑛九	鳥と動物	1955年	エッチング、紙	28.5×23.7	個人蔵	後期
II-12	瑛九	自転車	1956年	油彩、キャンヴァス	50.0×60.8	和歌山県立近代美術館	
II-13	瑛九	裏庭	1956年	リトグラフ、紙	52.0×37.4	個人蔵	
II-14	瑛九	木の上	1956年	リトグラフ、紙	36.6×27.6	個人蔵	
II-15	瑛九	丘	1956年	リトグラフ、紙	39.7×28.6	個人蔵	
II-16	瑛九	テーブルの上	1956年	リトグラフ、紙	37.1×21.0	個人蔵	前期
II-17	瑛九	蟻のあしあと	1956年	リトグラフ、紙	35.2×22.2	個人蔵	前期
II-18	瑛九	いたすら	1956年	リトグラフ、紙	48.9×30.5	和歌山県立近代美術館	後期
II-19	瑛九	街の灯	1956年	リトグラフ、紙	39.0×25.0	和歌山県立近代美術館	後期
II-20	瑛九	リンゴの木	1956年	リトグラフ、紙	39.6×30.8	個人蔵	
II-21	瑛九	林の会話	1956年	リトグラフ、紙	37.8×23.6	和歌山県立近代美術館	
II-22	瑛九	夜の白	1957年	リトグラフ、紙	36.0×22.2	和歌山県立近代美術館	
II-23	瑛九	鳥のピアノ	1957年	リトグラフ、紙	36.5×22.4	和歌山県立近代美術館	
II-24	瑛九	鳥のソナタ	1957年	リトグラフ、紙	38.9×24.8	和歌山県立近代美術館	前期
II-25	瑛九	森の中	1957年	リトグラフ、紙	40.0×25.0	個人蔵	後期
II-26	瑛九	四人	1957年	リトグラフ、紙	22.9×38.8	個人蔵	
II-27	瑛九	シグナル	1957年	リトグラフ、紙	38.8×25.0	個人蔵	
II-28	瑛九	渡り鳥	1957年	リトグラフ、紙	38.0×23.2	個人蔵	
II-29	瑛九	赤い鳥	1957年	リトグラフ、紙	38.2×26.0	個人蔵	
II-30	瑛九	ふるさとの木	1957年	リトグラフ、紙	35.3×24.4	個人蔵	
II-31	瑛九	小鳥の誘い	1957年	リトグラフ、紙	46.5×30.0	和歌山県立近代美術館	前期
II-32	瑛九	春のおとずれ	1957年	リトグラフ、紙	51.0×40.0	和歌山県立近代美術館	後期
II-33	瑛九	ペリカン	1957年	リトグラフ、紙	24.8×17.0	和歌山県立近代美術館	
II-34	瑛九	指	1957年	リトグラフ、紙	24.0×15.3	和歌山県立近代美術館	
II-35	瑛九	雲	1957年	リトグラフ、紙	35.5×51.2	和歌山県立近代美術館	
II-36	瑛九	拡声器[墨刷]	1957年	リトグラフ、紙	51.5×36.6	和歌山県立近代美術館	
II-37	瑛九	旅人	1957年	リトグラフ、紙	37.1×52.0	和歌山県立近代美術館	

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(㎝)	所蔵先	展示期間
II-38	瑛九	旅人〔墨刷〕	1957年	リトグラフ、紙	36.6×52.0	和歌山県立近代美術館	
II-39	瑛九	〔失題〕	1957年	ステンシル、板	25.7×20.0	個人蔵	
III. 夜明けまえ 1957							
III-1	利根山光人	子供のいる風景	1957年	リトグラフ、紙	42.5×53.0	和歌山県立近代美術館	
III-2	泉 茂	セレナード	1957年	リトグラフ、紙	48.6×40.0	和歌山県立近代美術館	
III-3	泉 茂	Japanese Folk Dance	1957年	リトグラフ、紙	54.5×39.0	和歌山県立近代美術館	
III-4	泉 茂	闘鶏	1957年	リトグラフ、紙	50.0×42.0	和歌山県立近代美術館	
III-5	泉 茂	漂流	1957年	リトグラフ、紙	36.2×55.0	和歌山県立近代美術館	
III-6	泉 茂	雷蝶	1957年	リトグラフ、紙	43.0×55.0	和歌山県立近代美術館	
III-7	泉 茂	しゃも	1957年	油彩、キャンヴァス	65.2×48.5	和歌山県立近代美術館	
III-8	加藤 正	夜の記憶	1957年	リトグラフ、紙	38.2×26.0	和歌山県立近代美術館	
III-9	加藤 正	風の塔	1957年	リトグラフ、紙	40.2×25.7	和歌山県立近代美術館	
III-10	加藤 正	風が止まった	1957年	リトグラフ、紙	24.3×38.5	和歌山県立近代美術館	
III-11	加藤 正	街に夕陽が落ちる	1957年	リトグラフ、紙	41.5×53.7	和歌山県立近代美術館	
III-12	巖嘔	〔失題〕	1957年	リトグラフ、紙	19.3×29.6	個人蔵	
III-13	巖嘔	群集(灰色)	1957年	リトグラフ、紙	38.7×24.8	個人蔵	
III-14	巖嘔	鉄骨	1957年	リトグラフ、紙	54.0×40.5	和歌山県立近代美術館	
III-15	巖嘔	中間子炉	1957年	リトグラフ、紙	28.5×43.2	和歌山県立近代美術館	
III-16	巖嘔	鉄骨・ウィンチ・2人	1957年	リトグラフ、紙	39.0×52.7	和歌山県立近代美術館	
III-17	巖嘔	ジャイアンツ	1957年	リトグラフ、紙	55.0×40.5	和歌山県立近代美術館	前期
III-18	巖嘔	サド侯爵	1957年	リトグラフ、紙	40.0×29.0	個人蔵	
III-19	巖嘔	アダムとイヴ	1957年	リトグラフ、紙	39.8×54.4	個人蔵	後期
III-20	巖嘔	ラブ・スネーク	1957年	リトグラフ、紙	29.5×44.0	和歌山県立近代美術館	
III-21	巖嘔	鉄骨と雲	1957年	リトグラフ、紙	41.5×27.0	個人蔵	前期
III-22	巖嘔	緑の雲	1957年	リトグラフ、紙	27.5×42.5	個人蔵	
III-23	巖嘔	アンフォルメールNo.91	1957年	リトグラフ、紙	38.2×24.5	個人蔵	後期
III-24	吉原英雄	陽気な魚(パンプキンフィッシュ)	1957年	リトグラフ、紙	47.7×39.0	個人蔵	
III-25	吉原英雄	火の鳥	1957年	リトグラフ、紙	55.5×45.3	和歌山県立近代美術館	
III-26	吉原英雄	花粉	1957年	リトグラフ、紙	35.5×28.5	個人蔵	前期
III-27	吉原英雄	いやな野郎	1957年	リトグラフ、紙	57.0×41.0	個人蔵	後期
III-28	吉原英雄	サキソフォン	1957年	リトグラフ、紙	42.3×52.6	個人蔵	
III-29	吉原英雄	アラビアンナイト	1957年	リトグラフ、紙	32.5×40.7	個人蔵	
III-30	吉原英雄	赤い実	1957年	リトグラフ、紙	46.5×56.0	個人蔵	前期
III-31	吉原英雄	白い花	1957年	リトグラフ、紙	52.0×42.0	個人蔵	後期
III-32	吉原英雄	潜水 A	1957年	リトグラフ、紙	40.8×54.8	個人蔵	
III-33	船井 裕	CHILD & SPELL	1957年	リトグラフ、紙	40.5×23.0	和歌山県立近代美術館	
III-34	船井 裕	鳥寄せ	1957年	リトグラフ、紙	40.2×55.9	和歌山県立近代美術館	
III-35	池田満寿夫	作品	1957年	油彩、キャンヴァス	65.3×54.2	広島市現代美術館	
III-36	池田満寿夫	朝の光	1957年	エッチング、アクアチント、紙	11.9×17.9	広島市現代美術館	
III-37	池田満寿夫	海の音楽家	1957年	エッチング、アクアチント、紙	11.9×18.1	広島市現代美術館	
III-38	池田満寿夫	作品	1957年	エッチング、アクアチント、紙	18.0×11.9	広島市現代美術館	
III-39	池田満寿夫	白い岩石	1957年	エッチング、アクアチント、紙	11.9×18.0	広島市現代美術館	

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(㎝)	所蔵先	展示期間
III-40	池田満寿夫	古代人	1957年	エッチング、アクアチント、紙	17.9×11.9	広島市現代美術館	
III-41	池田満寿夫	赤の中の鳥	1957年	エッチング、アクアチント、紙	11.9×17.8	広島市現代美術館	
III-42	池田満寿夫	小さな喜び	1957年	エッチング、アクアチント、紙	9.0×23.8	広島市現代美術館	
III-43	池田満寿夫	埋葬	1957年	エッチング、紙	15.9×15.1	和歌山県立近代美術館	
III-44	池田満寿夫	風景としての花嫁	1957年	エッチング、紙	16.4×20.4	広島市現代美術館	
III-45	池田満寿夫	夜明けの窓	1957年	ドライポイント、紙	14.2×15.0	和歌山県立近代美術館	
III-46	池田満寿夫	月に吠える	1957年	エッチング、アクアチント、紙	16.7×32.2	和歌山県立近代美術館	
III-47	池田満寿夫	表面A	1957年	エッチング、アクアチント、紙	30.3×23.1	和歌山県立近代美術館	後期
III-48	磯辺行久	鳥	1957年	リトグラフ、紙	40.5×54.5	和歌山県立近代美術館	
III-49	磯辺行久	作品	1957年	油彩、板	62.0×73.8	広島市現代美術館	
IV. それぞれのとびたつとき 1958-1966							
IV-1	利根山光人	シグナル	1958年	リトグラフ、紙	32.0×40.2	和歌山県立近代美術館	
IV-2	利根山光人	ドーム	1959年	油彩、キャンヴァス	24.2×33.2	広島市現代美術館	
IV-3	泉 茂	七面鳥	1958年	リトグラフ、紙	51.5×38.0	和歌山県立近代美術館	
IV-4	泉 茂	対決	1958年	リトグラフ、紙	51.5×39.5	和歌山県立近代美術館	
IV-5	泉 茂	春	1958年	リトグラフ、紙	43.9×34.0	和歌山県立近代美術館	
IV-6	泉 茂	難民	1959年	リトグラフ、紙	38.3×50.7	和歌山県立近代美術館	
IV-7	泉 茂	池	1960年	リトグラフ、紙	45.5×60.5	和歌山県立近代美術館	後期
IV-8	泉 茂	そよ風	1960年	エッチング、紙	45.6×53.1	和歌山県立近代美術館	後期
IV-9	泉 茂	層	1961年	エッチング、紙	45.0×51.9	和歌山県立近代美術館	前期
IV-10	泉 茂	BS5013	1963年	油彩、キャンヴァス	100.0×100.0	和歌山県立近代美術館	
IV-11	泉 茂	流れ	1965年	リトグラフ、紙	65.2×50.2	和歌山県立近代美術館	
IV-12	加藤 正	都市の残光	1958年	リトグラフ、紙	49.5×37.1	和歌山県立近代美術館	
IV-13	加藤 正	聖者が街にやって来た	1958年	リトグラフ、紙	48.9×35.3	和歌山県立近代美術館	前期
IV-14	加藤 正	ヘバリストの人形	1958年	リトグラフ、紙	49.7×36.8	和歌山県立近代美術館	後期
IV-15	巖嘔	コニーアイランド	1960年	リトグラフ、紙	86.0×42.0	和歌山県立近代美術館	
IV-16	巖嘔	地下鉄	1960年	リトグラフ、紙	41.5×84.0	和歌山県立近代美術館	
IV-17	巖嘔	Animated Rainbow. What's in a jump?	1966年	シルクスクリーン、紙	53.1×33.0	和歌山県立近代美術館	
IV-18	吉原英雄	赤い花	1958年	リトグラフ、紙	52.0×43.0	個人蔵	前期
IV-19	吉原英雄	ボンゴのおどり	1959年	リトグラフ、紙	55.3×40.4	和歌山県立近代美術館	後期
IV-20	吉原英雄	リトグラフ・レッド	1962年	リトグラフ、コラグラフ、エンボス、紙	57.7×44.4	和歌山県立近代美術館	前期
IV-21	吉原英雄	リトグラフ・グレー・グリーン	1962年	リトグラフ、コラグラフ、エンボス、紙	57.6×44.5	和歌山県立近代美術館	後期
IV-22	吉原英雄	リトグラフ・ブラック	1962年	リトグラフ、コラグラフ、紙	58.0×44.0	個人蔵	
IV-23	吉原英雄	作品 No. 7	1963年	油彩、板	75.7×91.7	個人蔵	
IV-24	吉原英雄	オレンジ・イエロー 2	1964年	リトグラフ、紙	38.8×44.0	個人蔵	
IV-25	吉原英雄	ブルー 1	1964年	リトグラフ、紙	36.2×43.0	個人蔵	
IV-26	吉原英雄	出会い 3	1964年	リトグラフ、紙	76.7×54.4	和歌山県立近代美術館	
IV-27	吉原英雄	出来事	1966年	リトグラフ、ドライポイント、紙	52.5×38.5	個人蔵	前期
IV-28	吉原英雄	出来事 II	1966年	リトグラフ、ドライポイント、紙	51.1×38.1	和歌山県立近代美術館	後期
IV-29	吉原英雄	カーニバル	1966年	リトグラフ、ドライポイント、紙	56.0×41.5	個人蔵	前期
IV-30	吉原英雄	北北西	1966年	リトグラフ、ドライポイント、紙	52.4×38.5	個人蔵	後期
IV-31	船井 裕	CHILD & SPELL	1958年	リトグラフ、紙	37.7×24.8	和歌山県立近代美術館	前期

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(㎝)	所蔵先	展示期間
IV-32	船井 裕	化石	1959年	リトグラフ、紙	53.3×38.0	和歌山県立近代美術館	
IV-33	船井 裕	夜	1961年	リトグラフ、紙	27.4×31.3	和歌山県立近代美術館	後期
IV-34	船井 裕	Something Always Happens	1963年	油彩、コンテ、コラーージュ、キャンヴァス、板	87.0×146.0	和歌山県立近代美術館	
IV-35	船井 裕	ANGLE	1966年	リトグラフ、エンボス、紙	66.2×38.0	和歌山県立近代美術館	
IV-36	磯辺行久	夜通し歩くこと	1959年	リトグラフ、紙	42.0×57.2	和歌山県立近代美術館	
IV-37	磯辺行久	無題	1960年	リトグラフ、紙	58.0×44.0	和歌山県立近代美術館	
IV-38	磯辺行久	無題	1961年	リトグラフ、紙	52.0×39.2	和歌山県立近代美術館	後期
IV-39	磯辺行久	WORK 62-12	1962年	油彩、紙、大理石粉、塗料、木	182.2×127.6	和歌山県立近代美術館	
IV-40	磯辺行久	ワッペン	1964年	エンボス、紙	28.4×18.8	和歌山県立近代美術館	
IV-41	磯辺行久	ワッペン	1965年	リトグラフ、紙	47.5×36.3	和歌山県立近代美術館	前期
V. 池田満寿夫 とびたつとき 1958-1966							
V-1	池田満寿夫	案内状のためのデザイン	1958年	レリーフエッチング、紙	12.8×10.7	和歌山県立近代美術館	
V-2	池田満寿夫	私の処女	1958年	エッチング、アクアチント、紙	13.5×10.1	和歌山県立近代美術館	
V-3	池田満寿夫	坐った娘	1960年	ドライポイント、紙	18.1×8.8	広島市現代美術館	
V-4	池田満寿夫	女・動物たち	1960年	ドライポイント、アクアチント、紙	23.8×18.0	広島市現代美術館	
V-5	池田満寿夫	女	1960年	ドライポイント、アクアチント、紙	23.7×18.1	広島市現代美術館	
V-6	池田満寿夫	女	1961年	ドライポイント、ルーレット、紙	20.5×18.0	広島市現代美術館	
V-7	池田満寿夫	室内の女	1961年	ドライポイント、紙	17.9×15.4	広島市現代美術館	
V-8	池田満寿夫	退屈な朝	1961年	ドライポイント、紙	17.6×15.5	広島市現代美術館	
V-9	池田満寿夫	女王	1961年	ドライポイント、ルーレット、紙	24.8×23.5	広島市現代美術館	
V-10	池田満寿夫	瞳の中の星	1961年	ドライポイント、ルーレット、紙	24.8×23.6	広島市現代美術館	
V-11	池田満寿夫	子供のいのり	1961年	ドライポイント、ルーレット、紙	11.9×11.3	広島市現代美術館	
V-12	池田満寿夫	Tの肖像	1961年	ドライポイント、ルーレット、紙	21.6×21.3	広島市現代美術館	
V-13	池田満寿夫	草むらの中	1962年	ドライポイント、ルーレット、紙	26.6×27.8	広島市現代美術館	
V-14	池田満寿夫	女・五月	1962年	ドライポイント、ルーレット、紙	26.1×24.5	広島市現代美術館	
V-15	池田満寿夫	赤いセーターの女	1962年	ドライポイント、ルーレット、紙	24.0×18.0	広島市現代美術館	
V-16	池田満寿夫	S字型のヘビ	1962年	ドライポイント、エッチング、紙	26.2×18.0	広島市現代美術館	
V-17	池田満寿夫	急ぐ人	1962年	ドライポイント、ルーレット、紙	18.1×16.8	広島市現代美術館	
V-18	池田満寿夫	日光浴する貴婦人たち	1962年	ドライポイント、アクアチント、紙	36.2×33.7	広島市現代美術館	
V-19	池田満寿夫	二人の天使	1962年	ドライポイント、エッチング、ルーレット、紙	18.0×15.8	広島市現代美術館	
V-20	池田満寿夫	出を待つ天使	1962年	ドライポイント、ルーレット、紙	18.2×17.8	広島市現代美術館	
V-21	池田満寿夫	水曜日の犬の散歩	1962年	ドライポイント、ルーレット、紙	36.2×33.6	広島市現代美術館	
V-22	池田満寿夫	動物の婚礼	1962年	ドライポイント、エッチング、紙	36.2×33.3	広島市現代美術館	
V-23	池田満寿夫	金曜日は雨	1962年	ドライポイント、ルーレット、紙	36.2×34.6	広島市現代美術館	
V-24	池田満寿夫	小さな沼たち	1963年	ドライポイント、紙	36.0×33.3	広島市現代美術館	
V-25	池田満寿夫	大きな沼その他の沼	1963年	ドライポイント、紙	36.4×33.8	広島市現代美術館	
V-26	池田満寿夫	生徒の名はイヴ	1963年	ドライポイント、ルーレット、紙	36.0×33.5	広島市現代美術館	
V-27	池田満寿夫	婚礼の準備	1963年	ドライポイント、ルーレット、紙	39.8×34.5	広島市現代美術館	
V-28	池田満寿夫	恋人がやってくる	1963年	ドライポイント、ルーレット、紙	36.2×33.5	広島市現代美術館	
V-29	池田満寿夫	昆虫採集	1963年	ドライポイント、ルーレット、紙	36.5×33.6	広島市現代美術館	
V-30	池田満寿夫	日付のない日	1963年	ドライポイント、ルーレット、エッチング、紙	36.1×33.4	広島市現代美術館	
V-31	池田満寿夫	タエコの朝食	1963年	ドライポイント、ルーレット、エッチング、紙	37.3×35.8	広島市現代美術館	

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(㎝)	所蔵先	展示期間
V-32	池田満寿夫	自画像	1964年	ドライポイント、紙	17.7×19.7	広島市現代美術館	
V-33	池田満寿夫	私をみつめる私	1964年	ドライポイント、ルーレット、紙	20.0×17.8	広島市現代美術館	
V-34	池田満寿夫	静物	1964年	ドライポイント、ルーレット、エッチング、紙	36.2×33.7	広島市現代美術館	
V-35	池田満寿夫	鏡の前の女	1964年	ドライポイント、ルーレット、エッチング、紙	36.0×33.5	広島市現代美術館	
V-36	池田満寿夫	花嫁	1964年	ドライポイント、ルーレット、エッチング、紙	39.3×36.3	広島市現代美術館	
V-37	池田満寿夫	夏1	1964年	ルーレット、エッチング・紙	39.5×36.2	広島市現代美術館	
V-38	池田満寿夫	私は何も食べたくない	1964年	ドライポイント、ルーレット、エッチング、紙	35.5×33.3	広島市現代美術館	
V-39	池田満寿夫	アダムとイヴ(捕らえられたイヴ)	1964年	ドライポイント、ルーレット、紙	36.1×33.6	広島市現代美術館	
V-40	池田満寿夫	聖なる手1	1965年	ドライポイント、ルーレット、紙	36.2×33.8	広島市現代美術館	
V-41	池田満寿夫	海のスカート	1965年	ドライポイント、ルーレット、紙	36.2×33.5	広島市現代美術館	
V-42	池田満寿夫	花をもつ少女	1965年	ドライポイント、ルーレット、エッチング、紙	36.2×33.3	広島市現代美術館	
V-43	池田満寿夫	私の詩人・私の猫	1965年	ドライポイント、ルーレット、紙	35.8×33.7	広島市現代美術館	
V-44	池田満寿夫	ロマンチックな風景	1965年	ドライポイント、ルーレット、エッチング、紙	36.1×33.6	広島市現代美術館	
V-45	池田満寿夫	みつめる天使	1965年	ドライポイント、ルーレット、エッチング、紙	31.0×29.6	広島市現代美術館	
V-46	池田満寿夫	姉妹たち	1965年	ドライポイント、ルーレット、エッチング、紙	35.9×33.5	広島市現代美術館	
V-47	池田満寿夫	花園にて	1965年	ドライポイント、ルーレット、エッチング、紙	36.3×34.0	広島市現代美術館	
V-48	池田満寿夫	夏の夢	1966年	ドライポイント、ルーレット、エングレーヴィング、紙	45.3×39.9	広島市現代美術館	
V-49	池田満寿夫	シンデレラの広告	1966年	ドライポイント、ルーレット、紙	47.9×42.1	広島市現代美術館	
V-50	池田満寿夫	バラはバラ	1966年	ドライポイント、ルーレット、エングレーヴィング、紙	45.4×40.4	広島市現代美術館	
V-51	池田満寿夫	Spring and Springs	1966年	ドライポイント、ルーレット、紙	40.0×45.3	広島市現代美術館	
V-52	池田満寿夫	青い椅子	1966年	ドライポイント、ルーレット、エングレーヴィング、紙	45.6×40.2	広島市現代美術館	
V-53	池田満寿夫	愛の瞬間	1966年	ドライポイント、ルーレット、エングレーヴィング、紙	45.8×40.2	広島市現代美術館	
V-54	池田満寿夫	ある種の関係	1966年	ドライポイント、ルーレット、エングレーヴィング、紙	46.0×40.5	広島市現代美術館	
V-55	池田満寿夫	Something 1	1966年	ドライポイント、ルーレット、メゾチント、エングレーヴィング、紙	45.3×40.2	広島市現代美術館	
V-56	池田満寿夫	欲望の原理(赤)	1966年	ドライポイント、ルーレット、メゾチント、エングレーヴィング、紙	45.9×40.7	広島市現代美術館	
V-57	池田満寿夫	手の意味	1966年	ドライポイント、ルーレット、メゾチント、エングレーヴィング、紙	40.1×31.5	広島市現代美術館	
V-58	池田満寿夫	最初のドローイング	1966年	リトグラフ、紙	42.0×66.2	広島市現代美術館	
V-59	池田満寿夫	開いたブラウス	1966年	リトグラフ、紙	51.9×53.4	広島市現代美術館	
V-60	池田満寿夫	閉ざされた夜のために	1966年	リトグラフ、紙(3枚組)	52.2×117.1	広島市現代美術館	
V-61	池田満寿夫	アメリカの女	1966年	リトグラフ、紙	79.1×61.0	広島市現代美術館	
V-62	池田満寿夫	秘められた年	1966年	リトグラフ、紙	62.4×44.8	広島市現代美術館	
V-63	池田満寿夫	窓からの眺め C	1966年	リトグラフ、紙	53.3×37.1	広島市現代美術館	
V-64	池田満寿夫	ブタベストからの自画像	1968年	リトグラフ、紙	58.4×46.0	広島市現代美術館	

* 展示期間について、「前期」は4月30日(日)～5月28日(日)、「後期」は5月30日(火)～6月18日(日)、記載のないものは全期間展示
* 寸法について、版画の場合はイメージ・サイズを掲載

第15回宇都宮エスペール賞 藤原彩人展 像化－構造を施す捻り物－

令和5年4月30日(日)～6月18日(日) 43日間
展示室2

平成13年度に創設された宇都宮エスペール賞は、宇都宮市に在住しているか、活動拠点がある等、本市にゆかりのある芸術家のうち、芸術の創造活動が顕著で、今後の活躍が期待できる方1名に贈るもので、賞の授与により、展覧会を開催するなど受賞者を支援・育成することで、芸術文化の振興を図ることを目的としています。

この「エスペール」という言葉は、フランス語の“J’espérer”―「私は期待する」に由来しており、芸術家の今後の展開を応援しようという思いが込められています。

令和2年度の第15回エスペール賞は、ギャラリー関係部門(美術、文芸、茶華道、その他)の分野で公募し多くのご応募をいただいた中から、藤原彩人氏が受賞しました。藤原氏は昭和50(1975)年に京都市に生まれ、栃木県の益子町で育ちました。平成15(2003)年の東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了後から本格的に作品発表を重ね、一貫して、現在に生きる人間のあり方を追求した人物像を手掛けてきました。本展では、近年の代表作である《像化／台化―軸と周囲―》シリーズ、日タイメージを形にしていく事を目的に制作した250点のドローイングと手びねりで制作した504点の小品に加え、本展のための新作もあわせて展示しました。



【観覧者数】 5,297人
【観覧料】 一般 310円(250円)
大学生・高校生 210円(160円)
中学生・小学生 100円(80円)

*企画展もしくはコレクション展観覧料に含まれます。

【主催】 宇都宮市、宇都宮市教育委員会、宇都宮美術館

【出品点数】 768点

【関連事業】

詳細は「教育普及 展覧会関連事業」(p.68)をご覧ください。

●講演会「人物彫刻のゆくえ」

令和5年5月20日(土) 午後2時～午後4時

●ワークショップ「手びねりでイキモノを作る

―握りの粘土からイメージを広げよう―

令和5年5月27日(土)、6月17日(土) 午後2時～午後4時

●藤原彩人と担当学芸員によるギャラリー・トーク

【印刷物】 チラシ A4判

小冊子 A4判

【担当】 小堀修司、石井利香



No.	作品名	技法素材	寸法(cm)	制作年	備考
1	立像 / 2014B 01	施釉陶	130×35×30	2015年	
2	立像 / 2014B 02	施釉陶	130×35×30	2016年	
3	立像 / 2014B 03	施釉陶	130×35×30	2014年	
4	ドローイング	水彩、アクリル、色鉛筆他、ケント紙	43.5×30(シートサイズ)	2019～2021年	出品数250点
5	五百捻-Drawing Sculptures-	陶	サイズ可変	2022～2023年	出品数504点
6	図・像化 - 雨の行方 -	施釉陶、トタン板	225×172×2	2019年	
7	像化 / 台化 - 軸と周囲-07	施釉陶	185×53×63	2022～2023年	
8	像化 / 台化 - 軸と周囲-02	施釉陶	180×62×55	2021～2023年	
9	像化 / 台化 - 軸と周囲-08	施釉陶	190×65×52	2022～2023年	
10	像化 / 台化 - 軸と周囲-05	施釉陶	181×55×50	2021～2023年	
11	像化 / 台化 - 軸と周囲-01	施釉陶	180×74×50	2021～2023年	
12	像化 / 台化 - 軸と周囲-03	施釉陶	182×62×58	2021～2023年	
13	像化 / 台化 - 軸と周囲-06	施釉陶	190×55×57	2022～2023年	
14	像化 / 台化 - 軸と周囲-04	施釉陶	185×57×65	2021～2023年	
15	像化 / 台化 - 軸と周囲-09	施釉陶	184×58×52	2022～2023年	
16	像化-Planets on the Planet 01	施釉陶	166×70×50	2023年	

* 作者及び所蔵先は全て、藤原彩人



芸術家たちの南仏

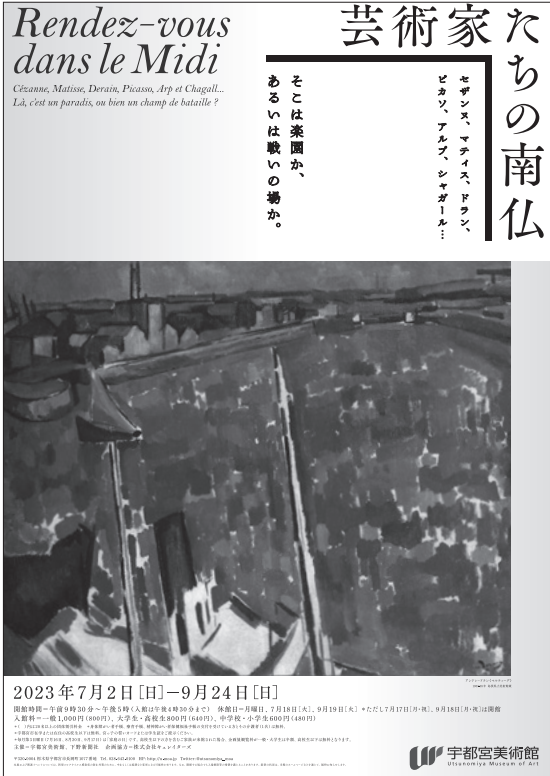
令和5年7月2日(日)～9月24日(日) 73日間

展示室2、3

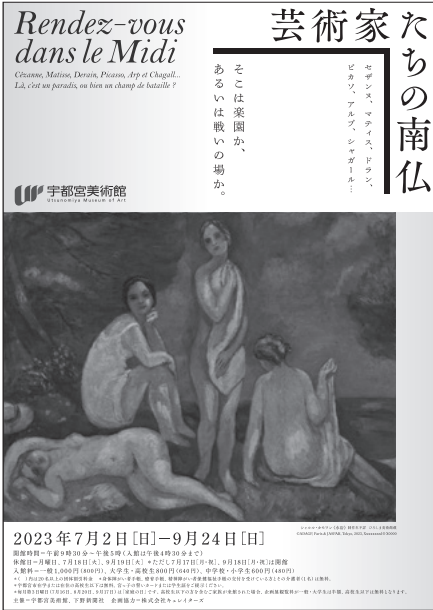
芸術家たちの創作のための重要な場としての南フランスに注目し、この地方におけるモダン・アートの展開をたどる展覧会を開催しました。

明るい日差しと豊かな自然、そして都市部からは失われてしまった素朴な風景を求めて、19世紀末以降、芸術家たちは南仏を訪れました。彼らは都市の喧騒から離れたその場所で制作に励み、交流と競争、そして協働によって豊かな芸術の数々を生み出しました。当館の代表的な収蔵作家であるアンリ・マ蒂斯、ラウル・デュフィ、マルク・シャガールも、南フランスに制作の拠点を置いた作家たちです。彼らの作品は本展においても重要な役割を演じており、当館のコレクションを見直すうえでも本展は貴重な機会となったと言えるでしょう。

19世紀末以降のモダン・アートの展開を南フランスというテーマに沿ってたどる本展は、この時代においてこの地が担った文化的な役割とその意義を探るまたとない機会となりました。また、展覧会を構成する作品のほとんどすべてを日本国内のコレクションからお貸出しいただいたことからわかるように、日本人の抱く南フランスへの愛着を振り返る機会ともなりました。



【観覧者数】	12,423人	
【観覧料】	一般	1,000円(800円)
	大学生・高校生	800円(640円)
	中学生・小学生	600円(480円)
【主催】	宇都宮美術館、下野新聞社	
【企画協力】	株式会社キュレイターズ	
【出品点数】	103点	



[関連事業]

詳細は「教育普及 展覧会関連事業」(p.69)をご覧ください。

●講演会「地中海－美術・風土・歴史」

令和5年7月8日(土) 午後2時～午後4時

●映画上映会「美しき争い女」

令和5年8月20日(日) 12時～午後5時

●ギャラリー・トーク

担当学芸員による展覧会の作品解説を実施しました。

〔印刷物〕	ポスター	B2判
	チラシ	A4判
	図録	25.4×21.0cm

[担当] 藤原 啓



No.	作家名	作品リスト	制作年	素材・技法	サイズ	所属先	展示期間(記載のないものは全期間展示)
第1章 南仏の光							
番外	リュミエール兄弟	ラ・シオタ駅への列車の到着	1895年	ビデオ(16ミリフィルムから作成) モノクロ、無声	1分	神戸映画資料館	
1-02	ポール・シニャック	サン＝トロベ、グリモーの古城	1899年	油彩、カンヴァス	73×91.7cm	静岡県立美術館	後期のみ(8/8～9/24)
1-03	アンドレ・ドラン	コリウール港の小舟	1905年	油彩、カンヴァス	54×65cm	大阪中之島美術館	前期のみ(7/2～8/6)
1-04	アルベール・マルケ	トゥーロン湾の眺め	20世紀前半	油彩、カンヴァス	49.5×60.5cm	東京富士美術館	
1-05	ポール・セザンヌ	マルセイユ湾、レスタック近郊のサンタンリ村を望む	1877～79年	油彩、カンヴァス	64.5×80.2cm	吉野石膏コレクション (山形美術館に寄託)	
1-06	アンドレ・ドラン	マルティエグ	1907～08年	油彩、カンヴァス	73.1×92.1cm	島根県立美術館	
1-07	ラウル・デュフィ	モーツァルト	1915年	油彩、カンヴァス	81×65cm	ユニマットグループ	
1-08	ラウル・デュフィ	ヴァンスの眺め	1923年	油彩、カンヴァス	65×81cm	島根県立美術館	
1-09	バプロ・ピカソ	りんごとグラス、タバコの包み	1924年	油彩、カンヴァス	16×22cm	ふくやま美術館	
1-10	アンリ・マンギャン	裸婦	1922年	油彩、カンヴァス	89×116cm	大分県立美術館	
1-11	アンリ・マティス	肘掛け椅子の裸婦	1920年	油彩、カンヴァス	46×38.1cm	DIC川村記念美術館	
1-13	アンリ・マティス	マグノリアのあるオダリスク	1923年	リトグラフ、和紙	50.0×64.5cm(紙)	国立西洋美術館	



No. 作家名	作品リスト	制作年	素材・技法	サイズ	所属先	展示期間(記載のないものは全期間展示)	
1-15	ラウル・デュフィ	花束	1951年	フレスコ	163.5×122.9cm	宇都宮美術館	
1-16	アルベール・アンドレ	マルセイユのプティ・ニース	1918年	油彩、カンヴァス	81.5×100.5cm	国立西洋美術館 (松方コレクション)	
1-17	アンリ・マルタン	習作	1920年	油彩、カンヴァス	81.5×63.3cm	国立西洋美術館 (松方コレクション)	
1-18	アンリ・ルバスク	窓	1923年	油彩、カンヴァス	81×65.5cm	国立西洋美術館 (松方コレクション)	
1-19	ジョルジュ・デスパニャ	浴女	不詳	油彩、カンヴァス	100.8×66cm	国立西洋美術館 (松方コレクション)	
1-20	シャルル・カモワン	水浴	不詳	油彩、カンヴァス	115×145.5cm	ひろしま美術館	
1-21	アンドレ・ドラン	パノラマ(プロヴァンス風景)	1930年頃	油彩、カンヴァス	80×179cm	ひろしま美術館	
1-22	アンドレ・ドラン	洞窟内 沐浴	1945年頃	油彩、カンヴァス	32.5×29.5cm	公益財団法人 大川美術館	
1-23	ビエール・ボナール	『ロンゴスの牧歌あるいはダフニスとクロエ』	1902年刊	リトグラフ、紙	30.3×25×5.2cm(書籍)	うらわ美術館	
1-24	ビエール・ボナール	地中海の庭	1917～18年	油彩、カンヴァス	138.6×197.3cm	ポーラ美術館	後期のみ(8/8～9/24)
第2章 逃避、あるいは収容							
2-01	フランシス・ピカビア	アンビトリテ	1935年頃	油彩、カンヴァス	92×73.5cm	広島県立美術館	
2-02	マン・レイ	骰子城の秘密	1929年	映画	-	神戸映画資料館	
2-03	ポール・エリュアール著、マン・レイ画	『自由な手』	1937年刊	書籍	28.3×23.5×4cm(書籍)	DIC川村記念美術館	
2-04	マックス・エルンスト	『ことばの用法』(表紙:マックス・エルンスト)	1940年2月刊	雑誌	32.5×24.7cm	DIC川村記念美術館	
2-06	マックス・エルンスト	『兵士のバラード』	1972年刊	リトグラフ、紙	39.7×28.9×3cm(書籍)	うらわ美術館	
2-07	ハンス・ベルメール	ノラ	1948年	ヘリオグラヴィール、インク、紙	27.8×31.6cm	宮崎県立美術館	
2-08	ハンス・ベルメール	潮の間に	1968年	ヘリオグラヴィール、インク、紙	30.7×43.8cm	宮崎県立美術館	
2-10	ヴォルス	レンガで出来た大きな人物	1938年	グワッシュ、紙	46.5×36cm	DIC川村記念美術館	前期のみ(7/2～8/6)
2-11	ヴォルス	無題	1942/43年	グアッシュ、インク、紙	14×20cm	DIC川村記念美術館	後期のみ(8/8～9/24)
2-12	ヴォルス	赤いザクロ	1940/41～48年	油彩、カンヴァス	92×73cm	DIC川村記念美術館	
2-13	アンドレ・マッソン	雷雨	1938年	油彩、カンヴァス	46.2×55cm	宮崎県立美術館	
2-14	複数(ヴィクトル・ブローネル、アンドレ・ブルトン、マルセイユのカード遊び オスカル・ドミンゲス、マックス・エルンスト、ジャック・ エロルド、アルフレッド・ジャリ、ヴィフレド・ラム、 ジャックリーヌ・ランバ、アンドレ・マッソン)	1941/64/83年	複製	各 8.9×5.8cm	個人蔵		
2-15	アンドレ・ブルトン、マルセル・デュシャン	『ファーストペーパーズ・オブ・シュルレアリスム』	1942年刊	雑誌	26.7×18.4cm	国立西洋美術館	
2-16	ジャン・アルプ	地中海群像	1941/1965年	大理石	78.1×93.8×53.6cm	東京国立近代美術館	
2-17	ジャン・アルプ	視聴覚の形態	1942年	ブロンズ	33.5×19.5×18.5cm	宮崎県立美術館	
2-18	ジャン(ハンス)・アルプ	鳥の骨格	1947年	ブロンズ	108×57×57cm	富山県美術館	
2-19	ソニア・ドローネー	色彩のリズム	1942年	グアッシュ、紙	26×21cm	ふくやま美術館	後期のみ(8/8～9/24)
2-20	ソニア・ドローネー	色彩のリズム	1959年	グアッシュ、紙	20×16.5cm	ふくやま美術館	前期のみ(7/2～8/6)
2-21	ソニア・ドローネー	色彩のリズム	1953年	油彩、カンヴァス	100 ×220cm	ふくやま美術館	



No. 作家名	作品リスト	制作年	素材・技法	サイズ	所属先	展示期間(記載のないものは全期間展示)
2-22 ジャン・アルプ、アルベルト・マニェッリ、ゾフィー・トイバー・アルプ、ソニア・ドローネー	『ジャン・アルプ、アルベルト・マニェッリ、ゾフィー・トイバー・アルプ、ソニア・ドローネー』	1950年刊	リトグラフ、紙	26.9×20.8cm(画)	ふくやま美術館	
第3章 南仏での展開						
3-01 アンリ・マティス	ダンス	1935～36年	エッチング、アクアチント、紙	23.7×74.4cm(画)	宇都宮美術館	
3-02 アンリ・マティス	『主題と変奏』	1943年刊	書籍	24.5×32.6cm	神奈川県立近代美術館	
3-03 アンリ・マティス	『ジャズ』	1947年刊	ステンシル、紙	42.1×65.4cm(紙)	宇都宮美術館	
3-04 パブロ・ピカソ	飛びこむ人	1932年	エッチング、光沢紙のコラージュ、紙	14×11.3cm(画)	DIC川村記念美術館	前期のみ(7/2～8/6)
3-05 パブロ・ピカソ	シルヴェット	1954年	油彩、カンヴァス	100×81cm	DIC川村記念美術館	
3-08 パブロ・ピカソ	ランプの下の静物	1962年	リノカット、紙	64×53cm	いわき市立美術館	前期のみ(7/2～8/6)
3-09 パブロ・ピカソ	泉のほとりの裸婦	1962年	リノカット、紙	52.8×64cm	いわき市立美術館	後期のみ(8/8～9/24)
3-10 パブロ・ピカソ	「今日のピカソ展」のためのポスター	1969年	リトグラフ、紙	65×50cm	彫刻の森美術館 (公益財団法人彫刻の森芸術文化財団)	
3-11 パブロ・ピカソ	「ピカソ陶芸展」のためのポスター	1958年	リトグラフ、紙	65×48cm	彫刻の森美術館 (公益財団法人彫刻の森芸術文化財団)	
3-12 パブロ・ピカソ	三脚花瓶	1951年	大きな轆轤成形の花瓶(白土、呈色酸化物の装飾、白いエナメル釉にエングレービング)	75.5×28×29cm	Kanzan gallery	
3-13 パブロ・ピカソ	イーゼルのジャックリーン	1956年	丸皿(白土)	φ42cm	Kanzan gallery	
3-14 パブロ・ピカソ	雄牛のあるスペイン皿	1957年	轆轤成形の皿(赤土、釉装飾、ナイフによるエングレービング、黒いパティナ、裏面に装飾)	φ40.5cm	Kanzan gallery	
3-15 パブロ・ピカソ	横向きの山羊の顔	1952年	丸角皿(白土、化粧土による装飾の一部にブラシで釉)	φ41cm	Kanzan gallery	
3-16 パブロ・ピカソ	女のランプ	1955年	轆轤成形の花瓶(白土、化粧土による装飾、ナイフによるエングレービング、内側に釉)	35×19.5cm	Kanzan gallery	
3-17 パブロ・ピカソ	ヴァロリス	1956年	丸皿(白土、化粧土による装飾に釉、呈色酸化パラフィン)	φ42cm	Kanzan gallery	
3-18 パブロ・ピカソ	彫刻された瓶	1954年か	轆轤成形の花瓶(白土、化粧土とパラフィンによる装飾、ボーリングロッドによるエングレービング、白釉か)	H43.5, W16cm	Kanzan gallery	
3-19 パブロ・ピカソ	太陽のヤン	1963年	轆轤成形の水差(赤土、化粧土による装飾、ナイフによるエングレービング)	H28, W13cm	Kanzan gallery	
3-20 パブロ・ピカソ	ヴェールをかけた女性の大花瓶	1950年	花瓶(赤土、地に白化粧土による装飾)	H66, 口径直径31, 胴回り31.5cm	Kanzan gallery	
3-21 シュザンヌ&ジョルジュ・ラミエ	『ピカソの陶芸』	1948年刊	書籍	38.5×28.5×11.5cm(書籍)	DIC川村記念美術館	
番外 ルチアーノ・エンメル	『ピカソとの出会い』より抜粋	1954年		7分	ポローニャ映画図書館財団	
3-22 パブロ・ピカソ	円	1958年	銀	20×58×48cm	彫刻の森美術館 (公益財団法人彫刻の森芸術文化財団)	
3-23 フェルナン・レジェ	コンパスのあるコンポジション	1933年	油彩、カンヴァス	59×90cm	DIC川村記念美術館	
3-24 フェルナン・レジェ	コンポジション	1952年	陶板レリーフ	44.4×34cm	公益財団法人大川美術館	
3-25 フェルナン・レジェ	木の葉を持つ女	1952年	ブロンズ	52×41×11cm	彫刻の森美術館 (公益財団法人彫刻の森芸術文化財団)	
3-27 マルク・シャガール	天使の湾	2003年	タピスリー	200×140cm	個人蔵	

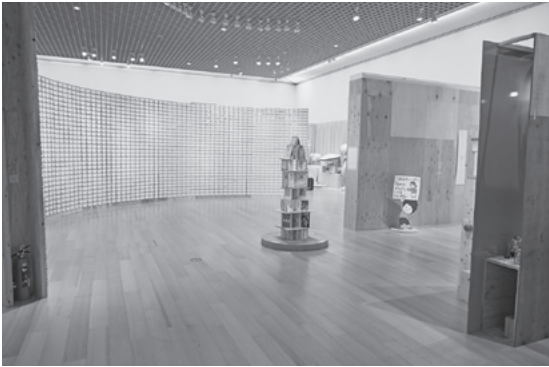
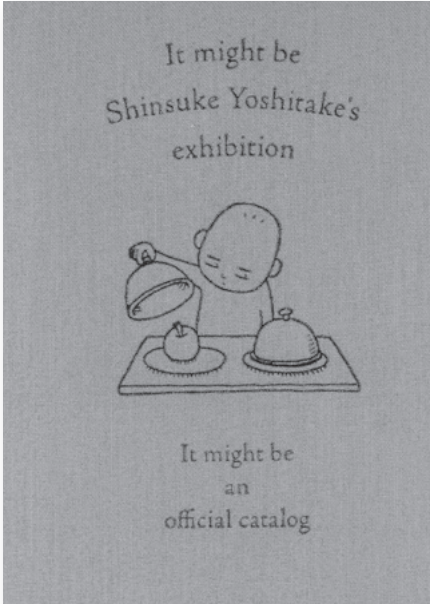
No.	作家名	作品リスト	制作年	素材・技法	サイズ	所属先	展示期間(記載のないものは全期間展示)
3-28	マルク・シャガール	青い花瓶	1978年	油彩、カンヴァス	60×73cm	ふくやま美術館	
3-29	マルク・シャガール	緑、赤、青の恋人たち(街の上で)	1983年	油彩、カンヴァス	92×73cm	宇都宮美術館	
3-30	マルク・シャガール	『ダフニスとクロエ』	1961年刊	リトグラフ、アルシュ紙	42.1×32.4cm	宇都宮美術館	
3-31	マルク・シャガール	『オデュッセイア』	1974～75年刊	リトグラフ、アルシュ紙	42.6×32.5cm	宇都宮美術館	
V-01		『ヴェルヴ』第1巻1号(表紙:アンリ・マティス)	1937年12月刊	雑誌	36.7×27.6cm	DIC川村記念美術館	
V-02		『ヴェルヴ』第1巻3号(表紙:ピエール・ボナール)	1938年6月刊	雑誌	35.5×26.5cm	DIC川村記念美術館	
V-03		『ヴェルヴ』第2巻8号(表紙:アンリ・マティス)	1940年6月刊	雑誌	36.5×27.5cm	DIC川村記念美術館	
V-04		『ヴェルヴ』第4巻13号(表紙:アンリ・マティス)	1945年刊	雑誌	37.6×28.2cm	DIC川村記念美術館	
V-05		『ヴェルヴ』第5巻17-18号(表紙:ピエール・ボナール)	1947年刊	雑誌	35.8×27cm	DIC川村記念美術館	
V-06		『ヴェルヴ』第6巻21-22号(表紙:アンリ・マティス)	1948年刊	雑誌	36.7×27.2cm	DIC川村記念美術館	
V-07		『ヴェルヴ』第7巻25-26号(表紙:パブロ・ピカソ)	1951年刊	雑誌	36.7×27.2cm	DIC川村記念美術館	
V-08		『ヴェルヴ』第8巻29-30号(表紙:パブロ・ピカソ)	1954年刊	雑誌	36.7×27.2cm	DIC川村記念美術館	
V-09		『ヴェルヴ』第8巻33-34号(表紙:マルク・シャガール)	1956年刊	雑誌	36.7×27.2cm	DIC川村記念美術館	
V-10	ピエール・ボナール	『コレスボンダンス』	1944年刊	雑誌	31×22cm	DIC川村記念美術館	
第4章 モダン・アートが南仏に遺したもの							
4-01	アンリ・ド・モンテルラン著、アンリ・マティス挿画	『バシファエ ミノスの歌(クレタ島の人々)』	1944年刊	リノカット、紙	33×35.6×3.3cm(書籍)	うらわ美術館	
4-02	アンリ・マティス	『ロンサール恋愛詞華集』	1948年刊	リトグラフ、紙	38.5×29.5cm	愛知県美術館	
4-04	アンリ・マティス	ミモザ	1951年	タペストリー	151×92.3×2.8cm	公益財団法人 池田20世紀美術館	
4-05	アンリ・マティス	『アンリ・マチス』展図録	1951年刊	書籍	36.5×26.8cm	DIC川村記念美術館	
番外	フレデリック・ロッシフ	『マティス』(未編集版)より抜粋	1950年	ビデオ(16ミリフィルムから作成) カラー、無声	3分(オリジナルは8分)	シネマテーク・ フランセーズ	
4-06		『ヴェルヴ』第9巻、35-36号(表紙:アンリ・マティス)	1958年刊	雑誌	36.7×27.2cm	DIC川村記念美術館	
4-07	パブロ・ピカソ	槍を突いた後	1959年	リノカット、紙	53.4×63.7cm	いわき市立美術館	後期のみ(8/8～9/24)
4-08	パブロ・ピカソ	闘牛	1953年	丸皿(白土、呈色酸化パラフィンによる装飾、白いエナメル)	φ42cm	Kanzan gallery	
4-09	パブロ・ピカソ	『闘牛と闘牛士』	1961年刊	書籍	39×28cm	DIC川村記念美術館	
4-10		『ヴェルヴ』第5巻、19-20号(表紙:パブロ・ピカソ)	1948年刊	雑誌	36×27×1.5cm(書籍)	DIC川村記念美術館	
4-11	パブロ・ピカソ	子ヤギと観客のいるバックス祭	1959年	リノカット、紙	52.5×63.5cm	いわき市立美術館	前期のみ(7/2～8/6)
4-12	パブロ・ピカソ	《ピカソの「草上の昼食」展 1960-1961》ポスター	1962年	リトグラフ、紙	68×52cm	彫刻の森美術館 (公益財団法人彫刻の 森芸術文化財団)	
4-13	パブロ・ピカソ	草上の昼食	1964年	陶板	51.5×62.5cm	彫刻の森美術館 (公益財団法人彫刻の 森芸術文化財団)	
4-14	パブロ・ピカソ	コート・ダジュールの宣伝用にフランス政府観光局のために制作されたポスター	1962年	リトグラフ、紙	100×66.5cm	彫刻の森美術館 (公益財団法人彫刻の 森芸術文化財団)	
4-15	パブロ・ピカソ	屋根窓の鳩	1949年	長方形の皿(白土、化粧土による装飾、ナイフによる エングレービングに一部ブラシによる軸か)	32×39cm	Kanzan gallery	
4-16	パブロ・ピカソ	スカーフ《平和のための世界青年学生祭典(東ベルリン)》	1951年	シルクスクリーン、リネン	79.0×80.5cm	個人蔵	
4-17	パブロ・ピカソ	新聞挿絵(『リュマニテ(日曜版)』掲載)	1953年 12月27日刊	新聞合本	57.5×42cm	個人蔵	
4-18	パブロ・ピカソ	挿絵「ユーリイ・ガガーリンの肖像」(『リュマニテ』掲載)	1961年 4月18日刊	新聞合本	57.5×42cm	個人蔵	
4-19	マルク・シャガール	『聖書』	1956年刊	エッチング、紙	44.3×33.8cm	宇都宮美術館	
4-20		『ヴェルヴ』第10巻、37-38号(表紙:マルク・シャガール)	1960年刊	雑誌	36.7×27.2cm	DIC川村記念美術館	
4-21	マルク・シャガール	ダヴィデ王の夢	1966年	油彩、カンヴァス	207×275cm	DIC川村記念美術館	

ヨシタケシンスケ展かもしれない

令和5年10月15日(日)～12月24日(日) 61日間
展示室2、3、中央ホール

絵本作家としてのデビュー作『りんごかもしれない』（2013年）以降、子どもから大人まで大ブームを巻き起こしているヨシタケシンスケ。頭のなかに広がる果てしない妄想やアイデア、クスツと笑える人のクセやしぐさ、世界の真理をつくようなものの見方を細いペン先で描き続け、多くの人々をひきつけています。ヨシタケさんは絵本を出版する以前から、イラストレーター、造形作家として活躍してきました。初の大規模個展となる本展では、作家の発想の源である小さなスケッチや絵本原画、本展のためにヨシタケさんが考案した立体物や愛蔵のコレクションなどを展示しました。

【観覧者数】 53,815人
【観覧料】 一般 1000円(800円)
大学生・高校生 800円(640円)
中学生・小学生 600円(480円)
【主催】 宇都宮美術館、朝日新聞社、白泉社
【協力】 アリス館、PHP研究所、ブロンズ新社、ポプラ社

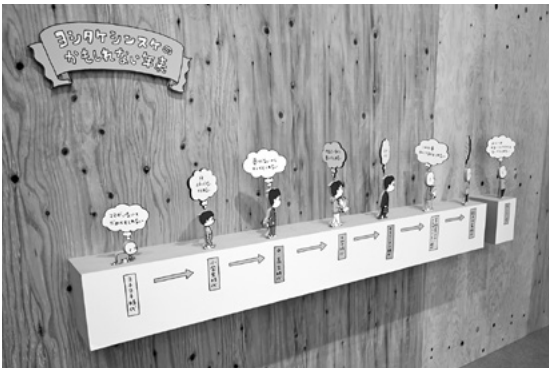


No.	タイトル	種類	材質
1	『りんごかもしれない』 ブロンズ新社 2013年	原画	紙・ペン
2		資料(編集者からのアイデア)	紙・インク・シャープペンシル
3		資料(ヨシタケからの提案)	紙・ペン
4		アイデアスケッチ	紙・シャープペンシル
5	『ぼくのニセモノをつくるには』 ブロンズ新社 2014年	原画	紙・ペン
6	『りゆうがあります』 PHP研究所 2015年	アイデアスケッチ	紙・シャープペンシル
7		原画	紙・ペン
8	『ふまんがあります』 PHP研究所 2015年	アイデアスケッチ	紙・シャープペンシル
9		アイデアスケッチ	紙・ペン
10		原画	紙・ペン
11	『もう めげない』 ブロンズ新社 2015年	原画	紙・ペン
12		アイデアスケッチ	紙・シャープペンシル
13		本の設計図	紙・シャープペンシル
14		本の設計図	紙・ペン
15	『このあと どうしちゃおう』 ブロンズ新社 2016年	原画	紙・ペン

No.	タイトル	種類	材質
16	『なつみはなんにでもなれる』 PHP研究所 2016年	アイデアスケッチ	紙・シャープペンシル
17		原画	紙・ペン
18	『つまない つまない』 白泉社 2017年	アイデアスケッチ	紙・シャープペンシル
19		原画	紙・ペン
20	『あるかしら書店』 ポプラ社 2017年	資料	紙・ペン
21		アイデアスケッチ	紙・シャープペンシル
22		原画	紙・ペン
23	『こねてのぼして』 ブロンズ新社 2017年	アイデアスケッチ	紙・シャープペンシル
24		アイデアスケッチ	紙・ペン・シャープペンシル
25		本の設計図	紙・シャープペンシル
26		原画	紙・ペン
27	『おしっこちょっぴりもれたろう』 PHP研究所 2018年	アイデアスケッチ	紙・シャープペンシル
28		原画	紙・ペン
29		原画	紙・ペン・シャープペンシル



No.	タイトル	種類	材質
30	『みえるとか みえないとか』 アリス館 2018年	アイデアスケッチ	紙・シャープペンシル
31		原画	紙・ペン
32	『それしか ないわけ ないでしょう』 白泉社 2018年	原画	紙・シャープペンシル
33		アイデアスケッチ	紙・シャープペンシル
34		原画	紙・ペン
35	『ころべばいいのに』 ブロンズ新社 2019年	アイデアスケッチ	紙・シャープペンシル
36		原画	紙・ペン
37	『わたしのわごむはわたさない』 PHP研究所 2019年	原画	紙・ペン
38	『なんだろう なんだろう』 光村図書 2019年	原画	紙・ペン
39	『ものは言いよう』 白泉社 2019年	原画	紙・ペン
40	『もしものせかい』 赤ちゃんとママ社 2020年	原画	紙・ペン
41	『ねぐせのしくみ』 ブロンズ新社 2020年	原画	紙・ペン
42	『あつかったら めげばいい』 白泉社 2020年	原画	紙・ペン
43		原画	紙・ペン・シャープペンシル
44		アイデアスケッチ	紙・シャープペンシル
45		付録版(『MOE』2020年3月号)	
46	『にげて さがして』 赤ちゃんとママ社 2021年	原画	紙・ペン
47	『あきらがあけてあげるから』 PHP研究所 2021年	原画	紙・ペン
48	『あんなに あんなに』 ポプラ社 2021年	原画	紙・ペン
49		アイデアスケッチ	紙・シャープペンシル
50		6穴スケッチ	紙・ペン
51	『かみはこんなに くちゃくちゃだけど』 白泉社 2022年	原画	紙・ペン
53	トイキ(赤)	立体作品	石膏
54	トイキ(白)	立体作品	石膏
55	無題	立体作品	木製
56	無題	立体作品	木製
57	ハンガーなで肩	立体作品	木、スチール
58	無題	立体作品	スチロールに着色
59	無題	立体作品	スチロールに着色
60	西日	立体作品	スチロールに着色



No.	タイトル	種類	材質
61	強いんだが弱いんだが	立体作品	スチロールに着色
62	無題	立体作品	クレイ
63	無題	立体作品	クレイ
64	無題	立体作品	ブロンズ
65	無題	立体作品	合板
66	無題	立体作品	スチロールに着色
67	ぶくぶく観音	立体作品	木、ガラス瓶、金属ほか
68	オレンジ帽子のおじさん	立体作品	クレイ
69	無題	立体作品	クレイ
70	カブリモノシリーズ(ACcess100)	立体作品	
71	カブリモノシリーズ(breath)	立体作品	
72	カブリモノシリーズ(gyrohead)	立体作品	
73	カブリモノシリーズ(Wing)	立体作品	板に絵、蝶番
74	カブリモノシリーズ(人という字)	立体作品	
75	手おくれ君	立体作品	スチロールに着色
76	カブリモノシリーズ DIVIDER	立体作品	
77	カブリモノシリーズ GOOD EAR	立体作品	
78	カブリモノシリーズ P.O.M system2	立体作品	
79	カブリモノシリーズ AURORA	立体作品	
80	カブリモノシリーズ HOOK ME	立体作品	
81	無題	立体作品	
82	無題	立体作品	
83	無題	立体作品	
84	あなたの未来はこれかもしれない	造作物	
85	アイツ	造作物	
86	ほんとうの会場はこっちかもしれない	一式	
87	6穴スケッチ	一式	コピー
88	6穴スケッチ	一式	実物
89	私物・書籍	一式	

イヴ・ネッツハマー ささめく葉は空気の言問い

令和6年3月10日(日)～5月12日(日) 58日間
プロムナード・ギャラリー、中央ホール、展示室2、3

スイス現代美術を代表する映像インスタレーション作家、イヴ・ネッツハマーによる、日本で最初の個展です。イヴ・ネッツハマー(1970-)は、通常の語りの論理を超えて展開するデジタル・アニメーションの無言劇に、自動機械など風変わりなオブジェを掛け合わせ、高度にデジタル化された現代社会のただなかで、世界の起源や自己の根拠をめぐる問いが忘却の淵に押しやられながらもなお明滅する領域を、繊細に描き出してきました。

展覧会が開催される土地や建物の記憶の深層に潜行し、起源の謎を照らし出す作風で知られるネッツハマー。今回の展示を準備するにあたって彼は、まず2019年に宇都宮市内の大谷採石場跡、2023年には近隣の足尾銅山跡に足を運び、侵しがたい闇の地下空洞に魅了されています。

そうした現地での体験に触発され、元来「潜ること」を作品の特徴的な身振りとしてきた彼が宇都宮で滞在制作したのが、竹を主な素材として3Dプリンターによるオブジェ群と映像を配し、展示室1室全体を使って組み上げた大がかりなインスタレーション、《筏》です。そこでは竹どうし、あるいは竹とドラム缶がぶつかり合う空虚で奥深い音響も、たくみに作品のうちに取り込まれました。

ネッツハマーはさらに、宇都宮美術館の建築の要となる「中央ホール」のために、3つのLEDホログラムファンを装備して空中に浮かび自転するオブジェ、《奇妙

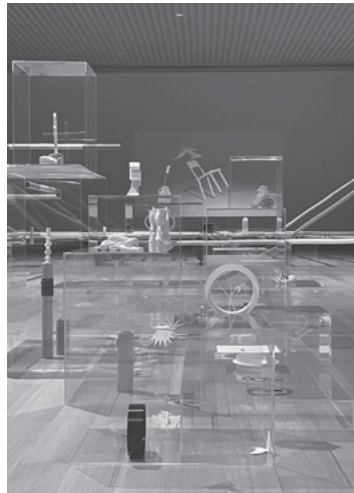
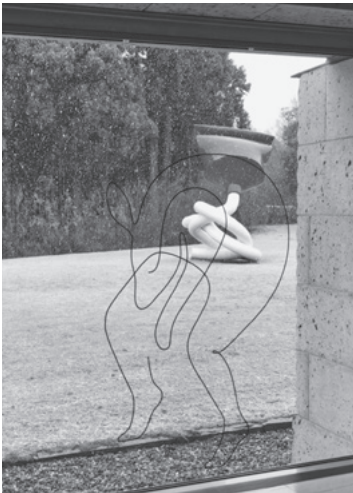
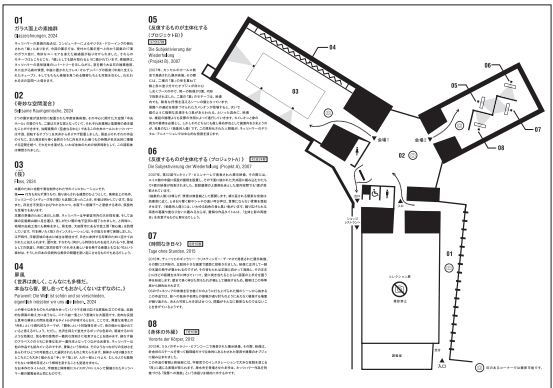


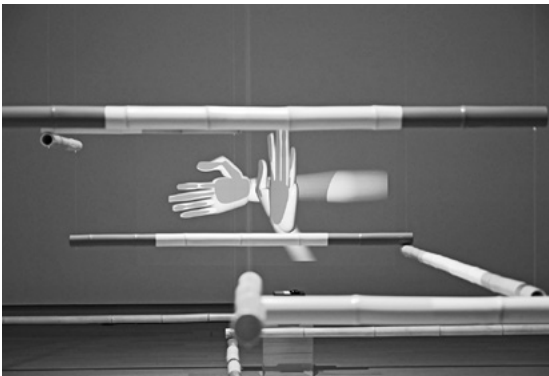
な空間混合》を設置しました。放射状に配置された3つの展示室それぞれ、そして窓外に広がる針葉樹の森と落葉樹の森という幾つもの異なる世界を攪拌しつつ、その中心で、彼のトレードマークである目鼻をもたない〈抽象的人像〉の映像を展開。閉じ込められた場所で言葉を発することなくもがき続ける〈人像〉の動きがいつしか胎動の踊りと化すような、魔術的な光景を現出させました。

展覧会では、それら新作インスタレーションと合わせ、彼がこれまでに手掛けた映像作品から4本を選んで上映しています。顔と言葉をもたない〈抽象的人像〉が登場するそれらの映像を通じ、「潜る」モチーフとともに、深層への入口としての傷、海洋生物の遠い呼び声と身体言語、主体とその影、二重言語の暗喩とも解しうる二重化された葉といった、ネッツハマーの問題意識の鍵となるイメージ群をご覧いただきました。



【観覧者数】	8,641人		
【観覧料】	一般	1,000円(800円)	
	大学生・高校生	800円(640円)	
	中学生・小学生	600円(480円)	
【主催】	宇都宮美術館、下野新聞社		
【後援】	在日スイス大使館		
【助成】	スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団		
【関連事業】			
詳細は「教育普及 展覧会関連事業」(p.70)をご覧ください。			
●ワークショップ			
「3Dプリンターを使って自分だけのチョコレート型をつくろう」			
1日目: 令和6年3月30日(土)午後1時～午後4時			
2日目: 令和6年3月31日(日)午前10時～正午(両日参加)			
●担当学芸員による見どころガイド			
担当学芸員による展覧会の作品解説を実施しました。			
【印刷物】	ポスター	B2判	
	チラシ	A4判	
	会場マップ	A3判二つ折り	
	図録	A4判	
【担当】	石川 潤、小堀修司、石井利香		





No.	作品名	制作年	技法、素材	寸法(cm)	備考
1	ガラス面上の素描群	2024年	17点のデジタル・ドローイング 無光沢の黒い粘着フィルムに出力しガラス面上に貼り付け	ガラス窓 205×210cm 16面 205×310cm 1面	
2	奇妙な空間混合	2024年	上部: 3台のLEDホログラムファンによるコンピューター・アニメーション映像(頭:6分2秒/手:0分55秒/足:1分17秒)、 吊り下げ式ターンテーブル、ワイヤー、 アルミニウム管(無光沢の黒で焼付塗装)、竹(部分的に彩色) 下部: 平面モニターによるコンピューター・アニメーション映像 (1分09秒)、 床置き式ターンテーブル	中央ホール全体を作品化するインスタレーション	
3	筏	2024年	3台のプロジェクターによるコンピューター・アニメーション映像 (A:6分11秒/B:7分41秒/C:10分33秒)、 91本の竹(部分的に彩色)、針金、16本のドラム缶、8台のターンテーブル、 18台のアクリルケース、薄葉紙、3Dプリンターによる54体のオブジェ、 5枚の紙のシート、1台の小型モニター	展示室3全体を作品化するインスタレーション	
4	屏風《世界は美しく、こんなにも多様だ。 本当なら皆、 愛し合ってもおかしくないはずなのに。》	2024年	インクジェット、紙、木製パネル、蝶番	170×2520cm(二十八曲一隻)	
5	反復するものが主体化する(プロジェクトB)	2007年	コンピューター・アニメーション映像 (37分37秒)	—	円形画面。画面外周部に装飾壁画。
6	反復するものが主体化する(プロジェクトA)	2007年	コンピューター・アニメーション映像 (42分42秒)	—	
7	時間なき日々	2015年	コンピューター・アニメーション映像 (8分10秒)	—	円形画面。画面外周部に装飾壁画。
8	身体の外縁	2012年	コンピューター・アニメーション映像 (7分10秒)	—	

*作家名はすべてイヴ・ネットハマー

作品収集・保管

収蔵作品

宇都宮美術館では、ファイン・アートとデザインを視野にいれ、以下のような収集方針に基づいて作品を収集しています。

[1]地域と美術

①世界の美術

20世紀を中心に、「理念と構成の作家たち」として、パウル・クレー、ワシリー・カンディンスキーなどバウハウスに関連した作家たち、また、「色彩と装飾の作家たち」としてマルク・シャガール、ラウル・デュフィなどの作家たちの作品を収集しています。また、ファイン・アートとデザインを結ぶシンボル作品として、ルネ・マグリットを所蔵しています。

②日本の美術

日本の美術に関しては、近代から現代までを幅広く収集しています。「創作版画」「ジョルジュ・ビゴー・コレクション」「MMGコレクション」を含み、19世紀末から今日までの日本美術の展開を回顧できるコレクション形成を目指しています。

③宇都宮にゆかりの作家たち

宇都宮に関係の深い作家たちの作品を収集しています。

[2]生活と美術

20世紀を中心に、アール・ヌーヴォーから現代まで、幅広く世界・日本のデザインを扱っています。ポスターなどのグラフィック・デザイン、家具調度品などのプロダクト・デザインを収集しています。

[3]環境と美術

野外彫刻を設置しています。美術館北庭にクレス・オルデンバーグ、公園部分にサンドロ・キア、パリー・フラナガンの3点の彫刻作品を収蔵しました。

分野別令和5年度新収蔵作品数

分野	種別	購入	寄贈	合計
絵画	水彩・素描	4		4
	版画*	1	2	3
	小計	5	2	7
資料・その他		9		9
	小計	9		9
合計				16

収集方針別所蔵作品数

(令和6年3月31日現在)

収集方針	分野	点数
地域と美術	世界の美術	54
	日本の美術	3,341
	宇都宮ゆかりの美術	218
	小計	3,613
生活と美術	デザイン	2,869
環境と美術	環境と美術	5
資料・その他	資料	489
合計		6,976

年度別所蔵作品数

(令和6年3月31日現在)

	日本画	油彩・平面	水彩・素描	版画*	彫刻・立体	グラフィック・デザイン	プロダクト・デザイン	デザインその他	写真	工芸	アーティスト・ブック	資料・その他	合計
平成2年	6												6
平成3年	5		1										6
平成4年	2	5		22	2								31
平成5年	1	36	73	38								4	152
平成6年		16	2	3		832	190		8				1,051
平成7年	1	52	92	41	7	7	2		2			11	215
平成8年	6	32	123	58	24	77	60					7	387
平成9年	2	12		4	3	56	3		12				92
平成10年	1	10	2	7	8	13	1						42
平成11年		3		17		54	19					6	99
平成12年	13	4	25	17	24	10			1			1	95
平成13年	6	27	18	8	1	4	4		5				73
平成14年	2	7		3	4	234						201	451
平成15年	4	5	2	6	5	200	1						223
平成16年	5	8	1	36	9	207							266
平成17年		7	1	3		20				1			32
平成18年	9	8	8	10	6	128	1						170
平成19年		1	4	39	9	490							543
平成20年	1	84	190	1,829	15	33	6				20	140	2,318
平成21年		4		4		75			3			3	89
平成22年		60	10			1					3	1	75
平成23年	2	8											10
平成24年		2		68	5	16			3			1	95
平成25年		2			4	1							7
平成26年	2	5			61	2							70
平成27年	3	4	1	11	2	1							22
平成28年	8	2	2		1								13
平成29年	2		23	8	1	36	19	1				1	91
平成30年		18	1		2								21
令和元年		1		5		4							10
令和2年		3			2	69							74
令和3年						3	2						5
令和4年				11		11						104	126
令和5年			4	3								9	16
合計	81	426	583	2,251	195	2,584	308	1	34	1	23	489	6,976

* 版画・版画集・版画本・版画誌

新収蔵作品

令和5年度の作品購入・寄贈による新収蔵作品は次のとおりです。

水彩・素描	4点(すべて購入)
版画	3点(うち購入1点、寄贈2点)
資料・その他	9点(すべて購入)

No.	作家名	作品名	制作年	技法、素材	寸法(cm)	収蔵の経緯
●水彩・素描(4点)						
1	ジョルジュ・ビゴー	書斎、あるいは、東京上二番町の日本の室内	1885	水彩・ペン・鉛筆、紙	14.6×20.5	購入
2	ジョルジュ・ビゴー	日本風景	1887	水彩・鉛筆、紙	17.2×26.8	購入
3	ジョルジュ・ビゴー	日本の看護師—— 仮設病院の布類整理場入口にて	1896	水彩・鉛筆、紙	29.1×19.0	購入
4	ジョルジュ・ビゴー	立てる芸妓	1927頃	ペン・色鉛筆・鉛筆、紙	22.9×17.8	購入
●版画(3点)						
1	アンリ・マティス	挿画本『シャルル・ドルレアン詩集』	1950刊	リトグラフ、紙	41.2×27.6	購入
2	クレス・オルデンバーグ	ソフト・トイレット No. 2	1972	リトグラフ、紙	50.0×36.0	寄贈
3	クレス・オルデンバーグ	サン・フランシスコ、アルカトラズ島のための 巨大モニュメント案「巨大なドラム・ペダル」	1973	リトグラフ、紙	72.5×57.5	寄贈
●資料・その他(9点)						
1	ジョルジュ・ビゴー	絵葉書「エジプトの11番目の災い」	1900年代	リトグラフ、紙	8.7×13.9	購入
2	ジョルジュ・ビゴー	絵葉書「オランダのチーズと『逃亡』王配」	1900年代	リトグラフ、紙	8.7×13.9	購入
3	ジョルジュ・ビゴー	絵葉書「結局は、思い邪なる者に災いあれ！」	1900年代	リトグラフ、紙	8.7×13.9	購入
4	ジョルジュ・ビゴー	絵葉書「優れた庭師に—— 特産品のデュシェス梨」	1900年代	リトグラフ、紙	8.7×13.9	購入
5	ジョルジュ・ビゴー	絵葉書「チェンバレンのプレゼント—— 細やかな心遣い」	1900年代	リトグラフ、紙	13.9×8.7	購入
6	ジョルジュ・ビゴー	絵葉書「ほら、相変わずオルセー河岸通りが ホームだな！」	1900年代	リトグラフ、紙	8.7×13.9	購入
7	ジョルジュ・ビゴー	絵葉書「モンテリマールにて—— マリアンヌ、搾り取らせろ！！」	1900年代	リトグラフ、紙	8.7×13.9	購入
8	ジョルジュ・ビゴー	絵葉書「わしの借金を王のダイヤモンドで 賄えれば！」	1900年代	リトグラフ、紙	8.7×13.9	購入
9	ジョルジュ・ビゴー	絵葉書「わたしも画家なのだ！」	1900年代	リトグラフ、紙	8.7×13.9	購入

貸出

展覧会名	会場	会期
杉浦非水 時代をひらくデザイン	島根県立石見美術館 たばこと塩の博物館 三重県立美術館 福岡県立美術館 静岡市美術館 群馬県立近代美術館	令和3年7月3日～令和3年8月30日 令和3年9月11日～令和3年11月14日 令和3年11月23日～令和4年1月30日 令和4年4月15日～令和4年6月12日 令和4年11月19日～令和5年1月29日 令和5年4月22日～令和5年6月18日
	作家名	作品名
	杉浦非水	非水図按集 第一輯
展覧会名	会場	会期
川島理一郎 自然から得た生命の律動 (足利市立美術館) 川島理一郎展—— 描くことは即ち見ること (栃木県立美術館)	足利市立美術館	令和4年10月29日～令和4年12月25日
	栃木県立美術館	令和5年4月15日～令和5年6月18日
	作家名	作品名
川島理一郎	川島理一郎	舞妓
		裸婦と山羊
展覧会名	会場	会期
芸術家たちの南仏	DIC川村記念美術館 宇都宮美術館 ふくやま美術館	令和5年3月11日～令和5年6月18日 令和5年7月2日～令和5年9月24日 令和5年10月7日～令和5年12月10日
	作家名	作品名
	ラウル・デュフィ	花束
マルク・シャガール	マルク・シャガール	緑、赤、青の恋人たち(街の上で)
		屏絵(リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		ラモーンとドリュアスの夢 (リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		牧場の春(リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		泉のほとりのダフニスとクロエ (リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		クロエの審判 (リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		クロエの接吻 (リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		夏の真昼(リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		ニンフたちの洞窟 (リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		葡萄の収穫 (リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		フィレータースの果樹園 (リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		誘拐されたクロエ (リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		牧神パーンの饗宴 (リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		春(リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		エコー 森の精 (リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		クロエ(リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)

展覧会名	会場	会期
芸術家たちの南仏	作家名	作品名
		マルク・シャガール
		果樹園(リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		祝宴で娘を見つけたメガクレース (リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		ニンフたちの洞窟での婚礼の宴 (リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		結婚(リーヴル・イリュストレ、ロンゴス著『ダフニスとクロエ』)
		第1歌 1-I 神々の集会(リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		第2歌 1-II テレマコスの舟を導くアテナ (リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		第6歌 1-VII ナウシカアの前のオデュッセウス (リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		第7歌 1-VIII アルシノースの宮殿 (リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		第8歌 末尾の挿絵(リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		第9歌 1-XI …私がオデュッセウスです (リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		第9歌 1-XII ポリュフェモス(リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		第10歌 1-XIV キルケー (リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		第12歌 末尾の挿絵(リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		第12歌 1-XVIII セイレーンたち(リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		第13歌 2-I アルシノース宮のオデュッセウス (リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		第13歌 2-II 物乞いを装ったオデュッセウス (リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		第19歌 冒頭の挿絵(リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		第21歌 2-XIV ベネロベシアとオデュッセウスの弓 (リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		第22歌 2-XVI オデュッセウスとベネロベシア (リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		第23歌 2-XVIII 祝祭(リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		第23歌 2-XIX オデュッセウスのベッド (リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		第24歌 2-XX 冥府にて(リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		回復された平和(リトグラフ挿絵本『オデュッセイア』)
		人類の創造(リーヴル・イリュストレ『聖書』)
		箱舟の鳩(リーヴル・イリュストレ『聖書』)
		虹(リーヴル・イリュストレ『聖書』)
		ソドムへ降りる(リーヴル・イリュストレ『聖書』)
		アブラハムの犠牲(リーヴル・イリュストレ『聖書』)
		ヤコブの梯子(リーヴル・イリュストレ『聖書』)
		ヤコブと天使の闘い(リーヴル・イリュストレ『聖書』)
		燃える茨(リーヴル・イリュストレ『聖書』)
		紅海の道(リーヴル・イリュストレ『聖書』)
		岩から水を噴き出させるモーセ(リーヴル・イリュストレ『聖書』)
		律法の石板を授かるモーセ(リーヴル・イリュストレ『聖書』)
		黄金の仔牛(リーヴル・イリュストレ『聖書』)

展覧会名	会場	会期
芸術家たちの南仏	作家名	作品名
		マルク・シャガール
		弓の歌(リーヴル・イリュストレ『聖書』)
		エルサレムに運ばれる聖櫃(リーヴル・イリュストレ『聖書』)
		ダヴィデとバテシバ(リーヴル・イリュストレ『聖書』)
		ヤコブを哀れむ神(リーヴル・イリュストレ『聖書』)
		エルサレムへの恩寵(リーヴル・イリュストレ『聖書』)
	アンリ・マティス	道化師(版画集『ジャズ』)
		サーカス(版画集『ジャズ』)
		白い象の悪夢(版画集『ジャズ』)
		馬、女曲芸師、道化師(版画集『ジャズ』)
		イカロス(版画集『ジャズ』)
		ピエロの埋葬(版画集『ジャズ』)
		コドマ兄弟(版画集『ジャズ』)
		ナイフを投げる人(版画集『ジャズ』)
		運命(版画集『ジャズ』)
		礁湖(版画集『ジャズ』)
		礁湖(版画集『ジャズ』)
		礁湖(版画集『ジャズ』)
		ダンス
展覧会名	会場	会期
春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から 岡鹿之助へ	東京ステーションギャラリー 栃木県立美術館 長野県立美術館 碧南市藤井達吉現代美術館	令和5年9月16日～令和5年11月12日 令和6年1月13日～令和6年3月3日 令和6年3月16日～令和6年5月12日 令和6年5月25日～令和6年7月7日
	作家名	作品名
	岸田劉生	少年肖像(村上巖氏十七歳)
展覧会名	会場	会期
特別展 那須塩原風景画譚	那須塩原市那須野が原博物館	令和5年10月7日～令和6年1月14日
	作家名	作品名
	松本哲男	壮
	灰野文一郎	八月の那須山
展覧会名	会場	会期
ジョセフ・アルバースの授業 色と素材の実験室	DIC川村記念美術館	令和5年7月29日～令和5年11月5日
	作家名	作品名
	ヨーゼフ・アルバース	ティー・グラス(マドラー、受皿付き)
展覧会名	会場	会期
今村源 遅れゆくものの行方	水戸芸術館現代美術ギャラリー	令和5年11月3日～令和6年1月28日
	作家名	作品名
	今村 源	1997-7 シダ
		1997-7 シワ
		1997-7 ハコ

燻蒸

令和5年度は燻蒸及び薬剤噴霧を行いました。

作業期間:令和6年2月7日(水)～令和6年2月10日(土)
作業範囲と種別:展示室1・2・3の燻蒸、中央ホールのガラス下部及び吹き抜けへの噴霧、プロムナードギャラリーとコリドールの排気口の燻蒸(計約18000立方メートル)

投薬:ピレスロイド系殺虫成分シフェノトリンを液化炭酸ガスで溶解したものの噴霧、及びその濃度維持による燻蒸
効果:供試虫(ヒラタコクスストモドキ)の殺虫効果は100%

修復

[1]～[2]日名子実三

[1]《フォーレングムの女》

1930年 石膏 54.5×34.0×32.0cm

[2]《弓を持つ武人像(丘に立つ忠魂碑部分)》

1931年 石膏 73.0×26.0×26.7cm

修復前状態:

これら2点の作品には、経年の劣化などにより像本体の汚れや傷が多数見られました。また、石膏という繊細な素材であるために、持ち運び等のたびに作品にダメージが蓄積し、亀裂も見られました。展示にも保存にも良い状態ではなく、また、作品の移動や展示に由来するダメージを軽減する方策を検討する必要がありました。

修復状況:

- ①対象作品の汚損や劣化の状態を確認し、像内部の汚れの除去を行いました。
- ②長ナットを仕込んだ木材を垂木として像内側の底部に装着・固定しました。
- ③各作品に対して台座(40.0×40.0×3.0cm、桤材)を用意し、像内の長ナットを用いて作品を台座に固定しました。
- ④作品表面の汚れを落とし、亀裂・欠損・傷等の補修処置を施し、必要に応じて補彩を行いました。

*作品寸法はすべて縦×横×奥行

宇都宮市美術作品等収集評価委員会

宇都宮市に宇都宮市美術作品等収集評価委員会を置き、収集する作品の選定及び評価に関する調査審議を行っています。

(令和6年3月31日現在)

宇都宮市美術作品等収集評価委員会		
氏名	役職	備考
大木礼子	さくら市ミュージアム 荒井寛方記念館副館長兼学芸係長	
大谷省吾	東京国立近代美術館副館長	
杉村浩哉	慶應義塾大学教授、栃木市立美術館館長	
長門佐季	神奈川県立近代美術館企画課長	
沼田英子	昭和音楽大学学芸員課程特任教授	
橋本真司	栃木県立美術館副館長兼学芸課長	
平野 到	埼玉県立近代美術館学芸主幹	
樋田豊次郎	金沢美術工芸大学客員教授	委員長
前山裕司	新潟市美術館館長	副委員長
増渕鏡子	福島県立美術館副館長心得兼学芸課長	

委員会開催実績		
開催年月日	会場	審査作品数
令和5年12月27日(水)	宇都宮美術館会議室	購入作品14点 寄贈作品2点

教育普及

美術講座

美術講座

担当：黒木彩香

美術講座

森の中の美術館—芸術と空間の至福な関係—

建築家・岡田新一による当館の建築は、周囲の森と調和した景観によって安らぎの時間を生み出し、多くの来館者に親しまれてきました。四半世紀を過ぎ今なお注目される当館の建築に秘められた願いを、基本設計に関わった建築家・津嶋功氏に語っていただきました。ルイジアナ美術館を含む海外の美術館調査時のエピソードや、当館の建築を自然に溶け込ませるための細かな仕組みなど、貴重なお話をうかがう機会となりました。

講師 津嶋 功氏

(建築家／株式会社岡田新一設計事務所 代表取締役社長)

日時 令和6年3月17日(日) 午後2時～3時30分

会場 講義室

参加人数 40人

印刷物 チラシ B5判



展覧会関連事業

とびたつとき 池田満寿夫とデモクラートの作家

担当：伊藤伸子

講演会

版画を始めたころの思い出

講師 山本容子氏(版画家)

日時 令和5年5月28日(日)午後2時～午後3時30分

会場 講義室

参加人数 67人

池田満寿夫や泉茂ら本展出品作家たちとの交流を当時の貴重な写真を交えてお話しくたるとともに、現在の山本氏の版画制作の様子もスライドでご紹介いただきました。



見どころ解説(スライド上映トーク)

会場 講義室

日時、参加人数

1	令和5年5月13日(土)午後2時～	16人
2	令和5年5月27日(土)午後2時～	18人
3	令和5年6月10日(土)午後2時～	10人
合計		44人

第15回宇都宮エスペール賞 藤原彩人展
像化ー構造を施す捻り物ー
担当：小堀修司、石井利香

講演会

人物彫刻のゆくえ

講師 棚田康司氏(彫刻家)、藤原彩人氏
日時 令和5年5月20日(土) 午後2時～午後4時
会場 講義室
参加人数 78人

ゲストに棚田康司氏を迎え、藤原さんとの対談を行いました。出品作品を題材に、人物彫刻の原題における課題と意義について迫りました。



ワークショップ

手びねりでイキモノを作る
一握りの粘土からイメージを広げよう

講師 藤原彩人氏
日時 令和5年5月27日(土)、6月17日(土) 午後2時～午後4時
会場 森のアトリエ、うつのみや文化の森公園
参加人数 24人

美術館の周囲の森で粘土を加工するための道具に用いる素材を集めました。そして、手で握った粘土からイメージを広げ、オリジナルの道具を使って、イキモノの像を作りました。後日、焼成した作品を囲み、講評会を行いました。



藤原彩人と担当学芸員によるギャラリー・トーク

会場 展示室2
日時、参加人数
1 令和5年5月14日(日)午後3時～午後4時 29人
2 令和5年5月21日(日)午後3時～午後4時 26人
3 令和5年6月4日(日)午後3時～午後4時 59人
合計 114人



芸術家たちの南仏

担当：藤原 啓

講演会

地中海——美術・風土・歴史

講師 巖谷國士氏(仏文学者・美術批評家・明治学院大学名誉教授)
日時 令和5年7月8日(土) 午後2時～午後4時
会場 講義室
参加人数 82人

本展出品作が生まれた南仏の町をご紹介いただくとともに、作品の背景にある南仏の特徴的な文化について、それを育んだ地中海の歴史・風土を踏まえて解説していただきました。



映画上映会

美しき諍い女
(ジャック・リヴェット監督、1991年)

日時 令和5年8月20日(日) 12時～午後5時
会場 講義室
参加人数 67人

本展の舞台である南仏で撮影された映画の上映会を行いました。南仏のアトリエで繰り広げられる芸術家とモデルの対決と、それを取り巻く人々の心の動きを通して、この地での芸術制作について想像をめぐらせる機会になりました。



ギャラリー・トーク

会場 展示室2、3
日時、参加人数
1 令和5年7月29日(土)午後2時～ 60人
2 令和5年8月5日(土)午後2時～ 35人
3 令和5年9月2日(土)午後2時～ 48人
4 令和5年9月9日(土)午後2時～ 63人
合計 206人

イヴ・ネッツハマー
ささめく葉は空気の言問い
担当：石川 潤、小堀修司、石井利香

ワークショップ

3Dプリンターを使って自分だけの
チョコレート型をつくろう！

講師 石川将士氏(金工／造形作家)

日時

1日目:令和6年3月30日(土) 午後1時～午後4時

2日目:令和6年3月31日(日) 午前10時～正午 ※両日参加

会場 プロムナード・ギャラリー (1日目)

美術館レストラン「バレット」(2日目)

参加人数 6人

3Dプリンターを用いた立体造形の体験です。1日目、参加者にデザイン画を描いてもらい、それを3Dデータに変換してプリントしたものを原型として、シリコンで菓子型を制作。2日目はその型を用いてチョコレートを作りました。

自動化されたデジタル機器ならではの造形感覚と、実際に形にする際になお要請される職人的な手仕事。その興味深い兼ね合いが浮かび上がるワークショップとなりました。



見どころガイド(担当学芸員によるギャラリー・トーク)

会場 プロムナード・ギャラリー、中央ホール、展示室2・3

日時、参加人数

1 令和6年3月23日(土)午後2時～ 25人

2 令和6年4月6日(土)午後2時～ 31人

3 令和6年4月20日(土)午後2時～ 30人

合計 86人

学校・地域との連携

スクール・プログラム

担当：小堀修司、古本智恵、石井利香



当館では、学芸員による見どころ紹介、ボランティアとの対話型鑑賞、バックヤードツアーなど、さまざまな「スクール・プログラム」を用意しています。今年度は、例年以上に高校、専門学校、大学に来館いただき、それぞれの来館目的に応じたオリジナルのプログラムづくりの機会に恵まれました。今後も、より多くの学校にスクール・プログラムを活用してもらえるよう工夫を凝らし、学校とのより良い連携を模索していきたいと思います。

No.	日時	団体名	参加人数	見学内容
1	令和5年4月28日	宇都宮准看護高等専修学校	38	コレクション展
2	令和5年5月9日	国分寺特別支援学校	11	とびたつとき 池田満寿男とデモクラートの作家展、第15回宇都宮エスペール賞 藤原彩人展、コレクション展
3	令和5年5月12日	児童養護施設アリスとテレス	6	とびたつとき 池田満寿男とデモクラートの作家展、第15回宇都宮エスペール賞 藤原彩人展、コレクション展
4	令和5年6月17日	益子町立田野中学校美術部	19	とびたつとき 池田満寿男とデモクラートの作家展、第15回宇都宮エスペール賞 藤原彩人展、コレクション展
5	令和5年6月18日	とちぎ青少年センター 子どもわくわく体験教室	30	とびたつとき 池田満寿男とデモクラートの作家展、第15回宇都宮エスペール賞 藤原彩人展、コレクション展、バックヤードツアー
6	令和5年7月7日	のざわ特別支援学校	19	芸術家たちの南仏展、コレクション展
7	令和5年7月15日	宇都宮女子高校	33	芸術家たちの南仏展、コレクション展
8	令和5年7月25日	鹿沼市立西中学校美術部	14	芸術家たちの南仏展、コレクション展
9	令和5年7月27日	上三川町明治中学校	14	芸術家たちの南仏展、コレクション展
10	令和5年8月1日	栃木教研芳賀地区教育研究会美術部会	7	芸術家たちの南仏展、コレクション展
11	令和5年8月2日	鹿沼市立北犬飼中学校 美術部	26	芸術家たちの南仏展、コレクション展
12	令和5年8月2日	報徳看護専門学校	25	芸術家たちの南仏展、コレクション展、バックヤードツアー
13	令和5年9月7日	大田原市立若草中学校 特別支援学級	15	芸術家たちの南仏展、コレクション展
14	令和5年9月14日	塩谷町立大宮小学校	21	芸術家たちの南仏展、コレクション展
15	令和5年9月21日	柿の木幼稚園	60	芸術家たちの南仏展、コレクション展
16	令和5年9月28日	鹿沼市立永野小学校 家庭教育学級	9	コレクション展
17	令和5年10月5日	下野市教育支援センター スマイル教室	16	コレクション展
18	令和5年10月9日	チャレンジドジャパン宇都宮センター	14	コレクション展
19	令和5年10月17日	みふみ認定こども園	44	ヨシタケシンスケかもしれない展、コレクション展
20	令和5年10月17日	文星芸術大学 マンガ専攻	12	ヨシタケシンスケかもしれない展、コレクション展
22	令和5年10月25日	栃木県立鶴学校	3	ヨシタケシンスケかもしれない展、コレクション展

No.	日時	団体名	参加人数	見学内容
23	令和5年11月7日	帝京大学 宇都宮キャンパス	13	ヨシタケシンスケかもしれない展、コレクション展
24	令和5年11月11日	獨協医科大学	21	ヨシタケシンスケかもしれない展、コレクション展
25	令和5年11月16日	宇都宮アート&スポーツ専門学校	41	ヨシタケシンスケかもしれない展、コレクション展
26	令和5年11月16日	日光市立轟小学校5年生	9	ヨシタケシンスケかもしれない展、コレクション展
27	令和5年11月24日	雀宮中央小学校	18	ヨシタケシンスケかもしれない展、コレクション展
28	令和5年12月1日	宇都宮文星女子高校	17	ヨシタケシンスケかもしれない展、コレクション展
29	令和5年12月1日	学校法人KTC学園 おおぞら高等学院宇都宮キャンパス	19	ヨシタケシンスケかもしれない展、コレクション展
30	令和5年12月2日	文星芸術大学 アートハンティング	12	ヨシタケシンスケかもしれない展、コレクション展
31	令和5年12月8日	星の杜中学校	23	ヨシタケシンスケかもしれない展、コレクション展
32	令和5年12月12日	栃木市立西方小学校	29	ヨシタケシンスケかもしれない展、コレクション展
33	令和5年12月15日	文星女子高校	42	ヨシタケシンスケかもしれない展、コレクション展
34	令和5年12月15日	高根沢第二幼稚園	89	ヨシタケシンスケかもしれない展、コレクション展
35	令和5年12月16日	那須塩原市立黒磯中学校	18	ヨシタケシンスケかもしれない展、コレクション展、 バックヤードツアー
合計 団体鑑賞			35団体	787人

宇都宮美術館訪問鑑賞会

担当：石井利香、黒木彩香

当館では平成30年度より、宇都宮市教育委員会文化課と協働し、学校と美術館を結ぶバスを運行しています。

令和5年度は、公募で決定した3校を3日間にわたって迎え入れ、コレクション展、企画展をじっくり

りと鑑賞する時間を設けました。また、各展示の担当学芸員が見どころについて、スライドを上映しながらお話ししました。コレクション展では、作品解説倶楽部の皆さんと作品についてじっくり対話する時間をとりました。



1 宇都宮市立上河内東小学校3年生

日時 令和5年6月1日(木)
午前9時30分～午前11時45分(美術館着～美術館発)

対象 3年生1クラス(26人)

2 宇都宮市立海道小学校6年生

日時 令和5年6月14日(水)
午前9時30分～午前11時50分(美術館着～美術館発)

対象 6年生1クラス(32人)



3 宇都宮市立城山東小学校5・6年生

日時 令和5年9月7日(木)
午前9時30分～午前11時35分(美術館着～美術館発)

対象 5年生1クラス(22人)、6年生1クラス(22人)

トビダス美術館(出張授業)

担当：黒木彩香、古本智恵

当館では平成17年度より、学芸員が宇都宮市内の学校を訪問して授業を行う「トビダス美術館」(出張授業)を実施しています。

令和5年度は、前年度に引き続き、過去の実施例などを参考にしながら学校の先生方と事前に授業の

内容について話し合い、それを踏まえて、担当学芸員がプランを提案・実施しました。今年度は「作品鑑賞」「体験的な内容」「アーティスト招聘」の3タイプの授業を、5校で開催しています。

1 宇都宮市立雀宮東小学校

絵を見る楽しみを発見しよう
おもしろさを言葉で伝えよう

日時 令和5年7月14日(金)
3校時(午前10時45分～11時30分)

対象 4年生1クラス(27人)

担当 藤原 啓

タイトルを伏せたままにして郭熙《早春図》の画像を見ながら、「季節はいつ頃だろう?」「この場所はどこにあるのだろうか?」という問いへの回答を各自で考えてみました。その際、描かれているものを根拠に説明することを心がけてもらいました。次に、タイトルを伏せながらアンリ・マティス《白い象の悪夢(版画集『ジャズ』より)》の画像を見て、描かれているものは何か、作品タイトルは何かを考え、発表してもらいました。最後に、アルブレヒト・デューラー《メレンコリア I》、辰野登恵子《2012の夏》の画像を見て、どちらの作品のどのようなところが好きかについて友達と意見交換をしました。



2 栃木県立宇都宮清陵高等学校

音楽の光景／絵画の響き／書の調べ

日時 令和5年9月11日(月)

3校時(午前10時45分～午前11時30分)

対象 3年生3クラス(37人)

担当 石川 潤

ふだん「音楽」「美術」「書道」の各専攻に分かれて授業を受けている生徒たちを集めての合同授業です。そこで、3つの分野にまたがるような表現についてお話ししました。「うたう」「えがく」「しるす」の交点に位置する中世の楽譜(ネウマ譜)から説き起こし、「生体が交信する波動の表現」という観点から、和歌の連綿体などにも言及。20世紀前半、クレーやカンディンスキーが音楽の富を抽象絵画に取り込むと同時に「記号」の問題にも取り組んでいたこと、そして20世紀後半、自己完結した構造体としての音楽ではなく、雲や波のように浮動し環境音を排除しない「音風景」の世界が探求された際、視覚と聴覚の豊かな交感をもたらされた歴史をたどりました。最後に、音楽・イメージ・文字の協働はとりわけ現代のミュージック・ビデオにおいて、先鋭で親しみやすい感覚表現を開拓していることにも触れました。



3 宇都宮市立西小学校

3色使って花束をつくらう

日時 令和6年1月10日(水)

2～3校時(午前9時35分～午前11時25分)

対象 4年生1クラス(25人)

講師 吉澤 翠氏(水彩画家)

担当 伊藤伸子

水彩絵の具の使い方をアーティストから教わる授業です。花の形に切った和紙と障子紙に、赤青黄色の絵の具にたっぷり水を含ませて1色ずつ塗っていくと、紙の上で自然に混ざり合うグラデーションができます。絵の具の濃さや紙の種類を変えて、花を何枚も作りました。その後、画用紙に花を貼り付けて花束のように仕上げました。3色だけでさまざまな色が作れることを知り、パレットで混ぜない混色方法を楽しむことができました。



4 宇都宮市立篠井小学校

絵を言葉にしてみよう／ 言葉を色で表現しよう

日時 令和5年10月13日(金)

4校時(午前11時35分～12時20分)

対象 4年生1クラス(11人)

担当 黒木彩香、石井利香、古本智恵

①絵にかかれたものを言葉にすること、②言葉から感じとったイメージを絵にすることに挑戦しました。まずはジョルジュ・ビゴー《京都 鴨川祭》やクロード・モネ《睡蓮》、海老原喜之助《雪》の画像を見ながら、「どんな場所?」「気温は?」「天気は?」「時間はいつ?」など、何が描かれた作品であるかを読み解くための質問をしました。絵と似た場所に行ったことがある人は、そのときに感じた温度や音、匂いなど五感の体験を思い出しながら答えてもらいました。次に、ルネ・マグリット《大家族》の輪郭線を抽出したぬり絵風ワークシートに取り組みました。好きな色を塗るのではなく、各人に与えられた抽象的なキーワード(さわやかな、やさしい、さわがしい、など)を色や描きこみで表現することを目指しました。



5 宇都宮市立細谷小学校

陶の楽器を作ろう ー土から作るマラカスづくりー

日時 令和5年12月14日(木)

1～2校時(午前8時30分～10時10分)

対象 6年生3クラス(73人)

講師 保坂朱音氏(アーティスト)

担当 小堀修司、石井利香

アーティスト保坂朱音さんによる陶のマラカス作りの授業。最初にマラカスの中に入れる小さな粘土の球をつくり、新聞紙で丸く包みました。そして、新聞紙ごと粘土でしっかり包み込み、装飾しました。作品は一度回収し、後日、保坂さんに焼いてもらったものを学校に届けました。参加者みながきれいな音が出るように丁寧に造形し、オリジナリティあふれる意匠をこらすことで、魅力的なマラカスができました。



社会体験学習「宮っ子チャレンジウィーク」の受け入れ

担当：黒木彩香、小堀修司

宇都宮市では市立中学校2年生を対象に、社会体験学習「宮っ子チャレンジウィーク」を実施しています。当館では今年度に3校8名の中学生を受け入れました。本年度は、文化財害虫のトラップ調査や作品につい

社会体験学習

宮っ子チャレンジウィーク

対象、参加人数 宇都宮市立雀宮中学校、3人

日時 令和5年10月18日(水)・19日(木)・20日(金)

体験内容

- ①受付・監視員の仕事体験
- ②森のアトリエ準備の補助
- ③作品写真撮影の補助
- ④作品についての調べ学習
- ⑤講義室前の掲示物作成



対象、参加人数 宇都宮市立豊郷中学校、2人

日時 令和5年10月25日(水)・26日(木)・27日(金)

体験内容

- ①受付・監視員の仕事体験
- ②文化財害虫トラップの調査体験
- ③作品写真撮影の補助
- ④作品についての調べ学習
- ⑤講義室前の掲示物作成



対象、参加人数 宇都宮市立城山中学校、3人

日時 令和5年11月8日(水)・9日(木)・10日(金)

体験内容

- ①受付・監視員の仕事体験
- ②図書整理の補助
- ③作品写真撮影の補助
- ④作品についての調べ学習
- ⑤講義室前の掲示物作成



大学との協働

担当：伊藤伸子、小堀修司、石井利香

獨協医科大学との連携

—白衣の中にアートの心を—

令和5年度は、前年度から始まった獨協医科大学と連携した医学生向けの鑑賞活動が一層本格化しました。毎回、大学のバスで当館に来てもらい、作品を前にして対話型鑑賞を行いました。授業のシラバスづくり、実施、期末レポートのコメントまで協働したことで、医学生の見る・話す技術が段々と向上していく様子が分かりました。

講師 森永康平氏(獨協医科大学)

日時 4月19日(水)、5月24日(水)、6月14日(水)、9月6日(水)、
10月11日(水)、12月13日(水)、令和6年3月13日(水)の
午前10時～11時
5月31日(水)、10月4日(水)、10月11日(水)、12月6日(水)
の午後1時30分～2時30分

対象、参加人数 獨協医科大学1年生・病棟実習生、90人



アート・トーク(館外美術セミナー)

担当：小堀修司

没後50+1年 川上澄生と版画の仲間たち

講師 伊藤伸子

日時 令和5年10月26日(木)午前10時～正午

会場 西生涯学習センター

対象、参加人数 西楽アカデミー受講者、21人

宇都宮を拠点に活躍した「木版畫の詩人」川上澄生と、彼とともに職場や地域、学校で創作版畫の同人活動を展開した仲間たちについて解説しました。



美術館にとっての本「展覧会図録」について

講師 前村文博

日時 令和5年11月5日(日)午後2時～午後3時

会場 下野市立国分寺図書館

対象、参加人数 国分寺図書館美術講座受講者、20人

図書館や書店ではあまり目にしない展覧会図録の楽しみ方や活用法について紹介しました。



宇都宮美術館と開催中の企画展について

講師 石井利香

日時 令和5年11月17日(金)午後2時～午後3時

会場 宇都宮市立上河内中央小学校

対象、参加人数 上河内中央小学校PTA会員、10人

美術館の所蔵品と企画展「ヨシタケシンスケ展かもしれない」の解説に加え、親子での美術鑑賞のためのポイントを教育普及事業の実施例とともに伝えました。



地域の宝 世界の宝 旅する画家 松本哲男を語る

講師 松本育子氏(松本哲男氏夫人)、伊藤伸子

日時 令和6年1月21日(日)午後2時～午後3時30分

会場 東生涯学習センター

対象、参加人数 東生涯学習センター講座受講者、150人

松本氏とともに世界中を旅された夫人の育子氏と、小作品やスライドを鑑賞しながらのトークショーを開催しました。



団体鑑賞の受け入れ

担当：小堀修司

令和5年度は、のべ50団体1197人の団体鑑賞を受け入れました。

またその一環として、下記の通り、当館の講義室で学芸員による講座を行いました。

豊郷生涯学習センター 令和5年度地域学講座 まほろば探検塾

第1回 宇都宮美術館コレクション展を楽しむ

講師 黒木彩香

日時 令和5年9月20日(水) 午前9時45分～11時45分

対象、参加人数 講座受講者、42人

宇都宮美術館のコレクション作品を中心に、美術館の楽しみ方、美術館の役割等についての講義を行いました。



第2回 宇都宮の戦後を彩った美術家たち

講師 伊藤伸子

日時 令和6年10月18日(水) 午前9時45分～午前11時45分

対象、参加人数 講座受講者、42人

宇都宮を拠点に活躍した美術家、とりわけ美術館がある豊郷地区にゆかりの深い米陀寛、薄久保友司、松本哲男らについて紹介しました。



館長講座(美術講演会)

担当：伊藤伸子

企画展の関連事業や、コレクション展と連動する美術講座とは異なり、美術に関する幅広いテーマを取り上

げ、館長が自ら講師を務めるスライド・レクチャーです。宇都宮美術館友の会との共催で実施しました。

館長講座

印象派のパトロンたち

講師 佐々木吉晴

日時 令和5年11月23日(木・祝) 午後2時～午後3時30分

会場 講義室

対象、参加人数 一般、46人

フランス革命や産業革命などによって社会そのものが構造的に大きな変貌を遂げようとしていた19世紀後半から世紀末、フランスでサロンの軀(くびき)から脱する新しい絵画に取り組んだ印象派を支えたのは、従来とはまったく異なる階層・職層のパトロンたちでした。今回の講座では、その代表的な数名を通して、印象派の画家たちの活動とその時代を振り返りました。



博物館実習

担当：小堀修司

宇都宮美術館では、下記の条件により、博物館実習生を受け入れています。

対象：現在、大学または大学院に在籍中であり、博物館法施行規則第1条に定められた博物館に関する科目の単位を履修済みまたは履修中の方で、美術館および学芸員職に関心のある者。

応募者多数の場合、以下の条件を満たす者を優先します。

(1)栃木県出身者および県内の大学・大学院に在学する者。

(2)美術・デザインに関する分野を専攻する者。

令和5年度の受け入れはありませんでした。

広報用印刷物

担当：石川 潤

No.	種別	規格	発行	発行部数
1	令和5年度展覧会スケジュール	A4判変形判四つ折り	令和5年3月	20,000部
2	宇都宮美術館news 第50号	A4判	令和5年5月	5,000部
3	宇都宮美術館news 第51号	A4判	令和5年9月	5,000部



森のコンサート

担当：古本智恵

No.	タイトル 出演者(演奏者) 内容	日時	参加人数
第112回	榎田絵梨サクソフォンコンサート ～サクソフォン×ピアノと周る世界の旅～	令和5年5月20日(土)午前11時～	100人
	榎田絵梨(サクソフォン)、弘中佑子(ピアノ)		
	サクソフォンとピアノで世界各国の楽曲を演奏。 演奏曲:「愛の言葉」、「ラブソディ」ほか。		
第113回	響けカルテット! ～青空に響くハーモニー～	令和5年7月22日(土)午前11時～	145人
	NASAs Quartet [弦楽四重奏(Vn2, Va, Vc)]		
	クラシックの楽曲から童謡まで幅広い演目を披露。 演奏曲:「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」、日本の童謡メドレー「夏」ほか。		
第114回	小倉史江 チェンバロリサイタル	令和5年9月16日(土)午前11時～	130人
	小倉史江		
	チェンバロの魅力伝えるソロ・リサイタル。 演奏曲:「樹木の陰で」「人生のメリーゴーランド」ほか。		
第115回	天使の歌声ハンドベルコンサート ～煌めく音に包まれて～	令和5年11月18日(土)午前11時～	135人
	能満寺ハンドベルエコーベルフラワーズ		
	親しみやすい楽曲を中心にしたハンドベル・コンサート。 演奏曲:「威風堂々」「美女と野獣」ほか。		
第116回	森の調べ ～フレンチホルンの世界へ	令和6年3月16日(土)午前11時～	126人
	栃木ホルンクラブ		
	演奏方法の解説も含む、フレンチホルンによる迫力の演奏会。 演奏曲:「バイレーツ・オブ・カリビアン」、「でんでんむし変奏曲」ほか。		
合計		5回	636人

森のアトリエ

担当：小堀修司

宇都宮美術館では、緑豊かな「うつのみや文化の森公園」に「森のアトリエ」を設置し、四季を通して自然と親しめる環境でさまざまなワークショップを開催しています。令和5年度は、彫刻家の中澤安奈氏によるワークショップを開催し、心の形をテーマとした木彫作品づくりに取り組みました。

心の形を彫りだそう

講師 中澤安奈氏(彫刻家)

日時 令和5年10月28日(土)、11月4日(土) 午後1時～4時

会場 森のアトリエ、うつのみや文化の森公園

参加人数 12人

印刷物 チラシ B5判



印刷物 チラシ A4判

自然観察会

担当：石井利香、大垣昌紀、古本智恵、古屋裕子

宇都宮美術館では、平成9年度から、うつのみや文化の森の自然の素晴らしさや大切さを体験し、自然保護の意識を高め、その活動をとおして家族や友人との絆を深めることを目的として、「自然観察会」を開催しています。主な内容として、以下の3つをあげることができます。



3. バッタとあそぼう

- ①生態観察(昆虫・鳥類・植物など)から自然に親しむ知識を学ぶ。
- ②公園で遊ぶなかで、自然を体感する。
- ③自然素材(つる、木の実など)を利用した工作をする。豊かな森のなかで、市民のみなさまに楽しい時間を過ごしていただければと考えています。



4. リースをつくろう



5. 里山の野鳥を観察しよう

No.	タイトル	日時	講師等	参加人数
1	ホタルと夜の生き物観察会	令和5年6月10日(土) 午後7時～午後9時	合田健二 氏、青木章彦 氏、末本一己 氏、田中清貴 氏	43人
2	夏の自然を観察しよう	令和5年7月15日(土) 午前9時～午前11時	合田健二 氏、末本一己 氏、菅井道雄 氏、田中清貴 氏	18人
3	バッタとあそぼう	令和5年10月7日(土) 午前9時～正午	合田健二 氏、遠藤隼 氏、末本一己 氏、菅井道雄 氏	26人
4	リースをつくろう	令和5年11月25日(土) 午前9時～正午	遠藤孝一 氏、遠藤隼 氏、遠藤康子 氏、森嶋佳織 氏	29人
5	里山の野鳥を観察しよう	令和6年3月2日(土) 午前9時～正午	遠藤孝一 氏、遠藤隼 氏、遠藤康子 氏、川田裕美 氏	28人
合計				5回 144人

宇都宮美術館友の会

担当：伊藤伸子

平成9年の発足から10年間活動を続けてきた宇都宮美術館振興会が、平成18年度末をもって解散したことをうけて、平成19年度から「宇都宮美術館友の会」として発足し17年を経過しました。宇都宮美術館の活動を支援し、会員相互の親睦を深めるとともに、教養の向上を図ることにより芸術文化の発展に寄与することを目的としています。さらに、地域との結びつきや生涯学習についても、アートをキーワードに携わっていきたいと考えています。そのため、各種事業を企画・実施しており、友の会の活動を円滑にするために各部会を設置し、自主的な活動をしています。

主な活動は以下のとおりです。

- ①総会・運営委員会の開催(総務部)
- ②U-moaコンサート(総務部)
- ③美術館めぐり(事業部)
- ④広報誌『アートの森』の発行(広報部)
- ⑤県内を中心とした作家の紹介、美術講演会の企画・開催(発見部)
- ⑥「クリスマスのタペ」、「新春のつどい」の開催(事業部)
- ⑦賛助法人会員との懇談会(総務部)
- ⑧子どもフェスタin文化の森(共催)

令和5年度について：

令和5年度の事業の詳細は下段のとおりです。

会員数		令和6年2月1日現在
会員種別	会員数	
一般会員	298 人	
ペア会員	198 組	
賛助個人	21 人	
賛助法人	27 件 (28 口)	
合計	545 口 (544 件)	

令和5年度事業内容

令和5年4月～令和6年3月

No.	事業名	日付	内容	参加人数
1	子どもフェスタin文化の森2023 共催(第11回)	令和5年5月5日(金・祝)	「みる・きく・はすむ…未来のビッグエッグ」	4,000人
2	令和5年度定期総会	令和5年5月14日(日)	令和4年度事業報告・決算、5年度事業計画・予算、役員改選	40人
3	美術館めぐり(埼玉方面／日帰り)	令和5年7月8日(土)	所沢航空発祥記念館、角川武蔵野ミュージアム、渋沢栄一記念館など	40人
4	会報「アートの森」第25号発行	令和5年9月15日(金)	1,000部発行	
5	U-moaコンサート	令和5年10月21日(土)	アンサンブル∞(エイト)	80人
6	作家紹介	令和5年11月19日(日)～12月16日(土)	加藤千代氏(染画作家)の作品を友の会ボードに掲示	
7	美術講演会(館長講座)	令和5年11月23日(木・祝)	佐々木吉晴(宇都宮美術館館長)の講演「印象派のバトロネたち」詳細は「教育普及 館長講座」(p.■)をご覧ください。	46人
8	クリスマスのタペ	令和5年12月9日(土)	コンサート(アトミックス)、お食事	40人
9	会報「アートの森」第26号発行	令和6年2月16日(金)	1,000部発行	

ボランティア

担当：伊藤伸子、小堀修司、大垣昌紀、高橋由美子

宇都宮美術館では、開館以来、さまざまな事業の折にボランティアの方々のお力をお借りしてきました。現在、宇都宮美術館は以下のようなボランティア活動により支えられています。

〔1〕作品解説倶楽部

コレクション展の作品解説を行っています。令和5年度の登録者数は10人でした。

- ①コレクション展ギャラリー・トーク、野外彫刻鑑賞ツアー（1回のみ）
- ②スクール・プログラム ガイド・ボランティア
- ③コレクション展・企画展等の勉強会・研修会
- ④オンライン・コンテンツ作り（作品解説動画と野外彫刻鑑賞ワークシート）

〔2〕事業ボランティア

美術館が主催する教育普及事業にお手伝いいただいています。延べ参加人数は12人でした。

- ①森のコンサート
- ②自然観察会

〔3〕発送ボランティア

企画展のポスター、チラシ等の発送をする活動です。延べ参加人数は31人でした。

〔4〕落ち葉さらいボランティア

うつのみや文化の森及び駐車場内にて、落ち葉等の清掃活動を行います。参加人数は76人でした。

新型コロナウイルス感染症の影響、予防対策とその実践

概要

新型コロナウイルス感染症は、これまで、「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」としていましたが、令和5年5月8日から「5類感染症」になりました。

当館における継続的な対策

アルコール消毒液を用意し、館内各所に継続して設置しました。

受付など、人と人が対面する場所に飛沫防止パーテーションの撤去をしました。

施設の清掃・消毒を徹底しました。

来館者に対して、便器の蓋を閉めて水を流すことお願いする案内サインを洗面所に継続して設置しました。情報コーナーの書籍（一部）について、再設置しました。

利用実績

観覧者数・施設利用状況

月別観覧者数									(単位:日、人)
年月	コレクション展 開催日	観覧者数	1日平均	企画展 開催日	観覧者数	1日平均	合計 観覧者数	1日平均	
令和5年	4月	*26	589	22.7	15	5,682	378.8	6,271	401.5
	5月	26	248	9.5	26	5,060	194.6	5,308	204.2
	6月	26	475	18.3	16	4,819	301.2	5,294	319.5
	7月	26	140	5.4	25	3,612	144.5	3,752	149.9
	8月	19	109	5.7	27	4,422	163.8	4,531	169.5
	9月	26	255	9.8	21	4,389	209.0	4,644	218.8
	10月	26	849	32.7	14	9,401	671.5	10,250	704.2
	11月	26	1,001	38.5	26	22,252	855.8	23,253	894.3
	12月	19	264	13.9	21	22,162	1,055.3	22,426	1,069.2
	1月	—	—	—	—	—	—	—	—
	2月	—	—	—	—	—	—	—	—
	3月	27	480	17.8	19	2,368	124.6	2,848	142.4
合計		247	4,410	17.9	210	84,167	400.8	88,577	406.3

* 4月のコレクション展開催日26日のうち10日(4/4～4/14)の観覧者数(159人)は、 コレクション展チケットにて「二つの教会展」を観覧した数である

観覧者内訳				(単位:人、%)		
区分			コレクション展	企画展	合計	構成比
有料観覧者①	個人	一般	3,187	39,182	42,369	26.9
		大学生・高校生	242	2,223	2,465	1.6
		中学生・小学生	160	4,898	5,058	3.2
		小計	3,589	46,303	49,892	31.7
	家庭の日	一般	—	875	875	0.6
		大学生	—	15	15	0.0
		小計	—	890	890	0.6
	団体	一般	54	766	820	0.5
		大学生・高校生	1	74	75	0.0
		中学生・小学生	0	109	109	0.1
		小計	55	949	1,004	0.6
	宇都宮美術館友の会		53	1,817	1,870	1.2
	小計		3,697	49,959	53,656	34.1
無料観覧者②	引率教職員		9	75	84	0.1
	障がい者		113	2,041	2,154	1.4
	介護者		54	1,458	1,512	1.0
	不徴収	一般	245	423	668	0.4
		大学生・高校生	51	674	725	0.5
		中学生・小学生	148	4,797	4,945	3.1
		未就学児	28	4,871	4,899	3.1
	二つの教会展		—	2,822	2,822	1.8
	エスパール賞藤原彩人展		—	5,297	5,297	3.4
	招待		65	11,750	11,815	7.5
	小計		713	34,208	34,921	22.2
共通観覧者*③		68,685	—	68,685	43.7	
合計(①+②+③)		73,095	84,167	157,262	100.0	

* 共通観覧者とは、企画展のチケットによるコレクション展の観覧者を指す

企画展別観覧者数及び観覧料

展覧会名	開催期間	開催 日数	有料 観覧者	無料 観覧者	共通 観覧者*	合計	1日平均	観覧料	1日平均
コレクション展									
令和4年度 第1回	4月1日(土) ～ 4月2日(日)	2	39	0	899	938	469.0	11,790	5,895
令和5年度 第1回	4月15日(土) ～ 8月20日(日)	110	1,166	195	11,197	12,558	114.2	336,740	3,061
第2回	8月31日(木)～ 12月22日(金)	98	1,915	456	54,514	56,885	580.5	552,750	5,640
第3回	3月1日(金) ～ 3月31日(日)	27	423	57	2,075	2,555	94.6	122,140	4,524
小計**		237	3,543	708	68,685	72,936	307.7	1,023,420	4,318
企画展									
陽威二展	4月1日(土) ～ 4月16日(日)	14	698	1,878	—	2,576	184.0	577,980	41,284
二つの教会展	4月1日(土) ～ 4月16日(日)	14	0	2,822	—	2,822	201.6	0	0
池田満寿夫展	4月30日(日) ～ 6月18日(日)	43	2,278	2,588	—	4,866	113.2	1,937,240	45,052
エスバール賞藤原彩人展	4月30日(日) ～ 6月18日(日)	43	0	5,297	—	5,297	123.2	0	0
芸術家たちの南仏展	7月2日(日) ～ 9月24日(日)	73	7,958	4,465	—	12,423	170.2	7,224,120	98,961
ヨシタケシンスケ展	10月15日(日)～ 12月24日(日)	61	37,369	16,446	—	53,815	882.2	33,890,300	555,579
イヴ・ネッツハマー展	3月10日(日) ～ 3月31日(日)	19	1,656	712	—	2,368	124.6	1,416,840	74,571
小計***		267	49,959	34,208	—	84,167	315.2	45,046,480	168,713
宇都宮美術館友の会		—	—	—	—	—	—	826,450	—
合計		504	53,502	34,916	68,685	157,103	311.7	46,896,350	93,048

* 共通観覧者とは、企画展チケットによるコレクション展の観覧者を指す

* * 4/4 ～ 4/14に、コレクション展チケットで「二つの教会展」を観覧した観覧者数(159人)と観覧料(45,030円)は含まない

* * * 企画展開催日数の小計は、同時開催(陽威二展と教会展、池田展とエスパール展)の各開催日数を含む述べ日数である

年度別観覧者数及び観覧料

年度	区分	コレクション展 観覧者数	観覧料	企画展 観覧者数	観覧料	友の会 観覧料	合計 観覧者数	観覧料
平成30年度	有料観覧者	1,989	550,510	30,612	23,705,120	1,052,750	32,601	25,308,380
	無料観覧者	637		29,373		—	30,010	
	共通観覧者*	45,343		—		—	45,343	
	計**	47,969		59,985		—	117,706	
令和元年度	有料観覧者	2,918	752,750	47,445	42,914,640	1,018,500	50,363	44,685,890
	無料観覧者	663		39,263		—	39,926	
	共通観覧者*	49,821		—		—	49,821	
	計	53,402		86,708		—	140,110	
令和2年度	有料観覧者	1,218	349,480	19,330	16,152,420	860,500	20,548	17,362,400
	無料観覧者	113		21,272		—	21,385	
	共通観覧者*	33,564		—		—	33,564	
	計	34,895		40,602		—	75,497	
令和3年度	有料観覧者	1,903	530,550	4,906	3,614,540	0	6,809	4,145,090
	無料観覧者	455		13,721		—	14,176	
	共通観覧者*	8,340		—		—	8,340	
	計	10,698		18,627		—	29,325	
令和4年度***	有料観覧者	792	232,920	7,553	7,778,780	219,300	8,345	8,231,000
	無料観覧者	73		9,336		—	9,409	
	共通観覧者*	3,075		—		—	3,075	
	計	3,940		16,889		—	20,829	
令和5年度	有料観覧者	3,697	1,068,450	49,959	45,046,480	826,450	53,656	46,941,380
	無料観覧者	713		34,208		—	34,921	
	共通観覧者*	68,685		—		—	68,685	
	計	73,095		84,167		—	157,262	

* 共通観覧者とは、企画展チケットによるコレクション展の観覧者を指す

* * 平成30年度の観覧者数の合計は「拡張コレクション展」(9,752人)を含み「サテライト美術館」の観覧者数を含まない

* * * 令和4年度企画展観覧料は観覧料減免(991,800円)を含む

その他の貸出等件数

件名	件数
講義室貸出	13
写真原版貸出	7
合計	20

組織

公益財団法人うつのみや文化創造財団概要

1. 名称 公益財団法人うつのみや文化創造財団
2. 設立者 宇都宮市
3. 基本財産 1億1千万円
4. 主たる事務所 〒320-8570 栃木県宇都宮市明保野町7番66号
5. 組織

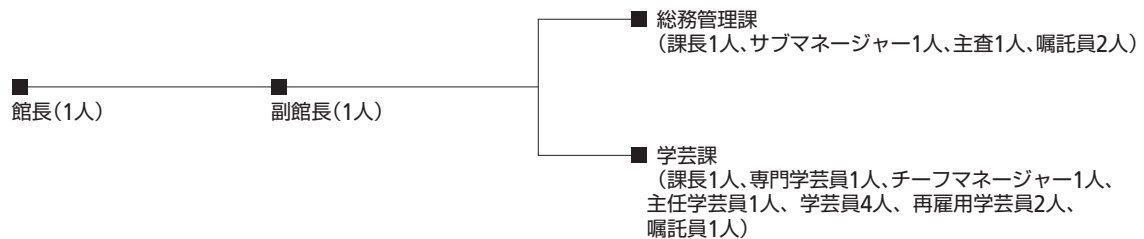


6. 役員等の構成(令和6年3月31日現在)

- ①評議員 15人
- ②理事 12人(うち、理事長1人、副理事長1人、常務理事1人)
- ③監事 2人

宇都宮美術館及びうつのみや文化の森概要

1. 所在地 〒320-0004 栃木県宇都宮市長岡町1077番地
2. 組織体制及び職員数



施設概要・利用案内

建物概要・設備概要

1. 建物概要

- 設計 ―――― 株式会社岡田新一設計事務所
- 監理 ―――― 宇都宮市建設部建築課・設備課、株式会社岡田新一設計事務所
- 施工 ―――― [建築] 大林・渡辺・中村・日豊建設共同企業体
- [電気設備] 関電工・船見・協新建設共同企業体
- [機械設備] 岩原・須賀・河内山建設共同企業体
- [外溝] 日豊工業株式会社、大林・渡辺・中村・日豊建設共同企業体

2. 建築概要

- 敷地面積 263,424 m² (公園全体面積)
- 建築面積 5,036 m²
- 延床面積 9,674 m²
- 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造
- 階数 地下1階、地上2階
- 工期 平成5年12月23日～平成8年8月30日

3. 仕上げ概要

- 外部仕上げ 屋根/コンクリート陸屋根、亜鉛合金複合板
- 壁/大谷石貼り、磁器質ボーダータイル、アルミスバンドル
- 開口部/アルミサッシュ、ステンレスサッシュ
- 外溝/エントランス(広場床):花崗岩
- 内部仕上げ [フロムナード・ギャラリー]
- 床/フローリング(レッドオーク)壁/大谷石貼り(一部 PBVE)天井/ペイマツ練付け CL
- [中央ホール]床/大理石壁/PBVE天井/アルミバンチングメタル
- [コリドール]床/フローリング(レッドオーク)壁/PBVE天井/ペイマツ練付け CL
- [展示室]床/タイルカーベット、フローリング(レッドオーク)壁/EG ウォールEP
- 天井/アルミ格子天井

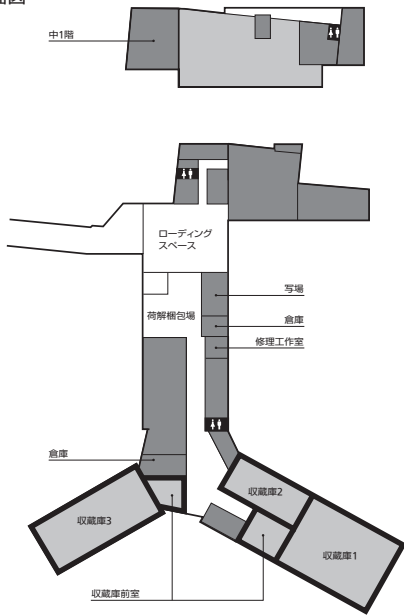
4. 設備概要

- 電気設備 受電電圧3相3線6.6KV
- 設備容量 2,250KVA
- 非常用発電機ガスタービン400KVA (発電出力320kw)
- 通信設備 電話、インターホン、時計
- 防災設備 自動火災報知設備、ガス漏れ火災警報設備、誘導灯、非常用照明、非常警報・放送設備、非常用発電設備、防火シャッター、防火戸、排煙口、排煙窓、排煙ダンパー、排煙ファン、防煙垂れ壁、ITV 設備、消火設備(消火器、屋内消火栓、移動式粉末消火設備、連結送水管、連結散水設備、泡消火設備、二酸化炭素消火設備、簡易自動消火装置)
- 衛生設備 [給水]圧力タンク方式
- [排水]公共下水道
- 空調設備 真空式給湯暖房温水機、スーパーフレックスモジュールチラー、ユニット型空調調和機、ヒートポンプパッケージ型空調調和機、自動制御設備、中央監視制御設備
- 昇降機設備 エレベーター (乗用: 1基/定員13人、荷物用: 3500kg×1基、4000kg×1基)
- 厨房用ダムウェーター (300kg×1基)

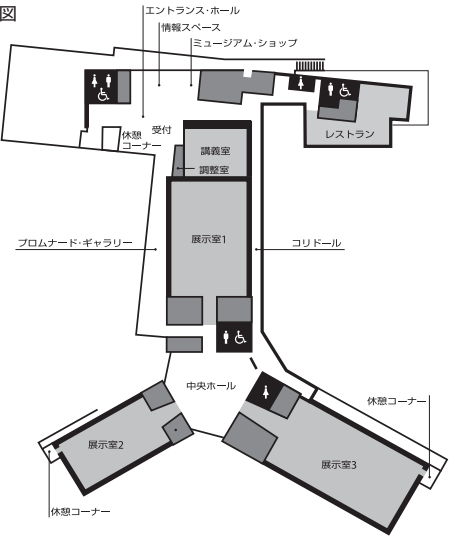
部門別床面積・平面図

区分	部屋名等	床面積
展示部門	展示室1	588㎡
	展示室2	358㎡
	展示室3	633㎡
	準備室(1・2・3)ほか	129㎡
小計		1,708㎡
教育普及部門	講義室	174㎡
	講義室関係諸室(調整室等)	38㎡
	情報スペース	72㎡
	ボランティア室	16㎡
小計		300㎡
調査研究部門	学芸員室・図書資料室	125㎡
	記録保存室	17㎡
	修理工作室	31㎡
	写場	56㎡
小計		229㎡
収蔵部門	収蔵庫1	411㎡
	収蔵庫2	150㎡
	収蔵庫3	286㎡
	収蔵庫前室	74㎡
小計		921㎡
管理部門	役員室	24㎡
	館長室	24㎡
	応接室	24㎡
	事務室・副館長室	84㎡
	会議室	88㎡
小計	事務諸室(中央監視室等)	140㎡
		384㎡
サービス部門	エントランス・ホール	340㎡
	プロムナード・ギャラリー	242㎡
	中央ホール	359㎡
	コリドール	109㎡
	休憩コーナー	219㎡
	レストラン	262㎡
	ミュージアム・ショップ	50㎡
	関係諸室(厨房等)	288㎡
小計		1,869㎡
その他	倉庫、トイレ、廊下、機械室	4,263㎡
	延床面積	9,674㎡

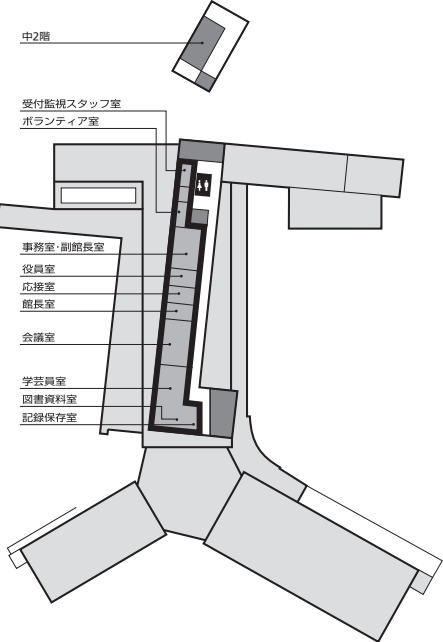
地下1階平面図



1階平面図



2階平面図



利用案内

1. 利用案内

開館時間	午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日	毎週月曜日(祝日の場合は開館し、翌日休館) 祝日の翌日(土曜・日曜・祝日の場合は開館) 年末年始(12月29日～ 1月3日) *このほか、展示替えなどで臨時に休館することがあります。

2. 観覧料

コレクション展	一般	310円(250円)
	大学生・高校生	210円(160円)
	中学生・小学生	100円(80円)
企画展	*消費税込み、()内は20名以上の団体料金	
	企画展観覧料は、その都度設定	
	・宇都宮市在学または在住の高校生以下は観覧無料。	
	・4月1日(市民の日)と11月3日(文化の日)は、宇都宮市民は観覧無料。	
	・企画展開催中の毎月第3日曜日(家庭の日)は、高校生以下の方を含む家族で来館の場合、	
	企画展観覧料が一般・大学生は半額、高校生以下は無料。	
	・身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳の交付を受けている方、	
	および障がい者を介護する方1名は観覧無料。	

3. 交通案内

公共交通	JR東京駅から東北新幹線「JR宇都宮駅」下車(約50分)、 JR宇都宮駅西口5番バス乗り場から関東バス「豊郷台・帝京大学経由宇都宮美術館」行き終点下車(約25分)、 またはタクシー(約20分)。
自動車	東北自動車道「宇都宮インターチェンジ」から約10km、「鹿沼インターチェンジ」から約14km、 北関東自動車道「宇都宮上三川インターチェンジ」から約19km。
駐車場	大型バス10台、普通車約200台(無料)



関係会議・法規

公益財団法人うつのみや文化創造財団理事会

（令和6年3月31日現在）		
公益財団法人うつのみや文化創造財団理事・監事		
氏名	役職	備考
小林陽夫	公益財団法人うつのみや文化創造財団理事長	理事長
佐々木吉晴	宇都宮美術館館長	副理事長
笹原幸恵	公益財団法人うつのみや文化創造財団事務局長 宇都宮市文化会館館長兼務	常務理事
赤羽 薫	洋画家	理事
赤羽根肇	元とちぎ総研専務理事	理事
梓澤昌徳	宇都宮市教育委員会事務局教育次長	理事
鎌田邦義	栃木県交響楽団理事	理事
須賀英之	学校法人須賀学園理事長	理事
妻木律子	舞踊家、一般社団法人現代舞踊協会理事	理事
松江比佐子	特定非営利活動法人チャイルドラインとちぎ監事	理事
三井美紀	株式会社栃木リビング新聞社編集部長	理事
三橋伸夫	うつのみや市政研究センター上席アドバイザー	理事
木村 謙	木村・岡部法律事務所所長	監事
森田美支子	関東信越税理士会宇都宮支部副支部長	監事

理事会開催実績		
開催年月日	会場	備考
令和5年5月24日（水）	宇都宮市文化会館第1会議室	
令和5年6月8日（木）	（書面開催）	決議の省略
令和5年11月10日（金）	宇都宮市文化会館第1会議室	
令和5年12月22日（金）	（書面開催）	決議の省略
令和6年2月7日（水）	宇都宮市文化会館第1会議室	

公益財団法人うつのみや文化創造財団評議員会

（令和6年3月31日現在）		
公益財団法人うつのみや文化創造財団評議員		
氏名	役職	備考
青木克之	宇都宮市行政経営部長	評議員
青木紀一郎	宇都宮美術館友の会会長	評議員
岩本克行	栃木県交響楽団理事兼事務局長	評議員
大野 薫	元校長	評議員
大場文恵	東邦音楽大学特任教授	評議員
川津 聡	株式会社下野新聞社販売事業局販売事業本部長	評議員
清水崇司	学校法人宇都宮メディア・アーツ専門学校理事長	評議員
橋本大輔	株式会社新朝プレス代表取締役社長	評議員
花田千絵	作新学院大学女子短期大学部教授	評議員
福田文子	箏曲演奏家	評議員
船田雅弘	コクヨ北関東販売株式会社代表取締役	評議員
山中陽子	ゴスペル講師、ピアニスト	評議員
吉澤正浩	宇都宮市教育委員会事務局文化課長	評議員
渡邊 弘	作新学院大学学長	評議員
渡邊美津子	宇都宮市子ども会連合会副会長	評議員

評議員会開催実績		
開催年月日	会場	備考
令和5年6月8日（木）	宇都宮市文化会館第1会議室	
令和5年11月22日（水）	宇都宮市文化会館第1会議室	
令和6年2月20日（火）	宇都宮市文化会館第1会議室	

宇都宮美術館協議会

(令和6年3月31日現在)		
宇都宮美術館協議会委員		
氏名	役職	備考
甘利知子	宇都宮美術館友の会副会長	委員
阿良山早苗	日本画家、文星芸術大学非常勤講師	委員
宇賀神俊彦	宇都宮市小学校教育研究会図工部会長、宇都宮市立城山中央小学校校長	委員
粕谷圭司	彫刻家、白鷗大学名誉教授	委員
小杉由美	宇都宮市中学校教育研究会美術部会長、宇都宮市立宮の原中学校副校長	委員
佐藤育宏	小杉放菴記念日光美術館館長	委員
本田悟郎	宇都宮大学教育学部准教授	委員

会議開催実績		
開催年月日	会場	備考
令和6年3月19日(火)	宇都宮美術館会議室	

うつのみや文化の森協議会

(令和6年3月31日現在)		
うつのみや文化の森協議会委員		
氏名	役職	備考
伊村 務	NPO法人オオタカ保護基金理事	委員
遠藤 隼	作新学院大学女子短期大学部サシバの里自然学校校長	委員
大久保達弘	宇都宮大学農学部教授	委員
小倉洋志	豊郷台地区自治会元役員	委員
川田裕美	栃木両生爬虫類の会幹事	委員
須藤一彦	みずほの自然の森公園管理事務所所長	委員
冨澤恵美子	宇都宮市立豊郷中央小学校教諭	委員
村岡 淳	公益財団法人グリーントラストうつのみや事業推進委員	委員

会議開催実績		
開催年月日	会場	備考
令和6年2月19日(月)	宇都宮美術館会議室	

宇都宮美術館条例

平成8年9月27日 条例第34号

【設置】

第1条 美術に関する市民の知識及び教養の向上を図るとともに、市民文化の振興に寄与するため、美術館を設置する。
(令5条例19・一部改正)

【名称及び位置】

第2条 美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。
名称 宇都宮美術館
位置 宇都宮市長岡町1077番地

【事業】

第3条 宇都宮美術館(以下「美術館」という。)において行う事業は、次のとおりとする。
(1)美術品及び美術に関する資料(以下「美術品等」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
(2)美術に関する情報を提供すること。
(3)美術に関する専門的な調査研究を行うこと。
(4)美術に関する展覧会、講演会、講習会等を開催すること。
(5)その他美術館の目的を達成するために必要な事業。

【観覧料】

第4条 美術館に展示されている美術品等を観覧しようとする者は、別表第1に定める観覧料を納付しなければならない。
2 前項の規定にかかわらず、市内に居住し、又は通学する高校生以下の者が観覧するときは、観覧料を徴収しない。
3 第1項の規定にかかわらず、国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第2条に規定する文化の日において、市内に居住する者が観覧するときは、観覧料を徴収しない。
(平14条例19・平15条例31・一部改正)

【使用許可】

第5条 美術館の講義室を使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。
2 教育委員会は、美術館の管理上必要があると認めるときは、前項の許可に条件を付することができる。
(平15条例38・追加)

【使用料】

第6条 美術館の講義室の使用許可を受けた者(以下「使用者」という。)は、別表第2に定める使用料を納付しなければならない。
2 前項に定めるもののほか、設備を使用する使用者は、別表第3に定める使用料を納付しなければならない。
(平15条例38・追加)

【撮影等の許可】

第7条 美術館に保管され、又は展示されている美術品等について、学術研究等のために複写、撮影等(以下「撮影等」という。)をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。
2 教育委員会は、美術館の管理上必要があると認めるときは、前項の許可に条件を付することができる。
3 第1項の許可を受けた者は、別表第4に定める撮影等料金を納付しなければならない。
(平15条例38・旧第5条繰下・一部改正)

【入館の制限】

第8条 教育委員会は、入館者が次の各号の一に該当すると認めるときは、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。
(1)公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあるとき。
(2)美術品等、美術館の施設(以下「施設」という。)又は附属設備をき損し、又は汚損するおそれがあるとき。
(3)施設の管理上支障があると認めるとき。
(4)その他教育委員会が適当でないと認めるとき。
(平15条例38・旧第6条繰下)

【許可の取消し等】

第9条 教育委員会は、使用者又は第7条第1項の規定による許可を受けた者が、次の各号の一に該当すると認めたときは、講義室の使用若しくは撮影等を制限し、又はその許可を取り消すことができる。
(1)この条例又はこの条例の施行規則に違反したとき。
(2)前条各号の規定に該当するとき。
(3)第5条第2項又は第7条第2項の規定に基づく許可の条件に違反したとき。
(4)偽りその他不正な手段により講義室の使用又は撮影等の許可を受けたとき。
(5)その他教育委員会が管理上必要があると認めるとき。
(平15条例38・旧第7条繰下・一部改正)

【観覧料等の減免】

第10条 市長は、特別の理由があると認めるときは、観覧料、使用料及び撮影等料金(以下「観覧料等」という。)の全部又は一部を免除することができる。
(平15条例38・旧第8条繰下・一部改正)

【観覧料等の不還付】

第11条 既納の観覧料等は、還付しない。ただし、市長が特別の理由があると認めたときは、その全部又は一部を還付することができる。
(平15条例38・旧第9条繰下)

【原状回復義務】

第12条 美術品の観覧、講義室の使用又は撮影等をしようとする者は、美術品等、施設又は附属施設を損傷し、又は滅失したときは、教育委員会の指示に従い、速やかにこれを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。
(平15条例38・旧第10条繰下・一部改正)

【目的外使用の許可】

第13条 美術館に附属する食堂又は売店(以下「食堂等」という。)を専用して使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。
2 前項の許可を受けて食堂等を使用する者は、別表第5に定める使用料を納付しなければならない。
3 第10条及び第11条の規定は、食堂等の使用料について準用する。
(平15条例38・旧第11条繰下・一部改正)

【指定管理者による管理】

第14条 教育委員会は、美術館の設置目的を効果的に達成するため、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の

規定に基づく指定管理者(以下「指定管理者」という。)に美術館の管理を行わせることができる。
(平17条例57・全改)

【指定管理者が行う業務の範囲】

第15条 前条の規定により指定管理者に美術館の管理を行わせる場合に当該指定管理者が行う業務は、次に掲げる業務とする。
(1)第3条各号に掲げる事業の実施に関する業務
(2)美術館の利用及び撮影等の許可及び制限並びに入館及びその制限に関する業務
(3)美術館の維持管理に関する業務
(4)前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める業務
2 前項に規定する場合において、第5条、第7条から第9条まで及び第12条の規定の適用については、これらの規定中「教育委員会」とあるのは、「指定管理者」とする。
(平17条例57・追加)

【指定管理者が行う管理の基準】

第16条 指定管理者は、この条例及びこの条例に基づく規則の定めるところに従い、適正に美術館の管理を行わなければならない。
(平17条例57・追加)

【利用料金】

第17条 第15条第1項に規定する場合において、次の各号に掲げる者は、当該各号に定める利用料金を指定管理者に納付しなければならない。
(1)美術館に展示されている美術品等を観覧しようとする者 観覧に係る利用料金
(2)第5条第1項の許可を受けた者 講義室に係る利用料金
(3)設備を利用する第5条第1項の許可を受けた者 設備に係る利用料金
(4)第7条第1項の許可を受けた者 撮影等に係る利用料金
2 第4条、第6条、第7条第3項、第10条及び第11条の規定は、利用料金については、適用しない。
3 第1項に規定する場合において、第5条の規定の適用については、同条の見出し中「使用許可」とあるのは「利用許可」とし、同条第1項中「使用」とあるのは「利用」とし、第9条の規定の適用については、同条中「使用者」とあるのは「第5条第1項の許可を受けた者」と、「使用」とあるのは「利用」とし、別表第3の規定の適用については、同表備考中「使用料」とあるのは「利用料金」と、「使用時間帯」とあるのは「利用時間帯」とする。
4 第1項の規定にかかわらず、市内に居住し、若しくは通学する高校生以下の者が観覧するとき又は国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第2条に規定する文化の日において、市内に居住する者が観覧するときは、観覧に係る利用料金を徴収しない。
5 指定管理者は、第1項の利用料金を自己の収入として収受するものとする。
(平17条例57・追加)

【利用料金の承認】

第18条 利用料金は、別表第1から別表第4までに定める金額の範囲内で指定管理者があらかじめ市長の承認を受けて定めるものとする。これを変更するときも、同様とする。
2 市長は、利用料金が第14条の管理に係る業務の適切な運営に要する費用に照らし妥当なものと認めるときは、前項の承認を与えるものとする。
3 指定管理者は、第1項の承認を受けたときは、速やかにその利用料金を公表しなければならない。
(平17条例57・追加)

【利用料金の減免】

第19条 指定管理者は、市長が特別の理由があると認めるときは、利用料金の全部又は一部を免除することができる。
(平17条例57・追加)

【利用料金の不還付】

第20条 既納の利用料金は、還付しない。ただし、指定管理者は、市長が特別の理由があると認めたときは、その全部又は一部を還付することができる。
(平17条例57・追加)

【委任】

第21条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が定める。
(平15条例38・旧第13条繰下、平17条例57・旧第15条繰下)
附則 この条例は、規則で定める日から施行する。
(令4条例25・旧第1項・一部改正)
附則(平成9年3月24日条例第4号)抄

【施行期日】

1 この条例は、平成9年4月1日から施行する。
附則(平成14年3月25日条例第19号)
この条例は、平成14年4月1日から施行する。
附則(平成15年6月27日条例第31号)
この条例は、平成15年7月1日から施行する。
附則(平成15年12月19日条例第38号)

【施行期日】

1 この条例は、平成16年4月1日から施行する。
附則(平成16年12月27日条例第37号)抄

【施行期日】

1 この条例は、平成17年4月1日(以下「施行日」という。)から施行する。
附則(平成17年6月24日条例第57号)

【施行期日】

1 この条例は、公布の日から施行する。

【経過措置】

2 この条例の施行の際現に改正前の第14条の規定により管理を委託している美術館の管理については、地方自治法の一部を改正する法律(平成15年法律第81号)の施行の日から起算して3年を経過する日(同日前に地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき当該施設の管理に係る指定をした場合には、当該指定に係る期間の初日の前日)までの間は、なお従前の例による。
3 指定管理者に美術館の管理を行わせる場合においては、当該管理を行わせる日前にこの条例による改正前の宇都宮美術館条例の規定により教育委員会がした許可その他の行為又は教育委員会に対してなされた申請その他の行為(同日以後の使用に係るものに限る。)は、この条例による改正後の宇都宮美術館条例の規定により指定管理者がした許可その他の行為又は指定管理者に対してなされた申請その他の行為とみなす。
附則(平成19年12月21日条例第85号)抄

【施行期日】

1 この条例は、平成20年4月1日から施行する。
附則(平成23年3月24日条例第14号)
この条例は、平成23年5月30日から施行する。
附則(平成23年12月20日条例第42号)

この条例は、平成24年3月24日から施行する。
附則(平成26年3月24日条例第2号)抄

【施行期日】
1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。
附則(令和元年7月3日条例第2号)抄

【施行期日】
1 この条例は、令和元年10月1日から施行する。
附則(令和2年12月23日条例第46号)抄

【施行期日】
1 この条例は、令和3年4月1日から施行する。
附則(令和3年3月23日条例第17号)
この条例は、令和3年8月2日から施行する。
附則(令和4年6月30日条例第25号)
この条例は、令和4年9月25日から施行する。
附則(令和5年3月23日条例第19号)
この条例は、令和5年4月1日から施行する。

別表第1（第4条、第18条関係） （平16条例37・全改、平17条例57・平26条例2・令元条例2・令2条例46・一部改正）			
区分		個人	団体（1人につき）
常設展示	一般	310円	250円
	大学生・高校生	210円	160円
	中学生・小学生	100円	80円
特別の企画展示	2,200円の範囲内において 教育委員会がその都度定める額		
備考	1.団体とは、20人以上をいう。		
	2.小学校就学前の者は、観覧料を無料とする。		
	3.特別の企画展示の観覧料を納付した者は、 常設展示の観覧料を無料とする。		

別表第2（第6条、第18条関係） （平16条例37・全改、平17条例57・平26条例2・令元条例2・令2条例46・一部改正）		
施設名	金額	
講義室	午前9時30分から午後0時30分まで	6,820円
	午後1時から午後5時まで	9,090円

宇都宮美術館条例施行規則

平成8年9月27日 教育委員会規則第9号

【趣旨】
第1条 この規則は、宇都宮美術館条例(平成8年条例第34号。以下「条例」という。)第21条の規定に基づき、条例の施行について必要な事項を定めるものとする。
(平15教委規則11・平17教委規則10・一部改正)

別表第3（第6条、第18条関係） （平16条例37・全改、平17条例57・平26条例2・令元条例2・令2条例46・一部改正）	
設備名	金額
音響設備	540円
備考	使用料は、別表第2に規定する1使用時間帯(午前9時30分から午後0時30分まで又は午後1時から午後5時までをいう。)ごとに徴収する。

別表第4（第7条、第18条関係） （平16条例37・全改、平17条例57・平26条例2・令元条例2・令2条例46・一部改正）			
区分		金額	
熟覧	1点1日につき	310円	
模写	1点1日につき	1,840円	
模造	1点1日につき	1,840円	
撮影	学研究を目的とする場合	1点1回につき	610円
	学研究以外を目的とする場合	1点1回につき	3,300円
写真	学研究を目的とする場合	1点1回につき	610円
原版使用	学研究以外を目的とする場合	1点1回につき	3,300円
備考	美術品等は、教育委員会が別に定める場合を除き、各個1点とする		

別表第5（第13条関係） （平16条例37・全改、平19条例85・平26条例2・令元条例2・一部改正）		
区分	金額	
食堂	月額	481,270円
売店	月額	45,560円

(2)休日の翌日(その日が日曜日、土曜日又は休日に当たる場合を除く。)
(3)12月29日から翌年1月3日まで(前2号に掲げる日を除く。)
3 教育委員会は、特に必要があると認めるときは、第1項の開館時間若しくは前項の休館日を変更し、又は休館日以外に臨時に休館することができる。

【観覧券の交付】
第3条 教育委員会は、条例第4条第1項の規定による観覧料を納付した者に、観覧券を交付するものとする。

【使用許可】
第4条 条例第5条第1項の規定により講義室の使用許可を受けようとする者は、講義室使用許可申請書を教育季員会に提出しなければならない。
2 教育委員会は、前項の申請についてこれを許可したときは、使用許可書を交付するものとし、当該許可を受けた者は、許可と同時に講義室の使用料を納付しなければならない。
3 講義室の使用許可を受けた者は、使用に際して、前項の使用許可書を提示しなければならない。
(平15教委規則11・追加)

【撮影等の許可】
第5条 条例第7条第1項の規定により撮影等の許可を受けようとする者は、撮影等許可申請書を教育委員会に提出しなければならない。
2 教育委員会は、前項の申請についてこれを許可したときは、撮影等許可書を当該申請者に交付するものとし、当該許可を受けた者は、許可と同時に撮影等料金を納付しなければならない。
3 撮影等の許可を受けた者は、撮影等に際して、前項の撮影等許可書を提示しなければならない。
(平15教委規則11・旧第4条線下・一部改正、平19教委規則19・一部改正)

【食堂等の使用料】
第6条 食堂及び売店(以下「食堂等」という。)の利用者は、毎月末日までにその翌月分の使用料を納付しなければならない。
(平15教委規則11・旧第5条線下)

【観覧料等の減免】
第7条 条例第10条の規定により観覧料等(食堂等の使用料を含む。以下同じ。)の減免を受けようとする者は、観覧料等減免申請書を教育委員会に提出しなければならない。
2 教育委員会は、前項の申請を承認したときは、観覧料等減免決定通知書を当該申請者に交付するものとする。
3 前2項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めるときは、当該申請書の提出又は当該決定通知書の交付を省略することができる。
(平15教委規則11・旧第6条線下・一部改正)

【観覧料等の還付】
第8条 条例第11条ただし書の規定により観覧料等の還付を受けようとする者は、教育委員会が指定する日までに、観覧料等還付申請書を教育委員会に提出しなければならない。
2 教育委員会は、前項の申請を承認したときは、観覧料等還付決定通知書を当該申請者に交付するものとする。
(平15教委規則11・旧第7条線下・一部改正)

【遵守事項】
第9条 観覧等をしようとする者は、別に定める事項を遵守しなければならない。
(平15教委規則11・旧第8条線下)

【指定管理者に管理を行わせる場合における規定の適用】
第10条 条例第14条の規定により指定管理者に美術館の管理を行わせる場合における第3条の規定の適用については、同条中「教育委員会」とあるのは「指定管理者」とし、「観覧料」とあるのは「観覧に係る利用料金」とし、第4条の規定の適用については、見出し及び同条中「使用許可」とあるのは「利用許可」とし、同条中「講義室使用許可申請書」とあるのは「講義室利用許可申請書」とし、「教育委員会」とあるのは「指定管理者」とし、「使用許可書」とあるのは「利用許可書」とし、「使用料」とあるのは「利用料」とし、「使用」とあるのは「利用」とし、第5条の規定の適用については、同条中「教育委員会」とあるのは「指定管理者」とし、「撮影等料金」とあるのは「撮影等に係る利用料金」とし、第7条の規定の適用については、見出し及び同条中「観覧料等」とあるのは「観覧に係る利用料金等」とし、同条中「観覧料等減免申請書」とあるのは「観覧に係る利用料金等減免申請書」とし、「教育委員会」とあるのは「指定管理者」とし、「観覧料等減免決定通知書」とあるのは「観覧に係る利用料金等減免決定通知書」とし、第8条の規定の適用については、見出し及び同条中「観覧料等」とあるのは「観覧に係る利用料金等」とし、同条中「教育委員会」とあるのは「指定管理者」とし、「観覧料等還付申請書」とあるのは「観覧に係る利用料金等還付申請書」とし、「観覧料等還付決定通知書」とあるのは「観覧に係る利用料金等還付決定通知書」とする。
(平17教委規則10・追加、平19教委規則19・一部改正)

【様式】
第11条 この規則に規定する申請書等の様式は、別に定める。
(平15教委規則11・旧第9条線下、平17教委規則10・旧第10条線下)

【補則】
第12条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。
(平15教委規則11・旧第10条線下、平17教委規則10・旧第11条線下)
附則
この規則は、条例施行の日から施行する。

附則(平成15年12月25日教育委員会規則第11号)
この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附則(平成17年6月24日教育委員会規則第10号)
この規則は、公布の日から施行する。

附則(平成19年3月23日教育委員会規則第19号)
この規則は、平成19年3月31日から施行する。

宇都宮美術館協議会要領

平成9年2月18日 規程第7号

【設置】

第1条 宇都宮美術館の運営について、美術館長の諮問に応じるため、宇都宮美術館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

【組織】

第2条 協議会は、委員6名以上10名以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから館長が委嘱する。

- (1)学識経験を有する者
- (2)社会教育関係者
- (3)学校教育関係者

【委員長】

第3条 協議会に委員長を1人置き、委員がこれを互選する。

2 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指定する委員がその職務を代理する。

【任期】

第4条 委員の任期は2年とし再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

【協議会の招集等】

第5条 協議会は、美術館長の要請により委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 協議会の会議は、委員の2分の1以上が出席しなければ開くことができない。

3 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

附則

この要領は、平成9年4月1日から施行する。

附則

この要領は、平成29年4月1日から施行する。

宇都宮市美術品等収集基金条例

平成8年3月22日 条例第5号

【設置】

第1条 美術品及び美術に関する資料（この条例において「美術品等」という。）の収集を円滑かつ効率的に行うため、宇都宮市美術品等収集基金（以下「基金」という。）を設置する。

【基金の額】

第2条 基金の額は、5億円とする。

【管理】

第3条 基金に属する現金は、金融機関への預金その他最も確実かつ有利な方法により保管しなければならない。

【委任】

第4条 この条例の施行について必要な事項は、市長が定める。

附則

この条例は、平成8年4月1日から施行する。

宇都宮美術館美術作品等収集評価委員会設置要領

【設置】

第1条 宇都宮美術館において収集する美術作品及び美術に関する資料（以下「美術作品等」という。）の収集、評価を適切かつ円滑に行うため、宇都宮美術館美術作品等収集評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

【所掌事務】

第2条 委員会は、前条の設置目的を達成するため、次の事項を審議する。

(1)美術作品等の収集の適否及び評価に関すること。

(2)その他美術に関する専門的な事項に関すること。

第3条 委員会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、美術に関し専門的知識を有する者及び学識経験者のうちから教育長が委嘱する。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員を生じた場合には委員を補充することができる。補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

【臨時委員】

第4条 教育長は、特別の事項を審議するため、必要あるときは、臨時委員を委嘱することができる。

2 臨時委員は、前項の審議が終了したときは、解嘱されるものとする。

【委員長及び副委員長】

第5条 委員会に委員長及び副委員長を1人置き、委員がこれを互選する。

2 委員長は、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

【会議】

第6条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会の議長は、委員長がこれにあたり議事を進行する。

3 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

4 委員は、自己に関係のある美術作品等の審議にあたっては委員会に出席することができない。

5 委員会において、美術作品等の収集、評価に関することを審議したときは、その結果を教育長に報告する。

6 美術作品等の寄贈又は寄託を受ける場合において、委員会を招集する暇がないときの審議方法については、教育長の定めるところによる。

【守秘義務】

第7条 委員は、職務上知り得た秘密をもらしてはならない。その職務を引いた後も、また、同様とする。

【庶務】

第8条 委員会の庶務は、文化課において処理する。

【委任】

第9条 この要領に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

この要領は、平成9年11月27日から施行する。

附則

この要領は、平成21年11月1日から施行する。

うつのみや文化の森協議会要領

平成9年2月18日 規程第6号

【設置】

第1条 うつのみや文化の森の公園施設の運営について、美術館長の諮問に応じるため、うつのみや文化の森協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

【組織】

第2条 協議会は、委員5名以上8名以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから館長が委嘱する。

- (1)学識経験を有する者
- (2)社会教育関係者
- (3)学校教育関係者
- (4)公園管理業務経験を有する者

【委員長】

第3条 協議会に委員長を1人置き、委員がこれを互選する。

2 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指定する委員がその職務を代理する。

【任期】

第4条 委員の任期は2年とし再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

【協議会の招集等】

第5条 協議会は、美術館長の要請により委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 協議会の会議は、委員の2分の1以上が出席しなければ開くことができない。

3 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

附則

この要領は、平成9年4月1日から施行する。

附則

この要領は、平成29年4月1日から施行する。

附則

この要領は、平成30年4月1日から施行する。

第1章 総則

【目的】

第1条 この条例は、別に定めがあるものを除き、市公園の設置、管理等について必要な事項を定め、公園の健全な発達と利用の適正を図り、もって市民の福祉の増進と生活文化の向上に寄与することを目的とする。

【種別及び設置場所】

第8条 公園有料施設の種別及び設置場所は、次のとおりとする。

種別	美術館
設置場所	うつのみや文化の森

(平3条例41・全改、平7条例20・平8条例40・平14条例40・平15条例38・平19条例37・平19条例65・平19条例85・平22条例34・一部改正)

【美術館の管理等】

第33条 この条例の規定(第8条を除く。)にかかわらず、うつのみや文化の森に設置する美術館の管理及び使用料について必要な事項は、別に条例で定める。
(平8条例40・追加、平16条例43・旧第28条繰下)

【指定管理者による管理】

第34条 市長は、公園の設置目的を効果的に達成するため、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づく指定管理者(以下「指定管理者」という。)に公園の管理を行わせることができる。
(平17条例59・追加)

【指定管理者が行う業務の範囲】

第35条 前条の規定により指定管理者に公園の管理を行わせる場合に当該指定管理者が行う業務は、次に掲げる業務とする。
(1)公園有料施設の利用の許可及び制限に関する業務
(2)公園の利用の禁止又は制限に関する業務
(3)公園の維持管理に関する業務
(4)前3号に掲げるもののほか、市長が必要と認める業務
2 前項に規定する場合において、第8条の2及び第8条の3の規定の適用については、これらの規定(第8条の2第5項を除く。)中「市長」とあるのは、「指定管理者」とする。
3 第1項に規定する場合において、第22条の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合には、指定管理者は、公園有料施設の利用の許可を取り消し、又は利用を停止することができる。
(1)公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
(2)偽りその他の不正な手段により、この条例の規定により許可を受けたとき。
(3)第11条又は第19条の規定に違反したとき。
(4)その他公園の管理上必要があるとき。
(平17条例59・追加)

【指定管理者が行う管理の基準】

第36条 指定管理者は、この条例及びこの条例に基づく規則の定めるところに従い、適正に公園の管理を行わなければならない。
(平17条例59・追加)

附則

1 この条例は、公布の日から施行し、昭和29年7月1日から適用する。

附則(平成8年9月27日条例第40号)

この条例は、平成8年10月10日から施行する。ただし、第8条の表に美術館の項を加える改正規定及び第28条を第29条とし、第27条の次に1条を加える改正規定は、うつのみや文化の森の供用開始の告示の日から施行する。

附則(平成16年12月27日条例第37号)抄

【施行期日】

1 この条例は、平成17年4月1日(以下「施行日という。)」から施行する。

附則(平成16年12月27日条例第43号)

この条例は、平成17年1月1日から施行する。

附則(平成17年6月24日条例第59号)

【施行期日】

1 この条例は、公布の日から施行する。

【経過措置】

2 この条例の施行の際現に改正前の第7条の3の規定により管理を委託している公園の管理については、地方自治法の一部を改正する法律(平成15年法律第81号)の施行の日から起算して3年を経過する日(同日前に地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき当該施設の管理に係る指定をした場合には、当該指定に係る期間の初日の前日)までの間は、なお従前の例による。
3 指定管理者に公園の管理を行わせる場合においては、当該管理を行わせる日前にこの条例による改正前の宇都宮市公園条例の規定により市長がした許可その他の行為又は市長に対してなされた申請その他の行為(同日以後の使用に係るものに限る。)は、この条例による改正後の宇都宮市公園条例の規定により指定管理者がした許可その他の行為又は指定管理者に対してなされた申請その他の行為とみなす。

【趣旨】

第1条 この規則は、宇都宮市公園条例(昭和29年条例第27号。以下「条例」という。)第42条の規定に基づき、条例の施行について必要な事項を定めるものとする。
(平11規則34・平17規則74・一部改正)

【指定管理者に管理を行わせる場合における規定の適用】

第14条 条例第34条の規定により指定管理者に公園の管理を行わせる場合における第5条の規定の適用については、同条第1項中「市長」とあるのは、「指定管理者」とする。
(平17規則74・全改、平19規則102・一部改正)

附則

【施行期日】

1 この規則は、昭和38年4月1日から施行する。

附則(平成8年9月27日規則第79号)

この規則は、平成8年10月10日から施行する。ただし、第14条の改正規定中「財団法人宇都宮市体育文化振興公社に」の右に「、うつのみや文化の森の管理を財団法人うつのみや文化の森に」を加える部分は、うつのみや文化の森の供用開始の告示の日から施行する。

附則(平成17年6月24日規則第74号)

この規則は、公布の日から施行する。

附則(平成19年12月21日規則第102号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

宇都宮美術館 No.27 令和5年度(2023.4~2024.3)

令和6年11月20日発行

編集・発行 宇都宮美術館 公益財団法人うつのみや文化創造財団

〒320-0004

栃木県宇都宮市長岡町1077

tel: 028-643-0100 fax: 028-643-0895

©宇都宮美術館2024

アート・ディレクション+デザイン 勝井三雄+中野豪雄

デザイン 大高奈津子

印刷 株式会社山田写真製版所
